佐久市埋蔵文化財調査報告書　第133集

曽根城遺跡Ⅳ
芝宮遺跡群 下曽根遺跡Ⅷ
前田遺跡群 前田遺跡Ⅴ
鋳師屋遺跡群 鋳師屋遺跡Ⅲ

長野県佐久市小田井曽根城遺跡・下曽根遺跡・前田遺跡・鋳師屋遺跡発掘調査報告書

2006. 3

佐　久　市

佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書　第133集

曽根城遺跡Ⅳ
芝宮遺跡群 下曽根遺跡Ⅷ
前田遺跡群 前田遺跡Ⅴ
鋳師屋遺跡群 鋳師屋遺跡Ⅲ

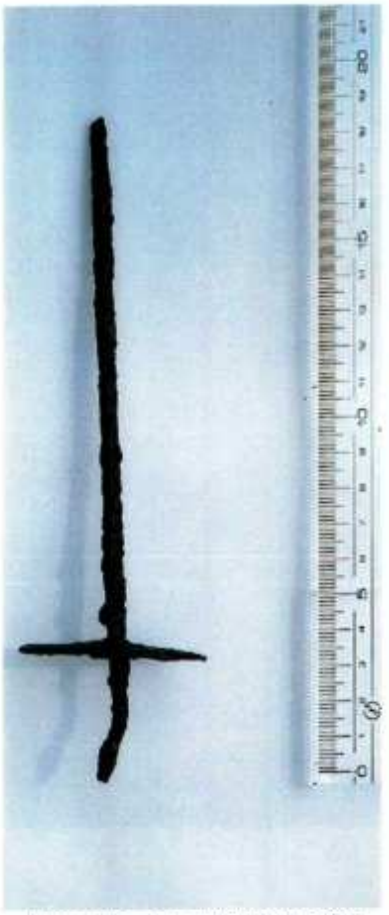
長野県佐久市小田井曽根城遺跡・下曽根遺跡・前田遺跡・鋳師屋遺跡発掘調査報告書

2006. 3

佐　久　市
佐久市教育委員会

曽根城遺跡Ⅳ　H３号住居址出土遺物

曽根城遺跡Ⅳ　D３号土坑出土鎌



曽根城遺跡Ⅳ　Ｈ２号住居址出土紡錘車

曽根城遺跡Ⅳ　Ｈ２号住居址出土刀子

下曽根遺跡Ⅷ　Ｈ２出土鎌・Ｈ５出土刀子・Ｈ９出土針状製品

例　　言

1．本書は佐久市高速交通課による国補　交通安全施設等整備事業に伴う曽根城遺跡Ⅳ、芝宮遺跡群下曽根遺跡Ⅷ（Ｈ１号住居址～Ｈ８号住居址、Ｍ１号溝跡～Ｍ３号溝跡、掘立柱建物址、ピットは昭和59年発行、長野県佐久市遺跡詳細分布調査報告書遺跡番号538に含まれるが、平成17年デジタル化に伴い作成された遺跡地図では同一の台地上であることから芝宮遺跡群に変更となった。）前田遺跡群前田遺跡Ⅴ、鋳師屋遺跡群鋳師屋遺跡Ⅲの発掘調査報告書である。なお、事業対象地内に含まれる小諸地積分における発掘調査は小諸市教育委員会から依頼を受けた佐久市教育委員会が主体となり調査を行った。

2．事業主体者　　佐久市中込3056　　佐久市高速交通課

3．調査主体者　　佐久市中込3056　　佐久市教育委員会　教育長　高柳　　勉（平成15・16年度）
　　三石　昌彦（平成17年度）

4．遺跡名及び発掘調査地

曽根城遺跡Ⅳ（OSJⅣ）佐久市小田井字曽根城188-4．191-3．193-3．194-6．194-7
小諸市大字御影新田字西海地119-5．122-7

芝宮遺跡群下曽根遺跡Ⅷ（OSSⅧ)佐久市小田井字穴沢145-3．131-3．130-6．130-7．129-3

前田遺跡群前田遺跡Ⅴ（OIMⅤ）佐久市小田井字前田346-20．346-18．290-2．311-3.

鋳師屋遺跡群鋳師屋遺跡Ⅲ（OIYⅢ）佐久市小田井字鋳師屋311-3．311-4．303-4．247-3．240-6.

5．調査担当者　　上原　学

6．編集・執筆は上原が行った。

7．本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

8．本遺跡出土の鉄製品保存処理は、株式会社東都文化財研究所に委託した。

凡　　例

1．遺構の略称は以下の通りである。

Ｈ―竪穴住居址　　Ｍ―溝跡　　Ｄ―土坑　　Ｆ―掘立柱建物址　　Ｐ―ピット

2．スクリーントーンの表示は以下のとおりである。

遺　構　　地山断面　　焼　　土　　床下埋土　　粘　　土

遺　物　　須恵器断面　　黒色処理　　灰　　釉　　赤色塗彩

3．挿図の縮尺は以下のとおりである。

遺　構　　竪穴住居址―1/80　　溝跡―1/80　　土坑―1/80　　ピット―1/80

遺　物　　土師器・須恵器―1/4　　石製品―1/4以外は個々に表示　　鉄製品―1/4

4．遺物の写真図版番号と実測図番号は一致する。

5．遺構の標高は各遺構ごとに統一し、水糸高を標高とした。

6．土層・遺物の色調は「新版　標準土色帖」による。

7．調査グリッドは小グリッド４×４m、大グリッド40×40mである。

8．遺物観察表中〈　　〉内の数字は推定値を表す。

目　　次

例言・凡例

目　次

第Ⅰ章　発掘調査の経緯 …… 1

第1節　立地と経過 …… 1
第2節　調査体制 …… 2

第Ⅱ章　遺跡の周辺環境と概要 …… 3

第1節　自然環境 …… 3
第2節　遺跡の概要 …… 4
第3節　周辺遺跡 …… 5
第4節　基本層序 …… 6

第Ⅲ章　曽根城遺跡Ⅳ …… 11

第1節　竪穴住居址 …… 11
第2節　溝跡 …… 20
第3節　土坑 …… 25
第4節　ピット …… 25
第5節　遺構外遺物 …… 26

第Ⅳ章　芝宮遺跡群　下曽根遺跡Ⅷ …… 28

第1節　竪穴住居址 …… 28
第2節　土坑 …… 38
第3節　溝跡 …… 39
第4節　掘立柱建物址 …… 44
第5節　ピット …… 44
第6節　遺構外遺物 …… 45

第Ⅴ章　前田遺跡群　前田遺跡Ⅴ …… 46

第1節　ピット …… 46

第Ⅵ章　鋳師屋遺跡群　鋳師屋遺跡Ⅲ …… 46

第1節　溝跡 …… 46

まとめ …… 47

写真図版

図 版 目 次

図 目 次

第1図 調査区位置図（1：100,000）…… 1
第2図 周辺遺跡地図 …… 6
第3図 基本層序模式図 …… 6
第4図 鋳師屋遺跡Ⅲ・曽根城遺跡Ⅳ 下曽根遺跡全体図（1：1,400） …… 7
第5図 前田遺跡Ⅴ・鋳師屋遺跡Ⅲ 全体図（1：1,400） …… 8
第6図 曽根城遺跡Ⅳ遺構配置図（1：500） …… 9
第7図 下曽根遺跡Ⅷ西側調査区遺構配置図（1：500） …… 10
第8図 下曽根遺跡Ⅷ遺構配置図（1：500） …… 10
第9図 H1号住居址実測図 …… 11
第10図 H1号住居址遺物実測図 …… 11
第11図 H2号住居址実測図 …… 12
第12図 H2号住居址遺物実測図（1） …… 12
第13図 H2号住居址遺物実測図（2） …… 13
第14図 H3号住居址実測図 …… 14
第15図 H3号住居址遺物実測図（1） …… 14
第16図 H3号住居址遺物実測図（2） …… 15
第17図 H4号住居址実測図 …… 17
第18図 H4号住居址遺物実測図（1） …… 17
第19図 H4号住居址遺物実測図（2） …… 18
第20図 H5号住居址遺物実測図 …… 19
第21図 H5号住居址実測図 …… 19
第22図 H6号住居址実測図 …… 20
第23図 H6号住居址遺物実測図 …… 20
第24図 M1号溝跡実測図 …… 21
第25図 M1号溝跡遺物実測図 …… 21
第26図 M2号溝跡遺物実測図 …… 22
第27図 M2号溝跡実測図 …… 22
第28図 M3号溝跡実測図 …… 22
第29図 M3号溝跡遺物実測図 …… 23
第30図 M4号溝跡遺物実測図 …… 24
第31図 M4号溝跡実測図 …… 24
第32図 土坑実測図 …… 25
第33図 ピット実測図 …… 25
第34図 遺構外遺物実測図 …… 26
第35図 H1号住居址実測図 …… 28
第36図 H1号住居址遺物実測図 …… 28
第37図 H2号住居址実測図 …… 29
第38図 H2号住居址遺物実測図 …… 30
第39図 H3号住居址実測図 …… 31
第40図 H3号住居址遺物実測図（1） …… 31
第41図 H3号住居址遺物実測図（2） …… 32
第42図 H4号住居址実測図 …… 32
第43図 H4号住居址遺物実測図 …… 33
第44図 H5号住居址実測図 …… 33
第45図 H5号住居址遺物実測図 …… 34
第46図 H6号住居址遺物実測図 …… 35
第47図 H6号住居址実測図 …… 35
第48図 H7号住居址遺物実測図 …… 36
第49図 H7号住居址実測図 …… 36
第50図 H8号住居址実測図 …… 37
第51図 H8号住居址遺物実測図 …… 37
第52図 H9号住居址実測図 …… 38
第53図 H9号住居址遺物実測図 …… 38
第54図 D1号土坑実測図 …… 38
第55図 M1・2号溝跡実測図 …… 39
第56図 M2号溝跡遺物実測図 …… 40
第57図 M3号溝跡実測図 …… 42
第58図 M3号溝跡遺物実測図 …… 42
第59図 M4号溝跡実測図 …… 43
第60図 M4号溝跡遺物実測図 …… 43
第61図 掘立柱建物址実測図 …… 44
第62図 ピット実測図 …… 45
第63図 遺構外遺物実測図 …… 45
第64図 前田遺跡Ⅴピット実測図（1：250） …… 46
第65図 鋳師屋遺跡Ⅲ遺構図（1：1,000） …… 46

表 目 次

第1表 周辺遺跡表 …… 5
第2表 H1号住居址遺物観察表 …… 11
第3表 H2号住居址遺物観察表 …… 13
第4表 H3号住居址遺物観察表 …… 16
第5表 H4号住居址遺物観察表(1) …… 18
第6表 H4号住居址遺物観察表(2) …… 19
第7表 H5号住居址遺物観察表 …… 19
第8表 H6号住居址遺物観察表 …… 20
第9表 M1号溝跡遺物観察表(1) …… 21
第10表 M1号溝跡遺物観察表(2) …… 22
第11表 M2号溝跡遺物観察表 …… 22
第12表 M3号溝跡遺物観察表 …… 23
第13表 M4号溝跡遺物観察表 …… 24
第14表 遺構外遺物観察表(1) …… 26
第15表 遺構外遺物観察表(2) …… 27
第16表 H1号住居址遺物観察表(1) …… 28
第17表 H1号住居址遺物観察表(2) …… 29
第18表 H2号住居址遺物観察表(1) …… 30
第19表 H2号住居址遺物観察表(2) …… 31
第20表 H3号住居址遺物観察表 …… 32
第21表 H4号住居址遺物観察表 …… 33
第22表 H5号住居址遺物観察表(1) …… 34
第23表 H5号住居址遺物観察表(2) …… 35
第24表 H6号住居址遺物観察表 …… 35
第25表 H7号住居址遺物観察表 …… 36
第26表 H8号住居址遺物観察表 …… 37
第27表 H9号住居址遺物観察表 …… 38
第28表 M2号溝跡遺物観察表 …… 40
第29表 M3号溝跡遺物観察表 …… 42
第30表 M4号溝跡遺物観察表 …… 44
第31表 掘立柱建物址ピット計測表 …… 44
第32表 ピット計測表 …… 45
第33表 遺構外遺物観察表 …… 45
第34表 住居址編年表 …… 48

巻頭カラー

曽根城遺跡Ⅳ H3号住居址出土遺物
曽根城遺跡Ⅳ D3号土坑出土鎌
曽根城遺跡Ⅳ H2号住居址出土砥石
曽根城遺跡Ⅳ H2号住居址出土刀子
下曽根遺跡Ⅷ H2出土鐔・H5出土刀子
H9出土針状製品

本文中

佐久平周辺航空写真（南から） …… 3
曽根城遺跡Ⅳ H4周辺全景（南から） …… 9
曽根城遺跡Ⅳ M1周辺全景（南から） …… 9
曽根城遺跡Ⅳ H1・2周辺（南西から） …… 9
下曽根遺跡Ⅷ全景（東から） …… 10
下曽根遺跡Ⅷ西側調査区全景（東から） …… 10
下曽根遺跡Ⅷ H8号住居址周辺（南から） …… 10

写真図版

図版1
曽根城遺跡Ⅳ北側調査区全景（南から）
曽根城遺跡Ⅳ南側調査区全景（南から）
曽根城遺跡Ⅳ表土除去作業（南から）
曽根城遺跡Ⅳ埋め戻し作業（北から）
図版2
H1号住居址全景（南西から）
H1号住居址相方全景（南西から）
図版3
H2号住居址全景（南から）
H2号住居址刀子出土状況
H2号住居址砥鐘車出土状況
H2号住居址カマド周辺
H2号住居址相方全景（南西から）

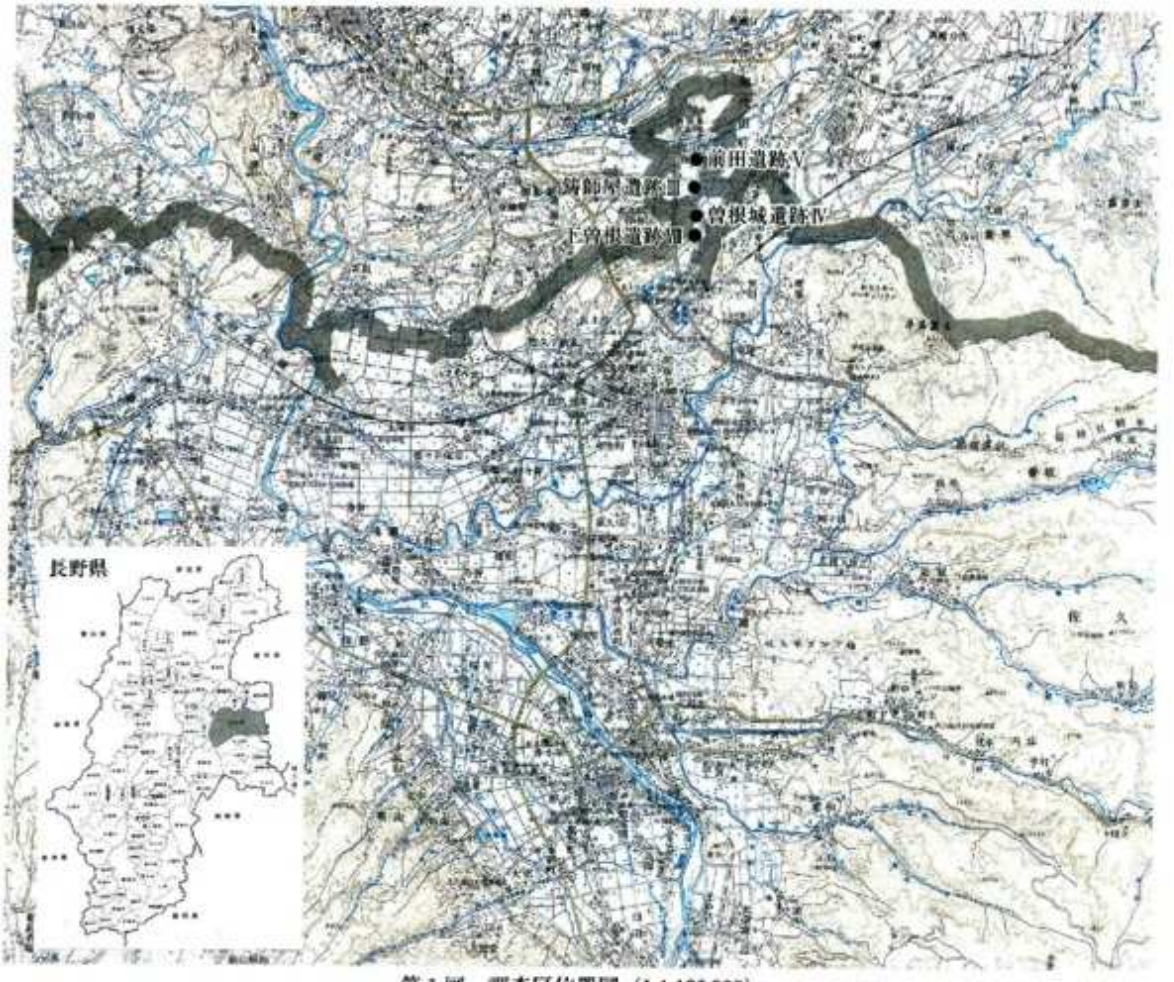
図版 4
H 3号住居址全景（南から）
II 3号住居址カマド（南東から）
H 3号住居址北東コーナー土坑周辺（北東から）
II 3号住居址遺物出土状況
H 3号住居址遺物出土状況
図版 5
H 3号住居址掘方全景（南から）
II 3号住居址カマド掘方（南東から）
H 4号住居址全景（南から）
H 4号住居址カマド（南から）
II 4号住居址カマド（東から）
図版 6
II 4号住居址全景遺物除去後（南から）
H 4号住居址カマド遺物除去後（南から）
II 4号住居址カマド掘方（南から）
H 4号住居址掘方（南から）
II 5号住居址全景（南から）
図版 7
II 6号住居址全景（南から）
M 1・2号溝跡全景（北西から）
図版 8
M 3号溝跡全景（南西から）
M 4号溝跡全景（南から）
M 4号溝跡全景（北東から）
図版 9
曽根城遺跡IV調査風景（南から）
D 1号土坑全景（西から）
D 2号土坑全景（東から）
D 3号土坑全景（東から）
ピット群（北から）
図版10
曽根城遺跡IV H 1・2号住居址遺物
図版11
曽根城遺跡IV H 2・3号住居址遺物
図版12
曽根城遺跡IV H 3号住居址遺物
図版13
曽根城遺跡IV H 3・4号住居址遺物
図版14
曽根城遺跡IV H 4・5・6号住居址遺物
図版15
曽根城遺跡IV H 6号住居址・M 1・2・3号溝跡遺物
図版16
曽根城遺跡IV M 3・4号溝跡、遺構外遺物
図版17
曽根城遺跡IV遺構外遺物
北道遺跡群　下曽根遺跡VIII全景（北東から）
図版18
下曽根遺跡VIII表土除去作業（西から）
下曽根遺跡VIII表土除去作業（南西から）
下曽根遺跡VIII遺構検出状況（東から）
下曽根遺跡VIII埋め戻し作業（南西から）
下曽根遺跡VIII調査風景（東から）
下曽根遺跡VIII調査風景（西から）
図版19
下曽根遺跡VIII西側調査区全景（東から）
下曽根遺跡VIII調査風景（西から）
図版20
II 1号住居址全景（北東から）
H 1号住居址掘削出土状況
H 1号住居址礫石出土状況
H 1号住居址遺物出土状況
H 1号住居址調査風景（西から）
図版21
II 2号住居址全景（西から）
H 2号住居址鉄鏃出土状況
II 2号住居址遺物出土状況
H 2号住居址調査風景（東から）
H 2号住居址掘方（西から）
図版22
H 3号住居址全景（東から）
II 3号住居址遺物出土状況
H 3号住居址遺物出土状況
H 3号住居址全景（東から）
H 3号住居址掘方（西から）
図版23
H 4号住居址全景（西から）
II 4号住居址カマド（西から）
II 4号住居址カマド火床掘り下げ後（西から）
H 4号住居址カマド掘方（北から）
H 4号住居址掘方（西から）
図版24
II 5号住居址全景（南西から）
H 5号住居址カマド（北から）
II 5号住居址遺物出土状況
H 5号住居址内土坑（南西から）
II 5号住居址掘方（南西から）
図版25
II 5号住居址カマド掘方（北から）
H 5号住居址掘方（南西から）
II 6号住居址全景（北から）
H 6号住居址カマド付近（西から）
H 7号住居址全景（北から）
図版26
H 7号住居址掘方（北から）
H 8号住居址全景（南西から）
図版27
II 8号住居址掘方（南西から）
H 9号住居址全景（東から）
図版28
H 9号住居址掘方（東から）
D 1号土坑全景
M 1号溝跡全景（西から）
M 2号溝跡全景（北から）
M 3号溝跡全景（北東から）
M 4号溝跡全景（東から）
下曽根遺跡VIII　H15年度表土除去作業（南東から）
下曽根遺跡VIII　H15年度調査区近景（南から）
図版29
下曽根遺跡VIII H 1・2号住居址遺物
図版30
下曽根遺跡VIII H 2・3号住居址遺物
図版31
下曽根遺跡VIII H 3・4・5号住居址遺物
図版32
下曽根遺跡VIII H 5・6・7・8号住居址遺物
図版33
下曽根遺跡VIII H 8・9号住居址・M 2号溝跡遺物
図版34
下曽根遺跡VIII M 2号溝跡遺物
図版35
下曽根遺跡VIII M 3・4号溝跡、遺構外遺物
図版36
下曽根遺跡VIII H9号住居址出土炭化米
荷山遺跡V・鋳師屋遺跡III遺址（南から）
図版37
荷山遺跡V ピット（南から）
荷山遺跡V調査状況（南から）
荷山遺跡V土層断面
荷山遺跡V調査風景（北から）
図版38
鋳師屋遺跡III調査風景（南から）
鋳師屋遺跡III調査風景（南から）
鋳師屋遺跡III遺構検出状況（南から）
鋳師屋遺跡III溝跡完掘状況（南から）
鋳師屋遺跡III調査状況（北から）
鋳師屋遺跡III溝跡土層断面

第Ⅰ章　発掘調査の経緯

第１節　立地と経過

曽根城遺跡・下曽根遺跡・前田遺跡・鋳師屋遺跡は、佐久市北部に展開し、一部の遺跡は小諸市・御代田町に隣接している。これらは、いずれも浅間山の麓から放射状に延びる標高754～763mを測る田切り地形の細長い台地上に位置する古墳時代から中世を中心とした複合遺跡である。調査区の周辺では北側の前田遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ次、鋳師屋遺跡Ⅰ・Ⅱ次、(圃場整備) 調査区南端の西側、上芝宮遺跡Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、下曽根遺跡Ⅱ～Ⅶ（市道改良）など多くの発掘調査が行われ、各遺跡の所在する台地上は遺構の密集地域であることが確認されている。

今回、佐久市による国補交通安全施設等整備事業に伴い、埋蔵文化財保護協議を事前に行った結果、周辺地域はこれまでの発掘調査状況から遺構の存在が明確であるため、佐久市高速交通課から依頼を受けた佐久市教育委員会が主体となり、遺跡の記録保存を目的として発掘調査を実施する運びとなった。なお、調査地域に一部含まれる小諸地積分については、小諸市から依頼を受けた佐久市教育委員会が調査を行った。



第１図　調査区位置図（1：100,000）

第２節　調査体制

調査受託者	佐久市教育委員会	教育長　高柳　勉（平成15・16年度）				
		三石　昌彦（平成17年度）				
事務局	教育次長	赤羽根寿文				
(平成15年度)	文化財課長	嶋﨑　節夫				
	文化財係長	高村　博文				
	文化財係	林　幸彦	三石　宗一	須藤　隆司	小林　眞寿	
		冨沢　一明	上原　学	赤羽根太郎	出澤　力	
	調査主任	佐々木宗昭	森泉かよ子			
	調査副主任	堺　益子				
事務局	教育次長	赤羽根寿文				
(平成16年度)	文化財課長	小林　正衛				
	文化財係長	高村　博文				
	文化財係	林　幸彦	須藤　隆司	小林　眞寿	羽毛田卓也	
		冨沢　一明	上原　学	赤羽根太郎	出澤　力	
	調査主任	佐々木宗昭	森泉かよ子			
	調査副主任	堺　益子				
事務局	教育次長	梅沢　健一				
(平成17年度)	文化財課長	中山　悟				
	文化財保護係長	高村　博文				
	文化財調査係長	髙柳　正人				
	文化財保護係	荻原　留美				
	文化財調査係	林　幸彦	須藤　隆司	小林　眞寿	羽毛田卓也	
		冨沢　一明	神津　格（10月～）		上原　学	
		赤羽根太郎（4～9月）	出澤　力			
	調査主任	佐々木宗昭	森泉かよ子			
	調査副主任	堺　益子				
調査担当者	上原　学					
調査員	浅沼ノブ江	阿部　和人	市川　昭	岩崎　重子	碓氷　知子	
(平成15～17年度)	江原　富子	小幡　弘子	柏木　貞夫	柏木　義雄	菊池　喜重	
	小林まさ子	小山　功	佐藤志げ子	比田井久美子	細萱ミスズ	
	中島とも子	中嶋フクジ	真鳴　保子	宮川百合子	武者　幸彦	
	百瀬　秋男	渡邊久美子	渡辺　長子			

第Ⅱ章　遺跡の周辺環境と概要

第１節　自然環境

佐久地域は、周辺を山地・台地に囲まれた盆地状を呈し、一般に佐久平と呼ばれ、北には現在も活動を続け白煙を立ち上らせる浅間山、南方に蓼科山が存在する。東方には北関東山地の北端が延び、群馬県との境をなしている。西方には御牧原・八重原といった台地が広がり、立科西方の裾野と接している。そして、佐久平を大きく二分するように一級河川である千曲川が南方の南佐久方面から沢筋の支流を集めながら水流を増しつつ佐久市内に流れ込む。市内に入った千曲川は、野沢付近まで北流し、川筋をやや北西方向に変え、立科山麓の支流を集めた片貝川、浅間の東麓に源を発す湯川、関東山地からの支流である田子川、志賀川などを集めた滑津川と合流し市外へと至る。

佐久地域は地質学的にも南北で大別でき、この境界は、佐久平のほぼ中央である志賀川が滑津川と合流して千曲川に注ぐ東西線を境として、河川の北側段丘上は680m、南側は650mを測り、30m内外の比高差の断崖を認めることができる。北部地域は、北の浅間山麓末端部の平坦な台地で、浅間山の噴火によって台地上に堆積した軽石流が長い年月の間に深くえぐり取られ、浅間の麓から放射状に幾筋もの浸食谷（田切り）を形成し、切り立った断崖により台地を細長く分断している。

これに対し、南側地域は千曲川の氾濫源沖積地と滑津川の谷口扇状地となり、河川礫層と沖積粘土地帯で、周辺は広く水田として利用されている。今回調査対象となった遺跡周辺地域は佐久市北部の標高754m～763mを測る田切り地形の台地上に位置する。

佐久平周辺航空写真（南から）　写真中央の東西に延びる林に沿って比高差が認められる

第2節　遺跡の概要

遺　跡　名　前田遺跡群　前田遺跡Ⅴ、鋳師屋遺跡群　鋳師屋遺跡Ⅲ、曽根城遺跡Ⅳ、
芝宮遺跡群　下曽根遺跡Ⅶ

所　在　地　佐久市小田井字前田、鋳師屋、曽根城、穴沢　小諸市大字御影新田字西海地
詳細は例言参照

調査期間　平成15年10月８日～11月26日（現場）
平成16年７月26日～８月25日（現場）
平成15年11月27日～平成18年３月25日（整理）

調査面積　曽根城遺跡336㎡　下曽根遺跡304㎡　前田遺跡120㎡　鋳師屋遺跡675㎡

調査遺構

曽根城遺跡Ⅳ　竪穴住居址６軒（古墳～奈良時代１軒　奈良時代１軒　平安時代３軒　不明１軒）
土　　坑　３基
溝　　跡　４条（古墳時代～中世）
ピット
出土遺物　土師器（坏・碗・甕・壺・鉢）　須恵器（坏・甕）
灰釉陶器（皿・碗・壺）　鉄製品（紡錘車・鎌・刀子）
石器・石製品（すり石・砥石・蔵石・石鍬）

下曽根遺跡Ⅶ　竪穴住居址９軒（奈良時代３軒、平安時代６軒）
土　　坑　１基（縄文時代　落し穴）
溝　　跡　４条（中世？）
掘立柱建物址　１棟
ピット
出土遺物　土師器（坏・碗・甕）　須恵器（坏・甕・壺・蓋）
灰釉陶器（皿・碗・壺）　陶器（擂鉢）
土錘、鉄製品（針状製品）　石製品（砥石・搗臼）、炭化米

前田遺跡群　前田遺跡Ⅴ　　ピット

鋳師屋遺跡群　鋳師屋遺跡Ⅲ　溝　　跡

調査の成果

今回の調査地域は南北に細長く、幅３ｍ前後と限られた調査範囲であったが、調査区北側では主に溝跡が、南側では古墳・奈良平安の住居址、中世と推察される溝跡等の遺構を確認することができた。各遺跡を含めた全体の調査遺構は縄文時代の落し穴１基、古墳時代から奈良時代の住居址１軒・奈良時代の住居址４軒、平安時代の住居址９軒、不明１軒、溝跡11条、土坑４基（縄文落とし穴１基、他３基）、ピット群である。遺物は日常使用されていた土器（土師器・須恵器・灰釉陶器）、糸紬に利用する紡錘車、鎌、刀子、針状製品といった鉄製品が出土し、須恵器の中には墨で「万」と書かれた墨書土器、焼成前にヘラなどで漢字を刻み込んだ刻書土器が含まれていた。また、Ｈ７号住居址覆土内からは炭化した米粒が出土した。

第3節　周辺遺跡

前田遺跡、鋳師屋遺跡、曽根城遺跡、下曽根遺跡は佐久市北部に位置し、それぞれ浅間山の麓から放射状に延びる田切り地形の細長い台地上に展開する。遺跡周辺は特に田切りが発達した地域で、周辺の台地上には古墳時代から中世を中心とする遺跡が所在し、発掘調査も数多く行われている。

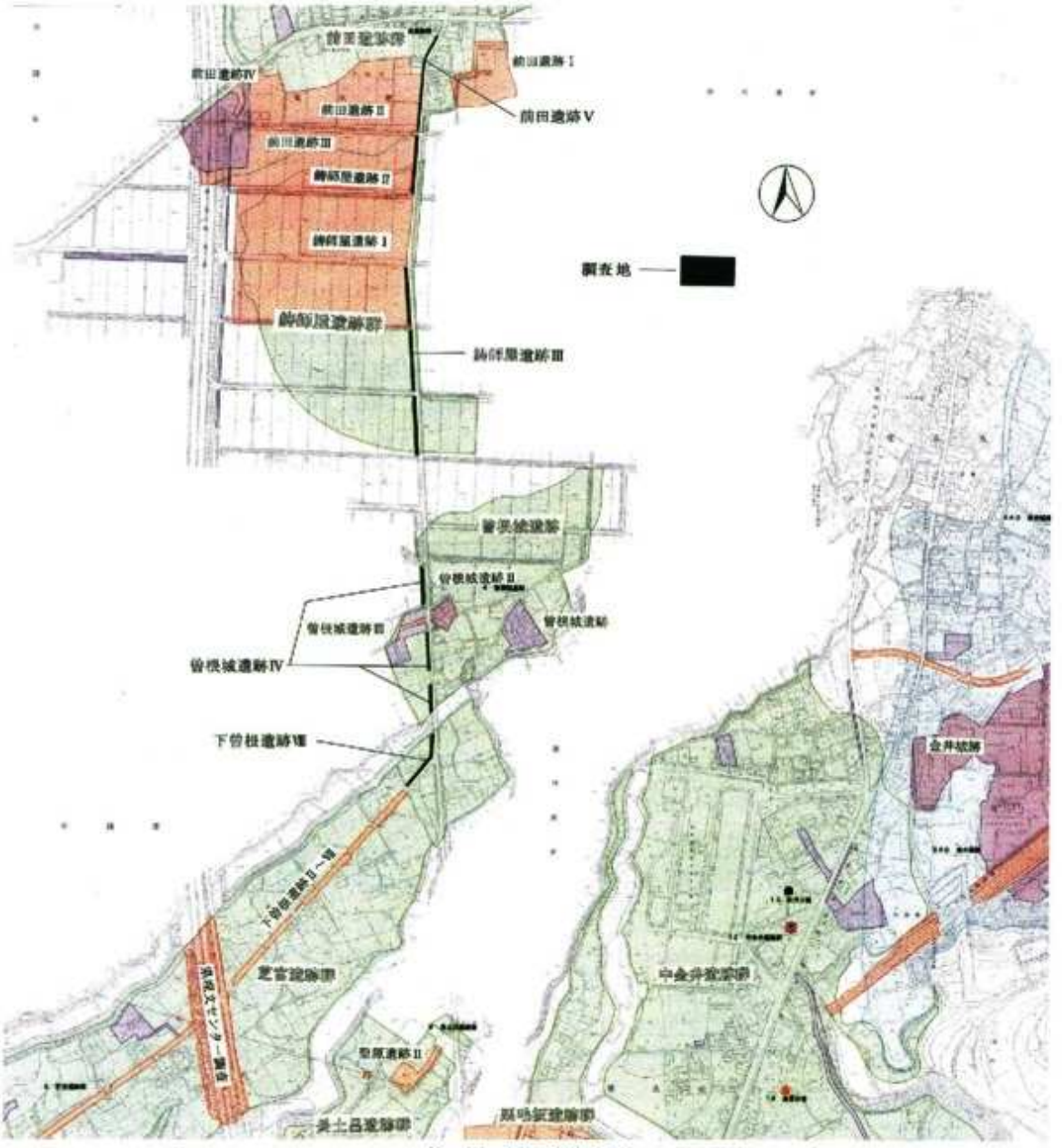
前田遺跡の所在する佐久市北部地域は小諸市、御代田町が接し、周辺の圃場整備事業実施に伴い協議を重ねた結果、昭和59年から前田遺跡南に位置する鋳師屋遺跡Ⅰ次、御代田町野火付遺跡の調査が開始された。昭和60年には前田遺跡Ⅰ次、鋳師屋遺跡Ⅰ次、御代田町前田遺跡が、昭和61年には前田遺跡Ⅱ次、御代田町十二遺跡及び小諸市鋳物師屋遺跡の調査が、昭和62年には前田遺跡Ⅲ次、御代田町根岸遺跡の調査が行われ、古墳時代から中世の遺構・遺物が数多く発見されている。このうち本市調査分の面積は48,000㎡におよび、調査遺構は住居址191軒、井戸跡21基、土坑882基、墓壙９基、竪穴状遺構40基、溝状遺構36条にのぼる。近年では、高速自動車道側道改良に伴う前田遺跡Ⅳの調査が行われ、古墳、奈良平安時代の住居址が発見されている。

前田遺跡の田切りを挟んだ南側の台地上に所在する曽根城遺跡では、平成３年、遺跡内において試掘調査が行われ、奈良時代の住居址１軒を確認している。平成８年には宅地造成に伴い試掘調査が行われ、住居址７軒等が確認され、翌年、遺構が破壊される地域の本調査を、平成13年には宅地造成に伴う試掘調査を行い、14軒の住居址を確認し、翌年、進入道路部にかかる平安時代の住居址３軒、掘立柱建物址１棟、ピットの本調査を実施している。

さらに、曽根城遺跡の田切りを挟んだ南側台地上に所在する芝宮遺跡群では、これまで数多くの試掘、本調査が行われている。今回の発掘地域近くでは平成６～12年度にかけて道路改良に伴う上芝宮遺跡Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、下曽根遺跡Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶの調査が行われ、上芝宮遺跡からは古墳時代後期・平安時代の住居址６軒等、下曽根遺跡からは古墳時代後期・平安時代の住居址109軒等が確認され、土器など生活用具を中心とする多数の遺物が出土している。特徴的な遺物としては円面硯、底部に朱墨書の灰釉陶器、内面に朱が付着した土師器坏、焼印状鉄製品、銅製の帯金具をあげることができる。また、芝宮遺跡群下曽根遺跡の展開する台地東端は、曽根城跡（平成17年度遺跡地図デジタル化に伴い同一台地上であるため芝宮遺跡群に含む）と称され中世遺構の館跡が存在していたとされている。

No.	遺跡名	所在地	立地	旧	縄	弥	古	歴	中	近	備考
1	前田遺跡Ⅰ	佐久市小田井字田原	水田				○	○			S60年度調査
2	前田遺跡Ⅱ	佐久市小田井字前田	水田				○	○	○		S61年度調査
3	前田遺跡Ⅲ	佐久市小田井字前田	水田		○		○	○	○		S62年度調査
4	前田遺跡Ⅳ	佐久市小田井字前田	水田				○	○			H12年度調査
5	鋳師屋遺跡Ⅰ	佐久市小田井字鋳師屋	水田				○	○	○		S59年度調査
6	鋳師屋遺跡Ⅱ	佐久市字前田	水田				○	○	○		S60年度調査
7	金井城跡	佐久市小田井	畑地他						○		S63・H1・2年度調査
8	曽根城遺跡	佐久市小田井	畑地		○	○	○	○	○		H4年度調査
9	曽根城遺跡Ⅱ	佐久市小田井	畑地				○	○	○	○	H9年調査
10	曽根城遺跡Ⅲ	佐久市小田井	荒地					○			H15年度調査
11	下曽根遺跡Ⅰ～Ⅶ	佐久市小田井	畑地				○	○			H6～12年度調査
12	聖原遺跡	佐久市長土呂上聖原他	畑地				○	○			H1～7年度調査
13	聖原遺跡Ⅱ	佐久市長土呂	畑地				○	○			H1年調査
14	前藤部遺跡	佐久市小田井	荒地					○	○		H8・9年度調査

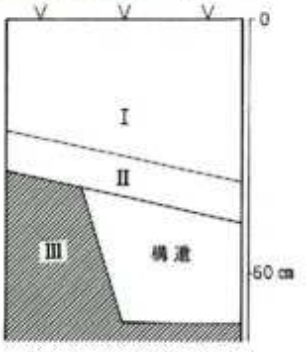
第１表　周辺遺跡表



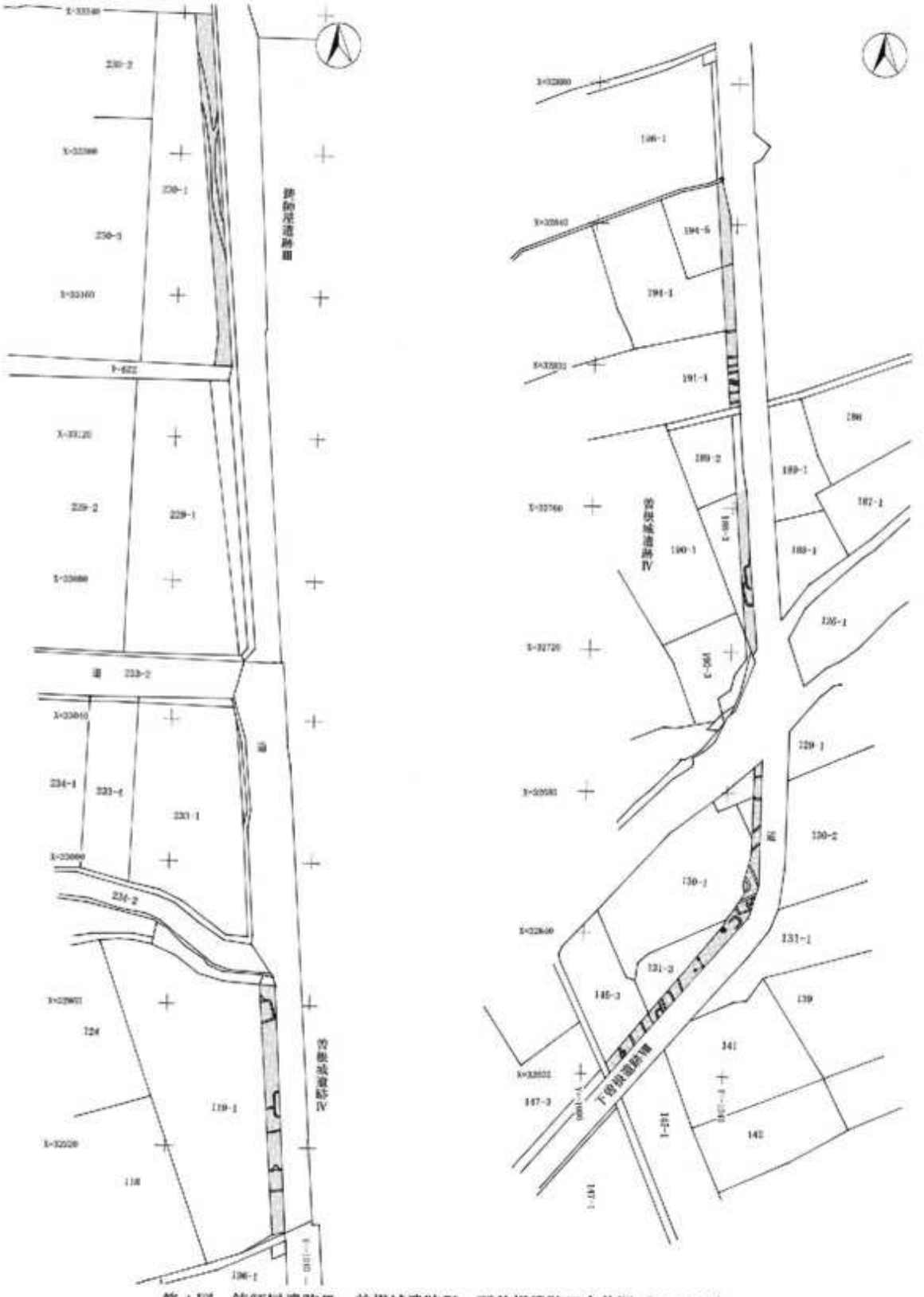
第２図　周辺遺跡地図

第4節　基本層序

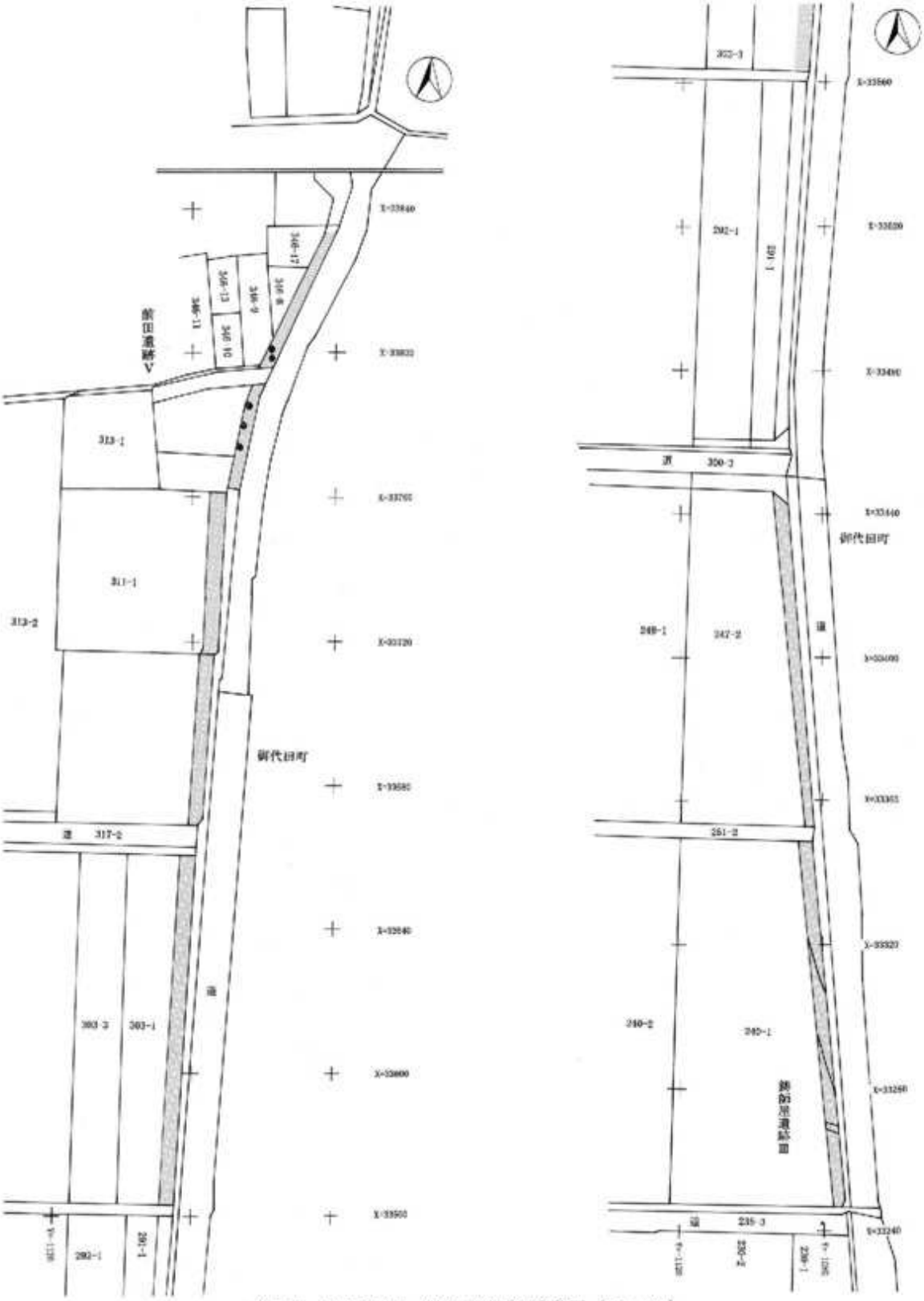
遺跡の所在する佐久市北部の台地は、現在の浅間山が形成される以前、2800ｍを超える火山であった黒斑火山が山体を吹き飛ばす大噴火の後、現在の浅間山の中心をなす前掛山に成長する長い期間に軽石流及び降下火山灰が大きく２度に渡り堆積した。その厚さは20ｍを超え、下層から第一軽石流（P1）・第二軽石流（P2）と称し、現在はこの堆積した黄褐色土を表土である黒色土が被っている。よって基本層序は上層から表土である黒色耕作土、黄褐色ロームとなる。遺構確認面は黄褐色ローム上面である。



第３図　基本層序模式図



第４図　鋳師屋遺跡Ⅲ・曽根城遺跡Ⅳ・下曽根遺跡Ⅷ全体図（1：1,400）

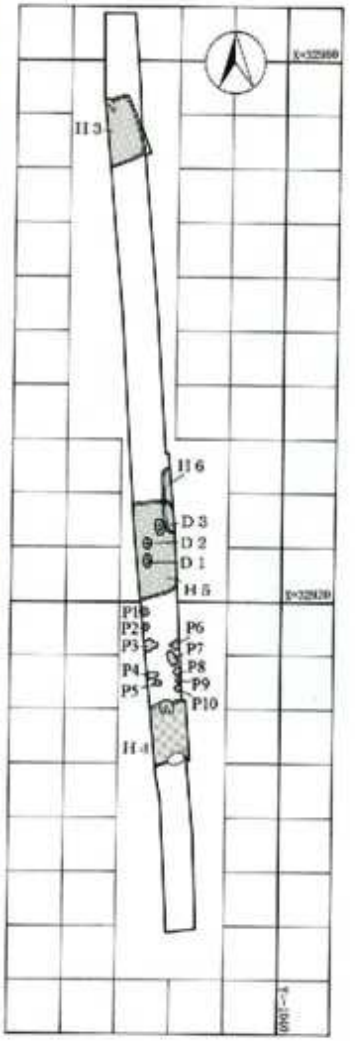


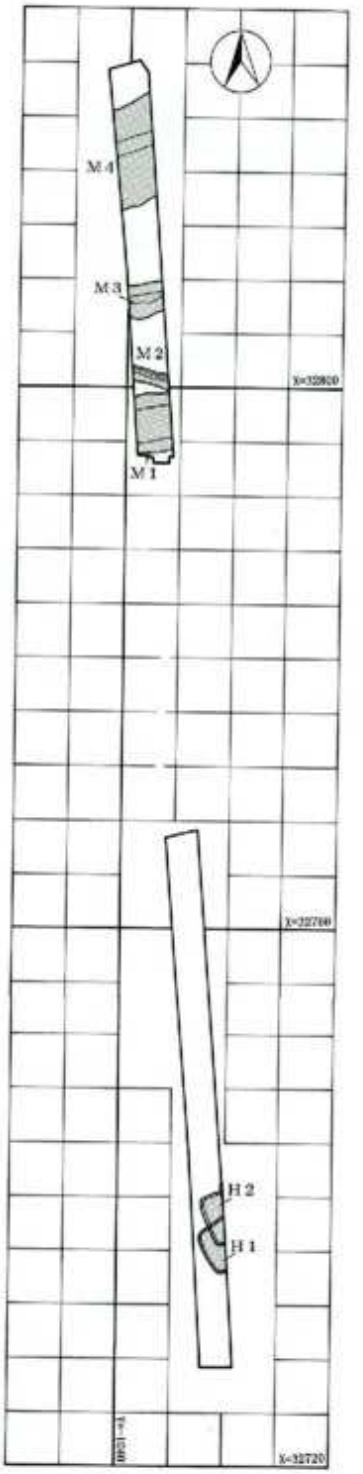
第5図　前田遺跡Ⅴ・鋳師屋遺跡Ⅲ全体図（1：1,400）

曽根城遺跡ⅣＨ４周辺全景（南から）

曽根城遺跡ⅣＭ１周辺全景（南から）

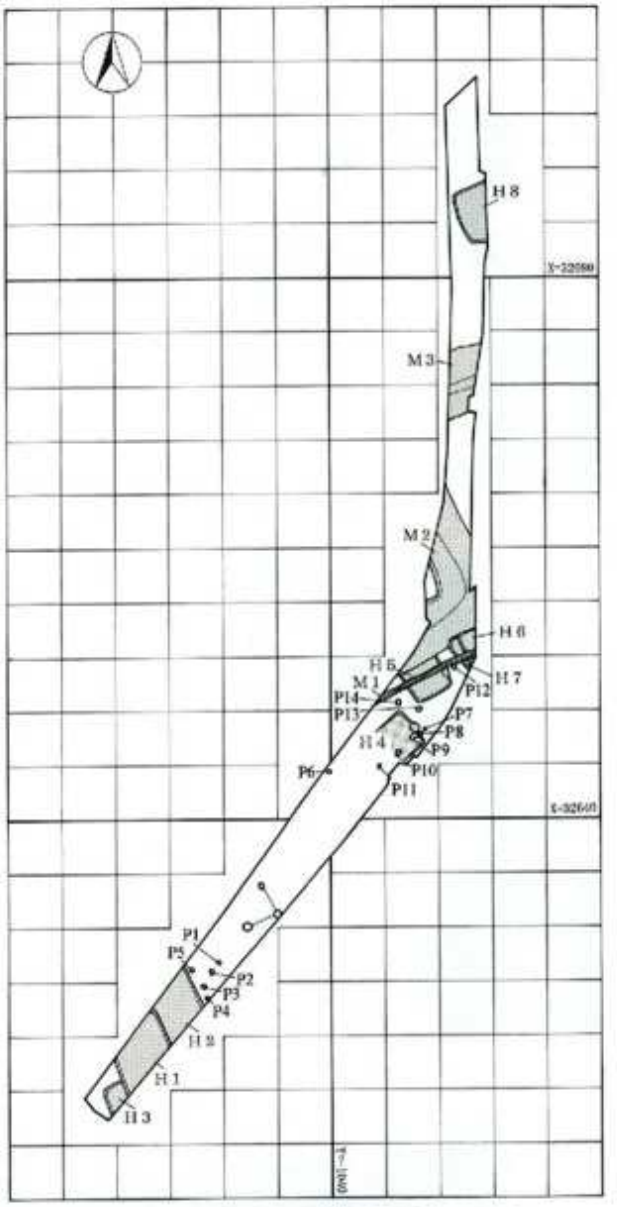
曽根城遺跡ⅣＨ１・２周辺（南西から）

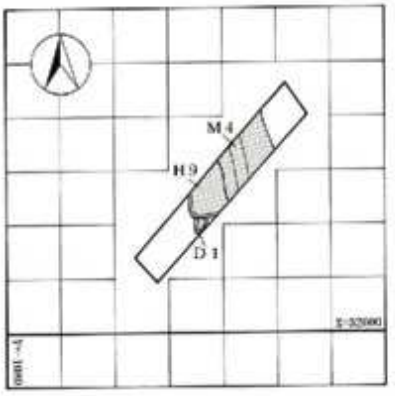




第６図　曽根城遺跡Ⅳ遺構配置図（1：500）

下曽根遺跡Ⅶ全景（東から）





第7図　下曽根遺跡Ⅶ西側調査区遺構配置図(1:500)

第８図　下曽根遺跡Ⅶ遺構配置図（1：500）

下曽根遺跡Ⅶ西側調査区全景（東から）

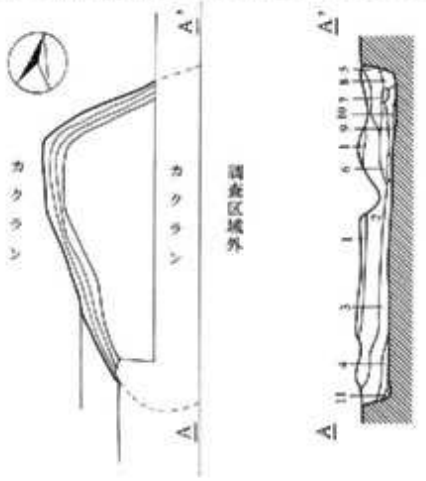
下曽根遺跡ⅦＨ８号住居址周辺（南から）

第Ⅲ章　曽根城遺跡Ⅳ

第１節　竪穴住居址

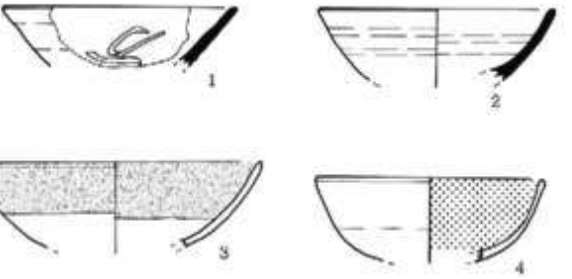
Ｈ１号住居址

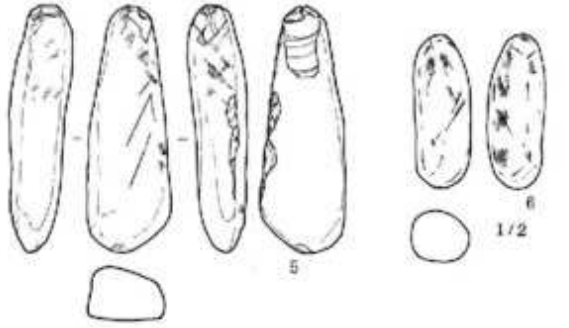
遺構東側の大半は調査区域外となり、調査区域内も南北方向に設置された灌水によって破壊されている。確認できたのは北西コーナーを含めた一部分であり、Ｈ２を切る。確認できた規模は北壁1.5m、西壁３m、確認面から床面までの深さは32cmを測る。平面形は北西コーナーの形状から方形と考えられる。床面はほぼ平坦で固く、壁際に周溝が認められた。ピットは確認できなかった。カマドは調査区内では確認できなかったが、住居址北壁の延長線上にあたる東側土層断面に火床らしき焼土の堆積層が認められた。調査区内に存在すると予測される西袖は灌水設置によって破壊されていると考えられる。遺物は土師器・須恵器・灰釉陶器片が出土した。住居址の年代は灰釉陶器が含まれ、９世紀前半のＨ２号住居址を切ることから平安時代、９世紀後半としたい。



1．黒褐色土　（10YR2/2）　ローム粒、炭化物少量。
2．黒褐色土　（10YR3/4）　ローム粒、炭化物少量。
3．暗褐色土　（10YR3/4）　ローム粒、小石多、炭化物少量。
4．暗褐色土　（10YR3/3）　ローム粒、小石少量。
5．暗褐色土　（10YR3/3）　ローム粒多く、焼土、炭化物含む。
6．暗褐色土　（10YR3/4）　ローム多量、炭化物含む。
7．暗赤褐色土（2.5YR3/6）　焼土層。
8．鈍い黄褐色土（10YR4/3）ローム主体。焼土少量。
9．暗褐色土　（10YR3/4）　焼土、炭化物、ローム含む。
10．暗赤褐色土（2.5YR3/4）　焼土層。（火床）
11．鈍い黄褐色土（10YR4/3）ローム主体。締まりなし。

第９図　Ｈ１号住居址実測図





第10図　Ｈ１号住居址遺物実測図（No.６のみ1/2）

番号	器種	器形	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	調整・文様	残存率・部位	焼成	色調（外面）
1	須恵器	坏	(13.9)	—	—	内外面ロクロナデ　墨書「万」	口縁破片	良好	2.5Y7/1 灰白色
2	須恵器	坏	(14.0)	—	—	内外面ロクロナデ	口縁破片	良好	10YR6/1 褐灰色
3	灰釉陶器	椀	(17.4)	—	—	内外面ロクロナデ　灰釉付着　内面墨痕あり	口縁破片	良好	10YR6/1 褐灰色
4	土師器	坏	(13.7)	—	—	内面黒色処理	口縁破片	良	5YR6/4 鈍い橙色

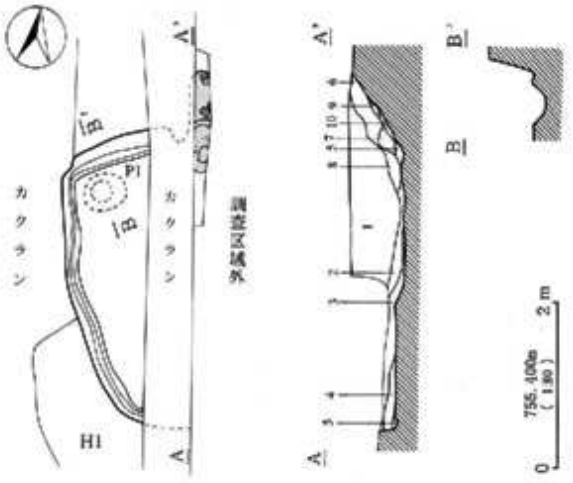
番号	器種	石材	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	備考
5	すり・磨石	輝石安山岩	14.5	5.1	3.7	360	両端敲打痕・両側面磨痕・表面磨滅痕
6	１ガキ石	安山岩	4.6	1.7	1.5	8	

第２表　Ｈ１号住居址遺物観察表

Ｈ２号住居址

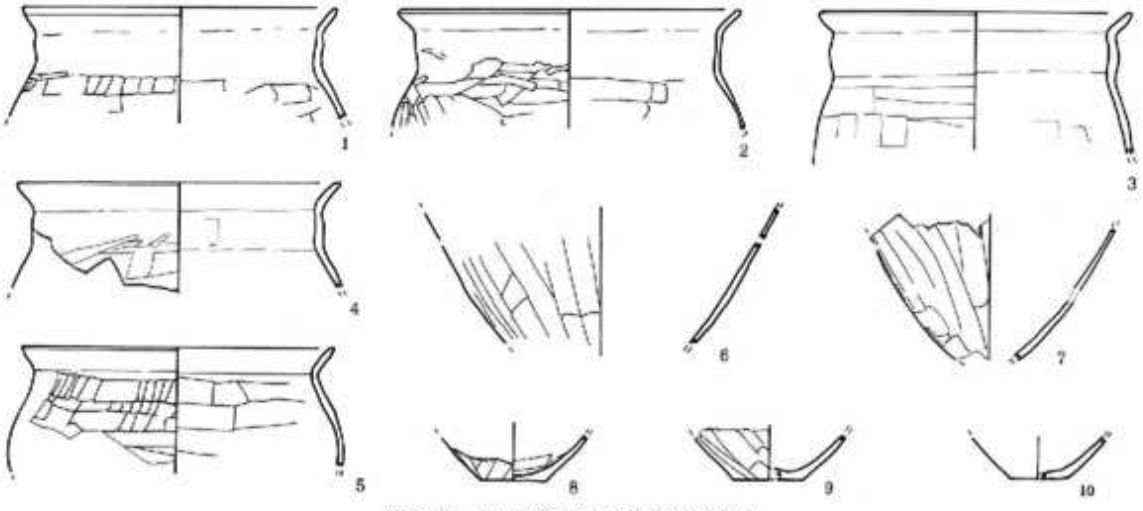
遺構は調査区南に位置し、東側は調査区域外となる。調査区内も南北方向に設置された灌水によって破壊されている。確認できた規模は北壁1.6m、西壁３m、確認面から床面までの深さは60cmを測り、Ｈ１号住居址に切られる。平面形は残存状況からやや隅丸の方形と考えられる。床面は平坦で固く、壁際に周溝が認められ、床面上からは鉄製紡錘車、床上５cmから刀子が出土した。カマドは北壁中央と考えられる調査区境に構築されているが西袖付近は灌水に破壊され、東袖は調査区域外となる。確認できたのは火床付近と煙道部である。火床から煙道にかけて焼土の堆積が認められ周辺から土師器甕片が多数出土した。掘方は10cm内外の厚みで暗褐色土、黒褐色土を埋め込んでおり、北西コーナーからピットが１個確認できた。遺物は土師器の坏・甕、須恵器の坏・甕・蓋、鉄製刀子・紡錘車、ミガキ石が出土した。土師器の坏は内面黒色の破片、甕は器厚が薄く、口縁「コ」の字状を呈し、底部小型の武蔵甕及び口縁「く」の字状で口縁部の短いものが一部認められる。須恵器の坏は底部回転糸切り後無調整の破片である。須恵器の甕は外面平行叩きを施す破片が出土している。蓋は混入の可能性が考えられる。刀子は長さ14.8cm、最大幅1.3cm、最大厚 0.41cm、重量16.4g、紡錘車は最大軸径0.63cm、長さ18.3cm、弾み車径5.1cm、重量40.9gである。

本住居址は底部回転糸切り後無調整の須恵器坏、口縁部「コ」の字の武蔵甕が含まれることから平安時代、９世紀前半としたい。

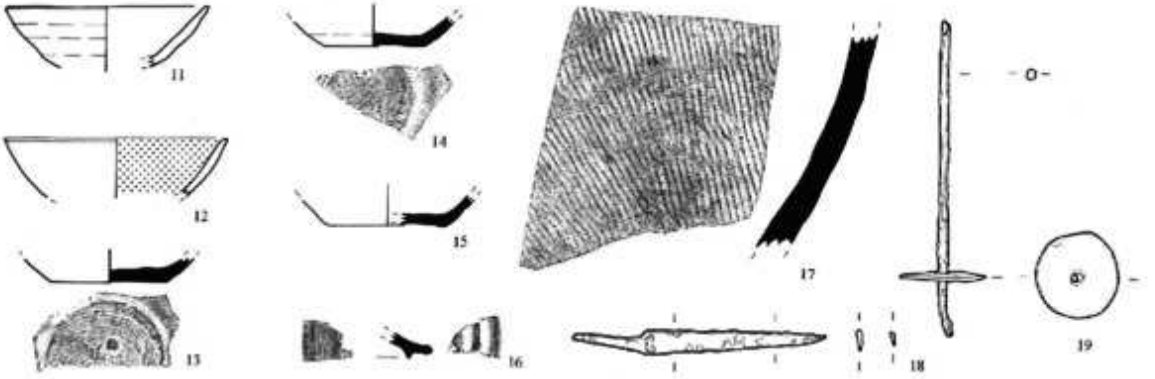


1．黒褐色土　（10YR2/3）　ローム粒、軽石、粘土粒、炭化物。
2．黒褐色土　（10YR2/2）　ローム粒、小石、炭化物。
3．暗褐色土　（10YR3/4）　ローム多量。
4．黒褐色土　（7.5YR3/1）　ローム、礫石多い
5．鈍い黄褐色土（10YR4/3）ローム主体。しまりなし。
6．黒褐色土　（10YR2/2）　焼土粒、焼土、灰ローム多い。
7．暗褐色土　（10YR3/4）　ロームと黒色土の混合土。
8．暗褐色土　（10YR3/3）　ローム粒多い。
9．赤褐色土　（2.5YR4/6）　焼土層。
10．鈍い赤褐色土（2.5YR4/3）焼土層。

第11図　Ｈ２号住居址実測図



第12図　Ｈ２号住居址遺物実測図（１）



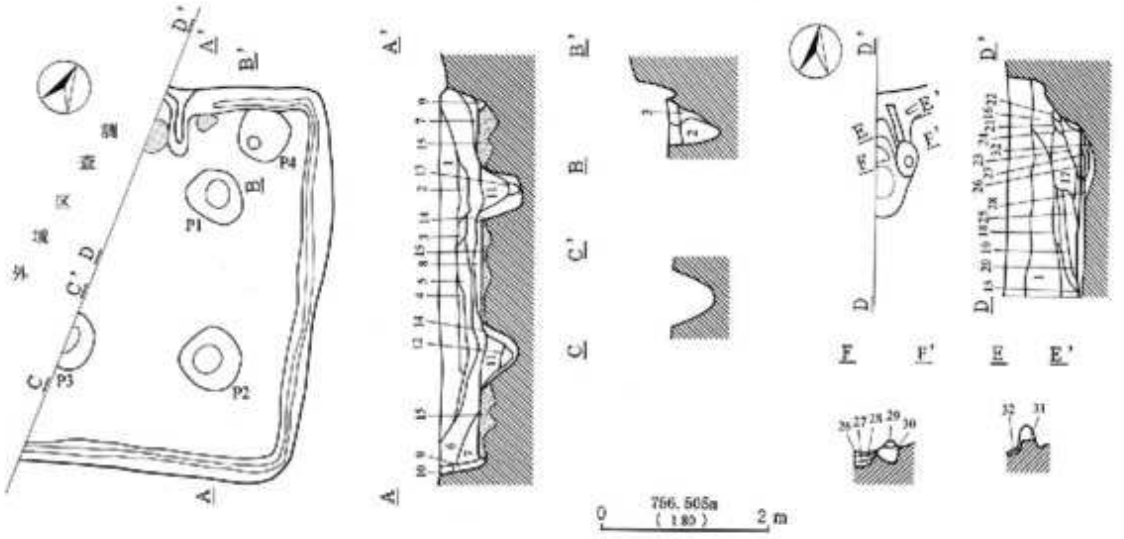
第13図　Ｈ２号住居址遺物実測図（２）

番号	器種	器形	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	調整・文様	残存率・部位	焼成	色調（外面）
1	土師器	壺	(18.6)	—	—	口縁「コ」の字　横ナデ　胴部外面ヘラケズリ　内面ヘラナデ	口縁35	良	5YR5/3 鈍い赤褐色
2	土師器	壺	(20.3)	—	—	口縁「コ」の字　横ナデ　胴部外面ヘラケズリ　内面ヘラナデ	口縁35	良	7.5YR6/4 鈍い橙色
3	土師器	壺	(18.6)	—	—	口縁「コ」の字　横ナデ　胴部外面ヘラケズリ　内面ヘラナデ	口縁破片	良	5Y6/8 橙色
4	土師器	壺	(19.2)	—	—	口縁「コ」の字　横ナデ　胴部外面ヘラケズリ　内面ヘラナデ	口縁破片	良	5YR6/6 橙色
5	土師器	壺	(18.4)	—	—	口縁横ナデ　胴部外面ヘラケズリ　内面ヘラナデ	口縁破片	良	2.5YR6/6 橙色
6	土師器	甕	—	—	—	外面縦ヘラケズリ　内面ヘラナデ	胴部下部破片	良	2.5YR5/6 明赤褐色
7	土師器	甕	—	—	—	外面縦ヘラケズリ　内面ヘラナデ	胴部下部破片	良	2.5YR5/6 明赤褐色
8	土師器	甕	—	3.9	—	外面縦ヘラケズリ　内面ヘラナデ　底面ヘラケズリ	底部70	良	2.5YR5/6 明赤褐色
9	土師器	甕	—	4.1	—	外面縦ヘラケズリ　内面ヘラナデ　底面ヘラケズリ	底部50	良	2.5YR5/6 明赤褐色
10	土師器	甕	—	3.4	—	外面縦ヘラケズリ　内面ヘラナデ　底面ヘラケズリ	底部50	良	2.5YR3/1 暗赤灰色
11	土師器	坏	(12.2)	—	—	内外面ロクロナデ	口縁破片	良	7.5YR5/2 灰褐色
12	土師器	坏	(13.5)	—	—	内面黒色処理	口縁破片	良	7.5YR5/2 灰褐色
13	須恵器	坏	—	6.9	—	底部回転糸切り	底部50	良好	7.5Y5/1 灰色
14	須恵器	坏	—	5.6	—	底部回転糸切り	底部50	良好	5Y7/1 灰白色
15	須恵器	坏	—	(6.8)	—	底部回転糸切り	底部30	良好	7.5Y7/1 灰白色
16	須恵器	壺	—	—	—	返りあり　表面自然釉付着　混入遺物の可能性あり	返り部破片	良好	2.5Y6/1 黄灰色
17	須恵器	甕	—	—	—	外面平行横叩き	破片	良好	10Y5/4 赤褐色

第３表　Ｈ２号住居址遺物観察表

Ｈ３号住居址

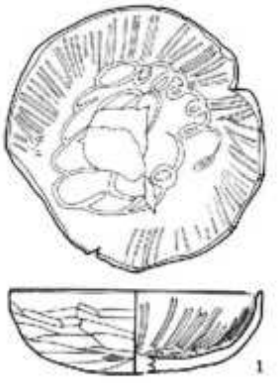
遺構は調査区北端に位置し、西側半分は調査区域外となる。確認できた規模は北壁２ｍ、南壁3.1ｍ、東壁4.6ｍ、確認面から床面までの深さは50cmを測る。床面はほぼ平坦で固く土間状を呈している。床面上からは土師器壺の完形品、臼玉などが出土した。壁際には周溝が巡らされ、ピットは４個認められた。このうちＰ１～Ｐ３は位置的に主柱穴と考えられる。Ｐ４は北東コーナーに位置することから貯蔵穴である可能性が伺われる。カマドは北壁の中央と思われる位置に構築され、火床から東袖が調査可能で、西側は調査区域外となる。袖は地山（黄褐色ローム）作り出しに粘土を被って構築したと考えられる。火床には焼土の堆積及び焼け込みが認められた。掘方は中央付近10cm内外と比較的薄く、周辺部は15～20cmと厚い状態で褐色土が埋め込まれていた。



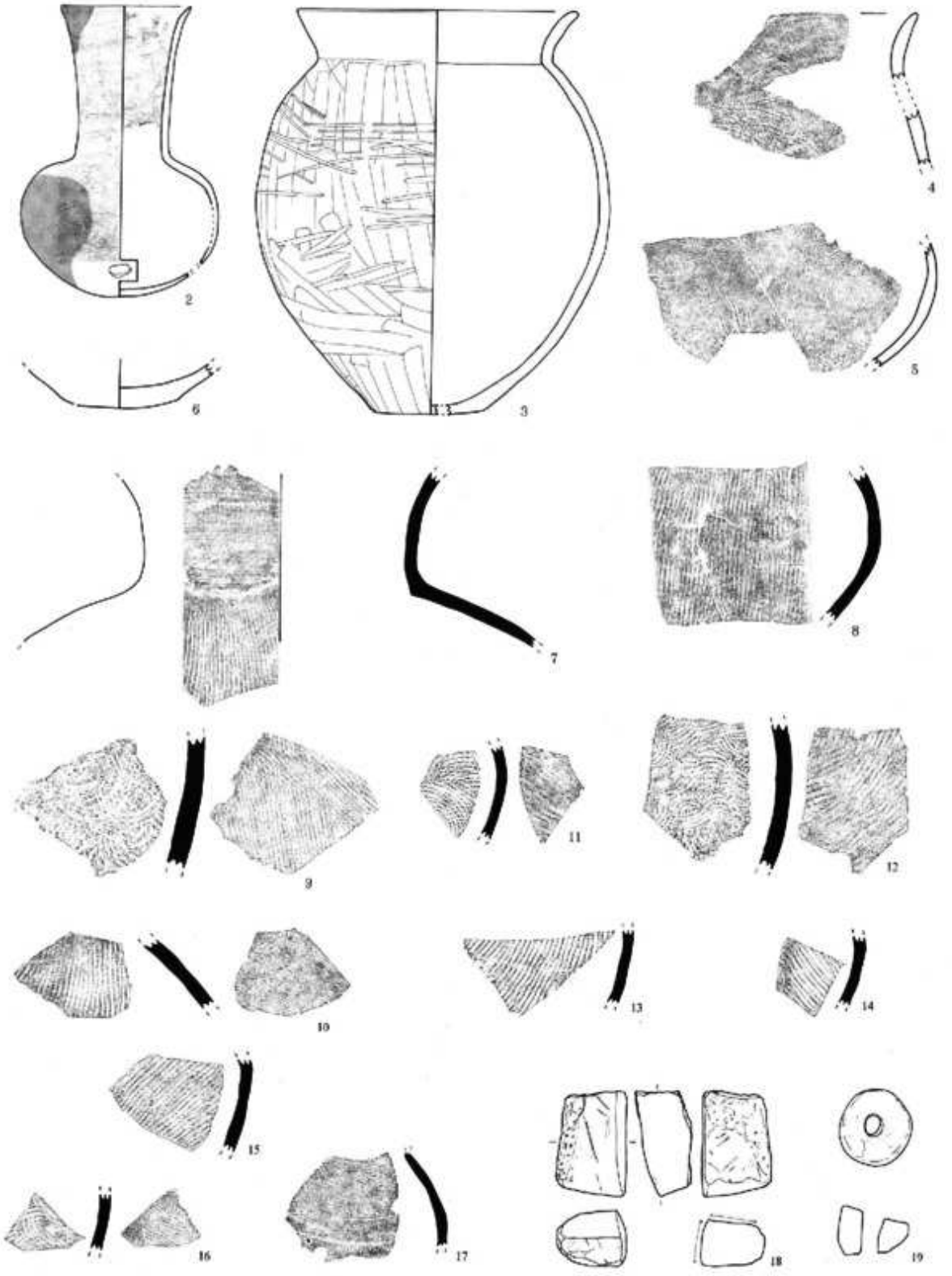
1. 黒褐色土（10YR2/3）ローム粒、軽石、炭化物。
2. 暗褐色土（10YR3/3）ローム粒やや多い。
3. 褐色土（10YR4/4）ローム多い。軽石。
4. 黒褐色土（10YR2/2）ローム粒少量。
5. 鈍い黄褐色土（10YR3/3）ローム粒多い。
6. 黒褐色土（10YR2/3）ローム粒、軽石、炭化物少量含む。
7. 暗褐色土（10YR3/4）ローム多く、締まりなし。
8. 鈍い黄褐色土（10YR5/3）ローム。
9. 褐色土（10YR4/4）ローム主体。締まりなし。
10. 暗褐色土（10YR3/3）ローム少量含む。
11. 暗褐色土（10YR3/3）ローム、軽石。
12. 暗褐色土（10YR3/3）焼土含む。締まりなし。
13. 暗褐色土（10YR3/4）ローム多量。
14. 褐色土（10YR4/4）ローム、軽石多い。
15. 褐色土（10YR4/6）ローム主体、締まりなし。
16. 暗褐色土（10YR3/3）粘土粒、ローム粒少量。
17. 鈍い赤褐色土（5YR3/2）粘土粒多く含む。炭化物。
18. 黒褐色土（10YR2/2）粘土粒、焼土含む。
19. 暗褐色土（10YR3/3）粘土粒、焼土少量含む。
20. 黒褐色土（10YR2/2）ローム粒、粘土粒微量含む。
21. 鈍い黄褐色土（2.5YR5/4）焼土ブロック。
22. 暗褐色土（10YR3/4）ローム多い。
23. 灰赤色土（10YR4/2）焼土、粘土粒主体。炭化物。
24. 極暗赤褐色土（10YR2/2）焼土、粘土多い。炭化物。
25. 鈍い赤褐色土（2.5YR4/3）ローム多い。焼土、炭化物。
26. 赤褐色土（2.5YR4/6）焼土層。（火床）
27. 暗褐色土（7.5YR3/3）焼土、灰、炭化物。
28. 黒褐色土（10YR2/3）焼土、灰、炭化物少量。ロームブロック。
29. 灰黄褐色土（10YR4/2）ローム多く暗褐色土を含む。
30. 鈍い黄褐色土（10YR5/3）ローム主体。焼土少量含む。
31. 鈍い黄褐色土（10YR4/3）ローム主体、暗褐色土含む。
32. 黒褐色土（10YR2/3）焼土、粘土多い。炭化物。

第14図　H３号住居址実測図

遺物は土師器の坏・甕・壺、須恵器の甕、滑石製臼玉、砥石が出土した。坏は平坦に近い丸底で器高が低く底部はヘラケズリ、体部付近は削り後ナデを施す。内面はミコミ部に螺旋状、周囲に放射状暗文を施す畿内系である。甕はやや厚手で、球胴型と思われる。調整は外面ヘラケズリ後、ナデを施す。壺は床直上から出土した丸底壺で、一部に赤色塗彩されていた痕跡が伺える。胴部下半部には内部から人為的に穿ったと思われる径１cmほどの孔が認められる。須恵器の甕は外面に平行叩きを施す。滑石製の臼玉は床直上から出土し、径1.4cm、孔径0.35cm、長さ0.9cm、重さ2.31gを測る。本住居址は土師器が古墳時代７c代の様相を示すが、畿内系暗文を施す８世紀代の土器が含まれるため、両者が伴うとすると若干時代が下る可能性がある。



第15図　H3号住居址遺物実測図(1)



第16図　H 3 号住居址遺物実測図（2）　（No.19のみ1/1）

番号	器種	器形	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整・文様	残存率・残存	焼成	色調(外面)
1	土師器	坏	14.8	縦い丸底	4.9	外面ヘラケズリ　内面暗文	90	良	7.5YR7/4 鈍い橙色
2	土師器	長頸壺	9.4	丸底	21.2	口辺内外面ハケ目　外面ヘラケズリ後ナデ 一部赤色塗彩　胴部下半はCmの孔あり	100	良	7.5YR8/2 灰白色
3	土師器	甕	20.6	8	29.4	口縁横ナデ　外面ヘラケズリ後ミガキ 内面ヘラナデ	70	良	2.5YR6/6 橙色
4	土師器	甕				口縁横ナデ　外面ヘラケズリ　内面ヘラナデ	破片	良	7.5YR6/3 鈍い褐色
5	土師器	甕	—	—	—	外面ヘラケズリ　内面ヘラナデ	胴部破片	良	7.5YR5/4 鈍い褐色
6	土師器	甕	-	8.6	-	外面ヘラケズリ　内面ミガキ	底部80	良	7.5YR8/2 灰白色
7	須恵器	甕			—	口縁ナデ　外面叩き	脚部破片	良好	5Y4/1 灰色
8	須恵器	甕			—	外面平行叩き　内面当て具痕	脚部破片	良好	10YR5/1 褐灰色
9	須恵器	甕	—	—	—	外面平行叩き　内面同心円当て具痕	破片	良好	2.5Y6/1 黄灰色
10	須恵器	甕	—	—	—	外面平行叩き　内面ハケ状ヘラナデ 13・14と同一の可能性	破片	良好	10YR6/3 鈍い黄橙色
11	須恵器	甕		—		外面平行叩き　内面同心円当て具痕	破片	良好	10YR7/1 灰白色
12	須恵器	甕	—	—	-	外面平行叩き　内面同心円当て具痕	破片	良好	10YR6/2 灰黄褐色
13	須恵器	甕			—	外面平行叩き　内面ハケ状ヘラナデ 10・14と同一の可能性	破片	良好	7.5YR5/2 灰白色
14	須恵器	甕	—	—	—	外面平行叩き　内面ハケ状ヘラナデ 10・13と同一の可能性	破片	良好	10YR6/2 灰黄褐色
15	須恵器	甕	—	—	—	外面平行叩き　内面当て具痕	破片	良好	10YR5/2 灰黄褐色
16	須恵器	甕				外面平行叩き　内面同心円当て具痕	破片	良好	2.5GY オリーブ灰色
17	須恵器	壺				内外面ロクロナデ	破片	良好	10YR7/2 鈍い黄橙色

番号	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
18	砥石	凝灰岩	7.7	5.2	4.4	220	上部欠損・砥面に線状痕・片面張付痕

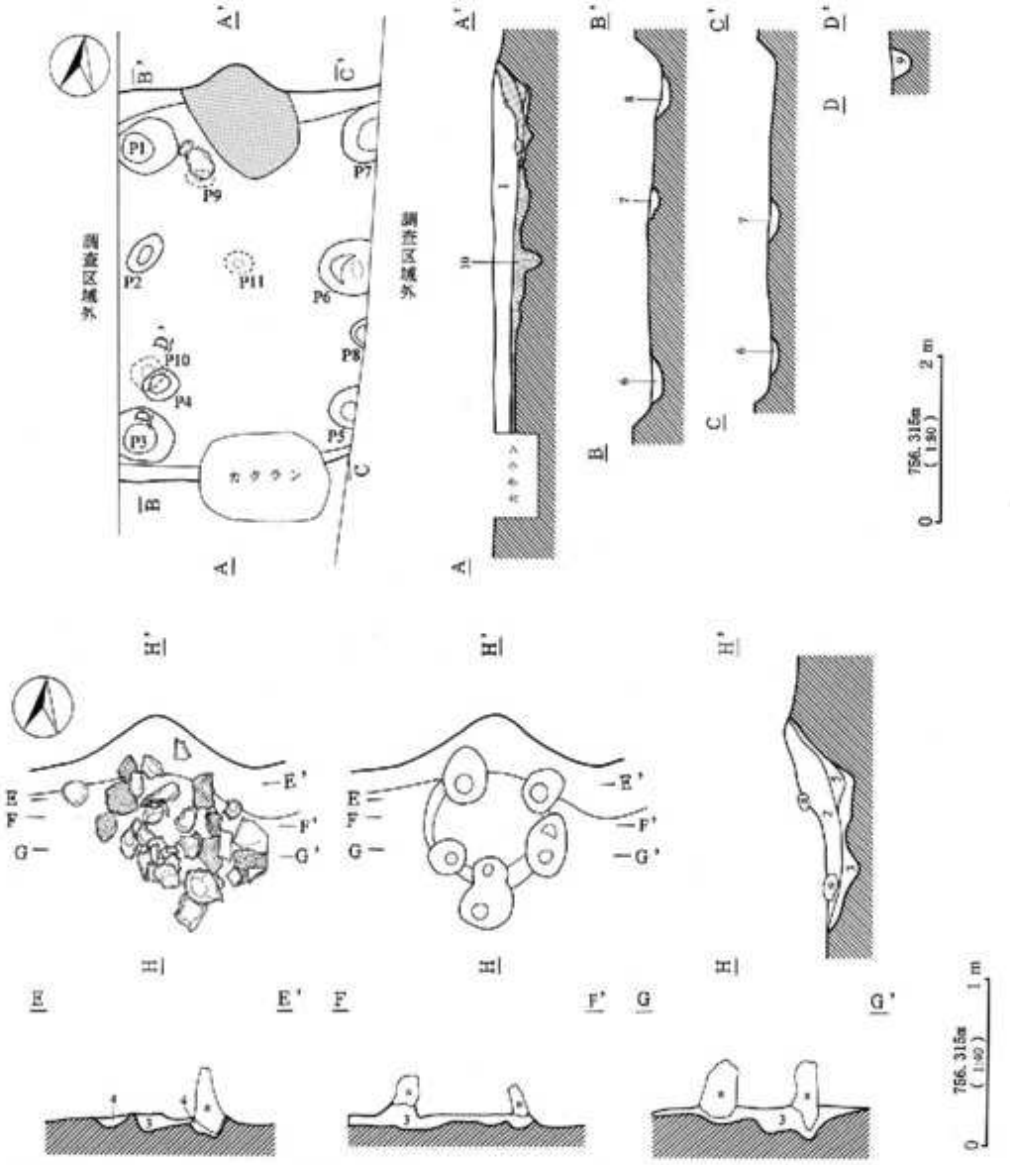
第4表　H3号住居址遺物観察表

H4号住居址

遺構は調査区北に位置し、東及び西側は調査区域外となる。確認できた規模は北壁3.1m、南壁2.7m、南北は遺構中心部と思われる地点で4.6mを測る。確認面から床面までの深さは35cmを測る。確実な平面形は不明であるが、確認壁の状況から方形または長方形と考えられる。壁際に周溝は認められず、床面は平坦で固く十間状を呈している。ピットは床面上から8個確認できた。カマドは北壁に構築されているが住居廃棄時に大きく破壊されたと考えられ、周辺にカマドに使用された石材、粘土が散乱し、直上から上器片が多数出土した。散乱した構築材を除去した結果、カマドの補強として袖の芯に使用したと考えられる石材が認められた。掘方は5～15cmの厚みで暗褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏・甕・鉢、須恵器の坏・蓋・甕・壺、窪み石が出土した。土師器坏は底部回転糸切り、内面黒色処理を施し、やや小型である。土師器甕は器厚が薄く、口縁「コ」の字状を呈し、底部小径の武蔵甕及び小型の轆轤甕である。鉢はカマド周辺から破片がまとまって出土した。轆轤を使用し、外面下半に斜め方向のケズリ、内面黒色処理後暗文を施し、口縁に片口を有する。須恵器坏は底部回転糸切り後、高台貼り付けと底部回転糸切り後未調整が認められる。須恵器甕はいずれも破片で外面平行叩きを施し、隆帯を持つものも存在する。須恵器壺は底部の破片で高台を有する。窪み石は扁平で両面すり痕を持ち、片面に窪み3個を有する。

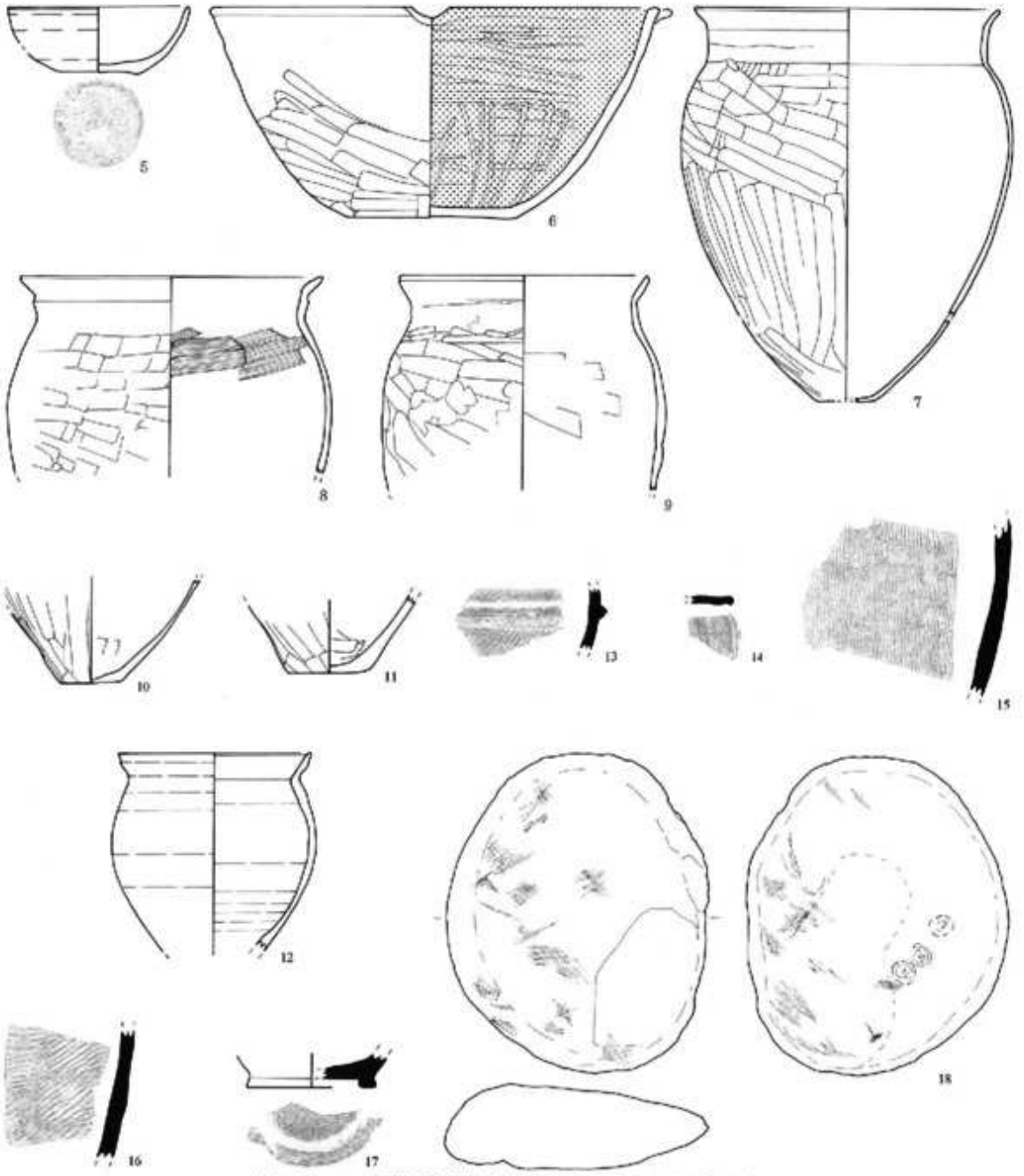
本住居址は武蔵甕の形状、轆轤甕、底部回転糸切り後無調整の須恵器坏の存在から、9世紀前半、平安時代としたい。



1．黒褐色土　(10YR2/3)　Ⅱ-ム粒、軽石、炭化物。
2．極暗褐色土（7.5YR2/3）　焼土多い、炭化物、しまりなし。
3．鈍い黄褐色土（10YR4/3）Ⅱ-ム多い。焼土少量。
4．暗褐色土　(10YR3/3)　Ⅱ-ム少量。焼土少量。
5．暗褐色土　(10YR3/3)　Ⅱ-ム少量。軽石、焼土やや多い。
6．黒褐色土　(10YR2/3)　Ⅱ-ム粒少量。
7．暗褐色土　(10YR3/4)　Ⅱ-ム多い。
8．黒褐色土　(10YR2/3)　粘土粒含む。
9．黒褐色土　(10YR2/2)　Ⅱ-ム粒、小石少量。
10．暗褐色土　(10YR3/4)　Ⅱ-ム、軽石多い。上面硬質。

第17図　H４号住居址実測図

第18図　H４号住居址遺物実測図（１）



第19図　H４号住居址遺物実測図（２）　（No.18のみ1/6）

番号	器種	器形	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	調整・文様	残存率・部位	焼成	色調（外面）
1	須恵器	坏	13.4	6.4	3.9	ロクロナデ　底部回転糸切り	60	良好	N5/0 灰色
2	須恵器	坏	(13.2)	4.9	3.9	ロクロナデ　底部回転糸切り	60	良好	2.5Y6/1 黄灰色
3	須恵器	坏	—	—	—	ロクロナデ	口縁破片	良好	5YR3/2 暗赤褐色
4	須恵器	高台付坏	—	7.5	—	ロクロナデ　高台貼り付け	底部100	良好	5Y7/1 灰白色

第５表　Ｈ４号住居址遺物観察表（１）

番号	器種	器形	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整・文様	残存率・部位	焼成	色調(外面)
5	土師器	坏	(12.4)	5.6	4.3	内面黒色処理　底部回転糸切り	60	良	5YR5/6 明赤褐色
6	土師器	片口鉢	31	11.4	14	口辺ロクロナデ　外面下部ヘラケズリ 内面黒色処理	70	良	5YR6/3 鈍い橙色
7	土師器	甕	20.2	3.8	25.4	口縁「コ」の字　外面ヘラケズリ　内面ヘラナデ	40	良	2.5YR6/6 橙色
8	土師器	甕	(20.2)	—	—	口縁「コ」の字　外面ヘラケズリ 内面ハケ目ヘラナデ	口縁～胴部破片	良	5YR6/6 橙色
9	土師器	甕	16.8	—	—	口縁「コ」の字　外面ヘラケズリ　内面ヘラナデ	口縁～胴部破片	良	5YR4/3 鈍い赤褐色
10	土師器	甕	—	4.1	—	外面ヘラケズリ　内面ヘラナデ	底部～胴部	良	5YR4/4 鈍い赤褐色
11	土師器	甕	—	5.6	—	外面ヘラケズリ　内面ヘラナデ	底部～胴部	良	2.5YR5/4 鈍い赤褐色
12	土師器	球輪甕	(12.8)	—	—	ロクロナデ	口縁～胴部破片	良	5YR5/6 橙色
13	須恵器	甕	—	—	—	外面叩き痕　貼り付け陵帯	肩部破片	良好	2.5Y5/1 黄灰色
14	須恵器	甕	—	—	—	ロクロナデ	破片	良好	10YR4/1 褐灰色
15	須恵器	甕	—	—	—	外面平行叩き	破片	良好	10YR3/1 黒褐色
16	須恵器	甕	—	—	—	外面平行叩き	破片	良好	2.5YR4/1 赤灰色
17	須恵器	壺	—	(8.8)	—	底部高台貼り付け　内外面自然釉付着	底部破片	良好	10YR4/3 赤褐色

番号	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
18	敲み石	輝石安山岩	32.9	27.3	10.0	8840	両面すり面・片面凹み

第６表　Ｈ４号住居址遺物観察表（２）

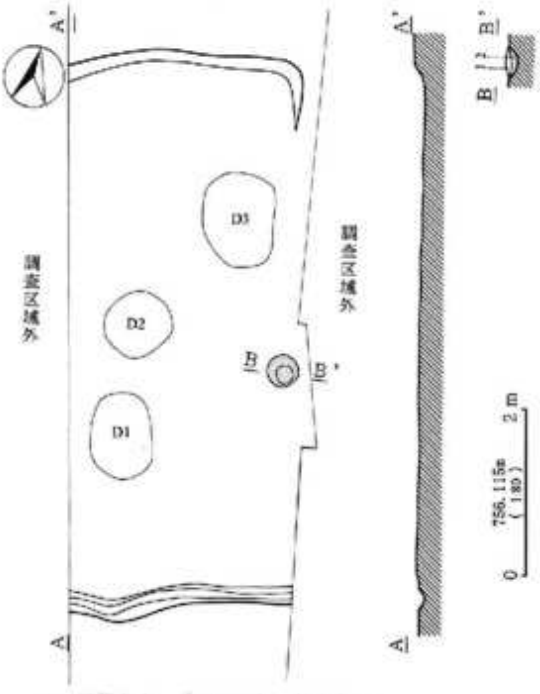
Ｈ５号住居址

遺構は北側調査地域に位置し、西及び東側は調査区域外となる。住居内に３基の土坑が存在し住居址を切る。調査規模は北壁2.8m、南壁2.7m、南北は6.6m、深さは８cmと浅い。床面は平坦で、やや固く住居に伴うと考えられるピットは認められなかった。東に焼土の堆積が認めら、土師器片が僅かに出土した。

遺物は土師器坏・甕、須恵器甕の小破片が出土したのみである。図示したのは土師器甕の口縁破片である。

本住居址は掘り込みも不明確で遺物の出土も僅かなため時期は不明である。

第20図　Ｈ５号住居址遺物実測図



1．暗褐色土　（10YR3/3）　焼土多い。
2．明赤褐色土（2.5YR5/8）　焼土層。地山の焼け込み。

第21図　Ｈ５号住居址実測図

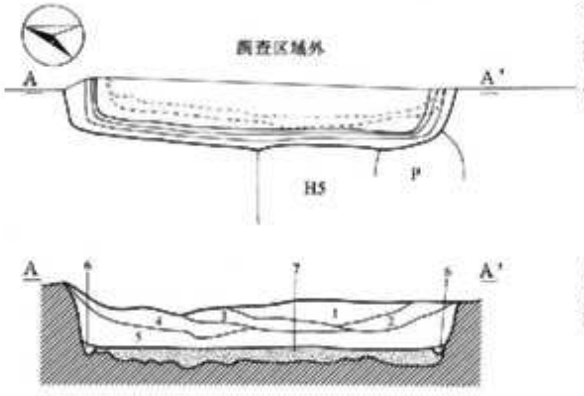
番号	器種	器形	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整・文様	残存率・部位	焼成	色調(外面)
1	土師器	甕	—	—	—	ヨコナデ	口縁破片	良	5YR6/4 鈍い橙色

第７表　Ｈ５号住居址遺物観察表

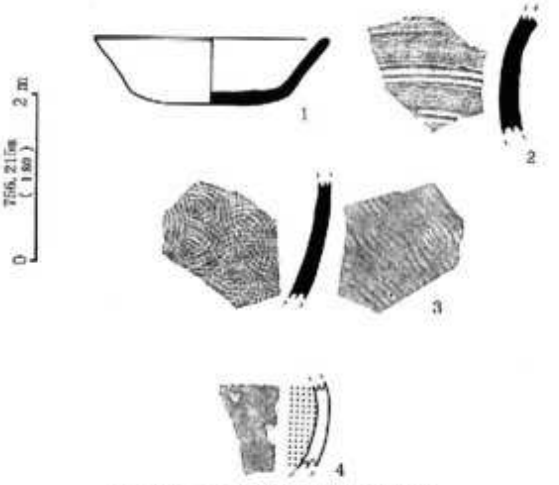
Ｈ６号住居址

遺構は調査区北に位置し、遺構東側の大半は調査区域外となる。東側調査区域外は道路が旧地表より低く築造されていることから、遺構はすでに破壊されていると思われる。確認できた規模は南北4.6m、東西0.8m、検出面から床面までの深さは60cmを測る。平面形は残存状況から方形または長方形と考えられる。覆土は暗褐色土・黒褐色土の自然堆積である。遺構は深く壁面は安定しており、壁際には周溝が認められた。床面は固く、ピット及びカマドなどの施設は確認できなかった。掘方は20cmほどの厚みで褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器、須恵器が出土し大半が破片である。土師器坏は厚手で内面黒色処理を施す。須恵器坏は底部ヘラ調整されている。須恵器甕は外面櫛描波状文を施すものと内面同心円の当て具痕を残すものが認められる。時期はやや厚手の内面黒色の坏、底部ヘラ調整の須恵器坏の存在から８世紀第Ⅱ四半期、奈良時代と考えられる。



第22図　Ｈ６号住居址実測図



第23図　Ｈ６号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整・文様	残存率・部位	焼成	色調(外面)
1	須恵器	坏	13.9	7.4	3.9	ロクロナデ　底部ヘラケズリ	口縁～底部破片	良	7.5YR5/1 灰色
2	須恵器	甕	—	—	—	外面平行沈線・櫛描波状文	口辺破片	良好	10YR5/1 灰色
3	須恵器	甕	—	—	—	外面平行押き　内面同心円当て具痕　表面磨耗	破片	良	10YR7/1 灰白色
4	土師器	坏	—	—	—	内面黒色処理　外面ミガキ	破片	良	7.5YR6/6 橙色

第８表　Ｈ６号住居址遺物観察表

第２節　溝跡

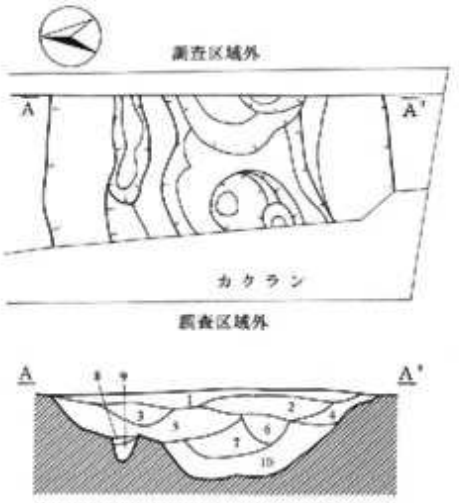
Ｍ１号溝跡

遺構は調査区中央に位置し、東西方向に延びる。遺構の大半は調査区域外となり、確認できた規模は僅かである。調査規模は確認面上での幅4.2m、底幅1.1m、長さ1.8m、確認面からの深さは1.1mを測る。底面は水流により抉られており、底付近には砂礫層が厚く堆積していた。

遺物は土師器の坏・甕、須恵器の坏・甕、砥石、すり石、敲石が出土した。土器はいずれも小破片である。土師器坏は内面黒色処理、須恵器坏は底部回転糸切り後未調整、須恵器甕は外面に櫛描波状文、内面同心円

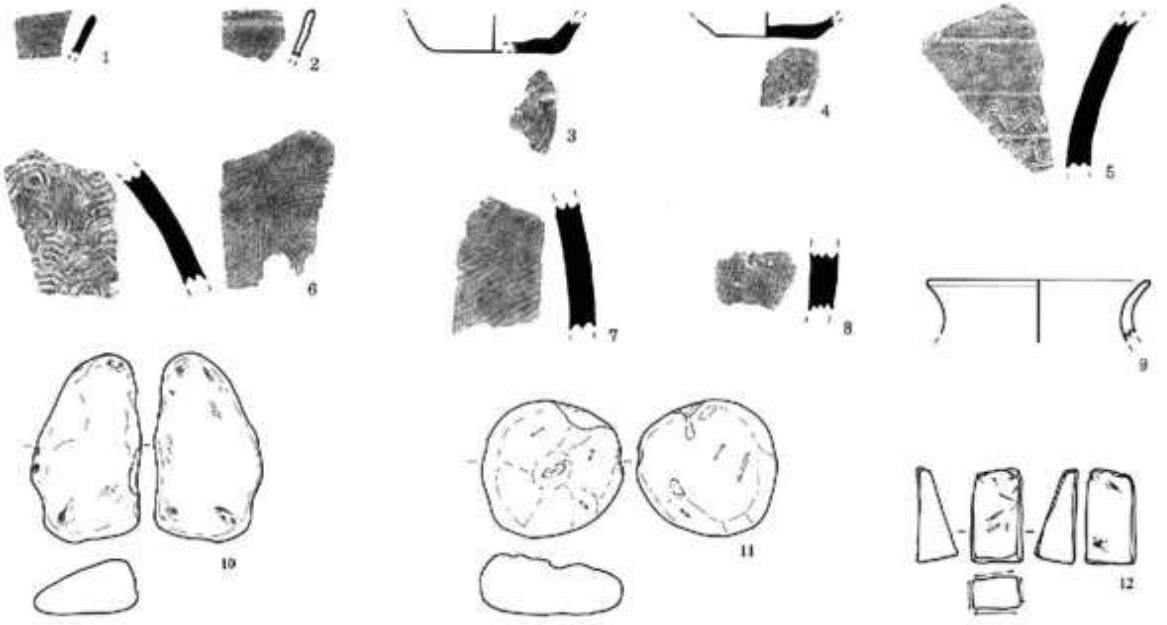
当て具痕、外面平行叩き痕を有するものが認められる。砥石は四面を使用、表裏に線条痕が認められる。すり石は軽石製、敲石はすり石にも使用されている。

遺構の年代は、平安時代以降と考えられる。



1．暗褐色土　(10YR3/3)　ローム粒、軽石。
2．暗褐色土　(10YR3/4)　ローム粒、軽石、炭化物。
3．暗褐色土　(10YR3/4)　ローム粒、軽石、炭化物、砂。
4．褐色土　(10YR4/4)　ローム主体。砂少量。
5．褐灰色土　(10YR4/1)　砂、小石主体。砂礫層。
6．灰黄褐色土　(10YR4/2)　砂小石主体。砂礫層。
7．暗褐色土　(10YR3/4)　砂多い。
8．明褐色土　(10YR5/6)　ローム7ロック。
9．灰黄褐色土　(10YR4/2)　砂、小石主体。砂礫層。
10．褐灰色土　(10YR4/1)　砂、小石主体。砂礫層。

第24図　M１号溝跡実測図



第25図　M１号溝跡遺物実測図

番号	器種	器形	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整・文様	残存率・部位	焼成	色調(外面)
1	須恵器	坏	—	—	—	ロクロナデ	口縁破片	良好	10YR7/1 灰白色
2	土師器	坏	—	—	—	内面黒色処理	口縁破片	良好	10YR8/3 浅黄橙色
3	須恵器	坏	—	(7.4)	—	ロクロナデ　底部回転糸切り	底部一体部破片	良好	5Y6/2 灰オリーブ色
4	須恵器	坏	—	(6)	—	底部回転糸切り	底部破片	良	10YR8/3 浅黄橙色
5	須恵器	甕	—	—	—	外面櫛描波状文	口辺破片	良	10YR5/3 赤褐色
6	須恵器	甕	—	—	—	外面平行叩き・表面磨耗　内面同心円当て具痕	破片	良	N8/0 灰白色
7	須恵器	甕	—	—	—	外面平行叩き	破片	良好	N6/0 灰白色

第９表　M１号溝跡遺物観察表(１)

番号	器種	器形	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整・文様	残存率・部位	焼成	色調 (外面)
8	須恵器	甕	—	—	—	外面平行叩き	破片	良	7.5Y5/1 灰白色
9	土師器	甕	—	—	—	ヨコナデ	口縁破片	良	5YR4/8 赤褐色

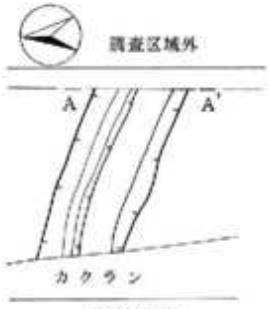
番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
10	すり・敲石	安山岩	11.1	6.5	3.2	285	
11	すり石	軽石	8.4	—	3.6	115	中央窪み
12	敲石	凝灰岩	5.6	3	2.5	58	滑らかな敲痕4面・線条痕

第9表　M1号溝跡遺物観察表(2)

M2号溝跡

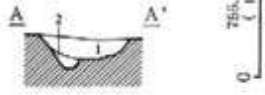
遺構は調査区中央、M1号溝跡の北に近接して存在し、東西方向に延びる。遺構の大半は調査区域外となり、確認できた規模は確認面上での幅1.05m、底幅60cm、長さ2m、確認面からの深さは40cmを測る。底面部はテラス状で幅20cm程度低くなっており、砂が堆積していた。

遺物は土師器の坏、須恵器の坏・甕が出土したがいずれも小破片である。時期の確定には至らなかった。



1．暗褐色土　(10YR3/3)　ローム粒、軽石。
2．暗褐色土　(10YR3/4)　砂多い。

第26図　M2号溝跡遺物実測図



第27図　M2号溝跡実測図

番号	器種	器形	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整・文様	残存率・部位	焼成	色調 (外面)
1	須恵器	甕	—	—	—	折り返し口縁	口縁破片	良好	10YR6/1 灰色
2	須恵器	甕	—	—	—	外面平行叩き	破片	良好	5B5/1 青灰色
3	須恵器	坏	—	—	—	ロクロナデ	破片	良好	5Y5/1 灰色
4	土師器	坏	—	—	—	内面黒色処理	破片	良	7.5YR6/6 橙色

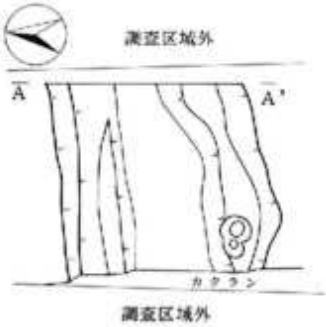
第11表　M2号溝跡遺物観察表

M3号溝跡

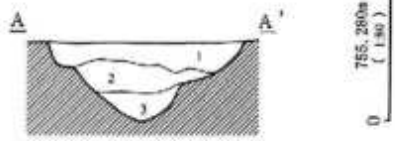
遺構は調査区中央、M2号溝跡の北に近接して存在し、東西方向に延びる。遺構の大半は調査区域外となり、確認できた規模は確認面上での幅2.6m、底幅40cm、長さ2.2m、確認面からの深さは1mを測る。覆土は上層にロームを含む黒褐色土・褐色土、下層に砂礫層が堆積していた。

遺物は須恵器の坏・甕・壺片が出土した。坏は底部回転糸切り後未調整である。甕は外面に平行叩きを施す。

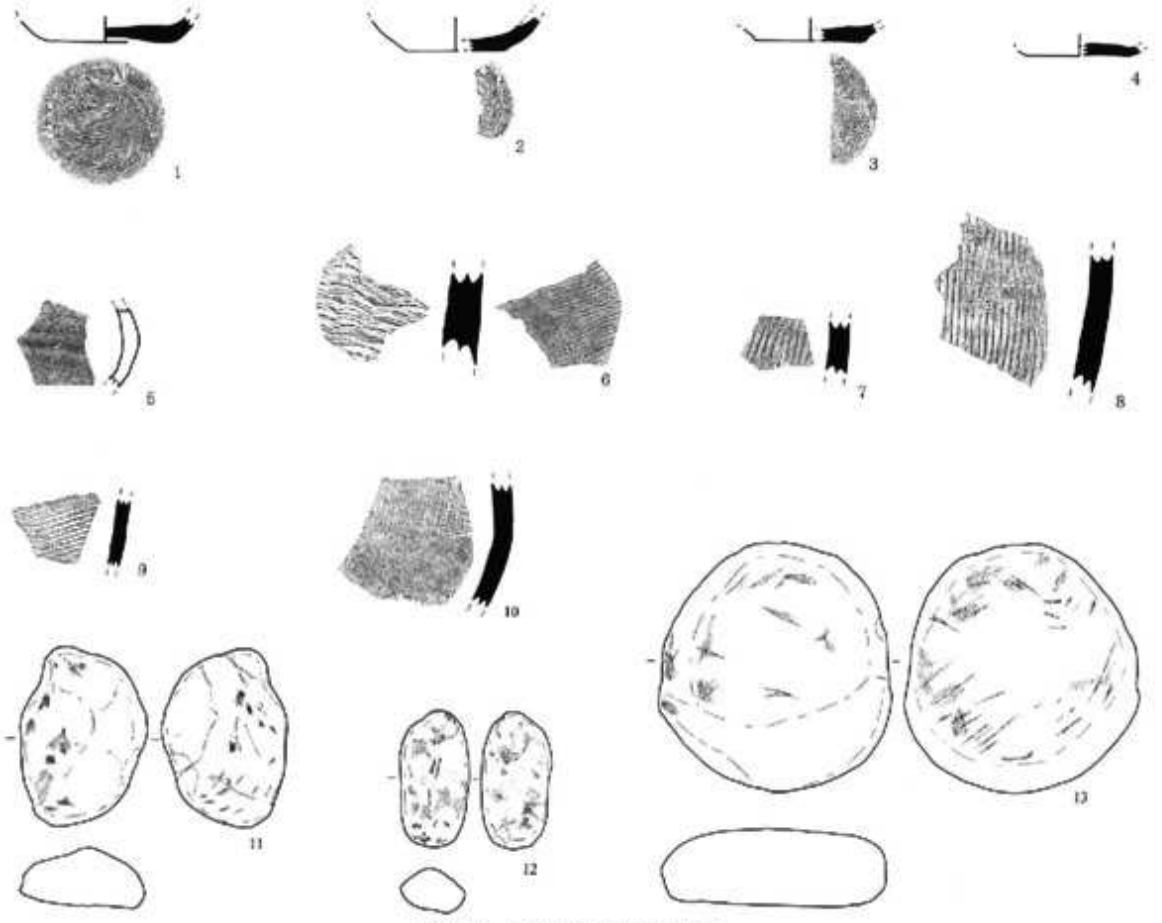
遺構の年代は9世紀前半の特徴を有する土器の出土が認められることから平安時代以降と考えられる。



1．黒褐色土　(10YR3/2)　ローム多い。軽石、炭化物含む。
2．褐色土　(10YR4/6)　ローム主体。
3．灰黄褐色土 (10YR4/2)　砂、小石主体。砂礫層。



第28図　M3号溝跡実測図



第29図　M３号溝跡遺物実測図

番号	器種	器形	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整・文様	残存率・部位	焼成	色調（外面）
1	須恵器	坏	—	7.2	—	底部回転糸切り	底部100	良好	5Y6/1 灰色
2	須恵器	坏	—	(5.4)	—	底部回転糸切り　ロクロナデ	底部～体部破片	良好	10YR6/2 灰黄褐色
3	須恵器	坏	—	(6.5)	—	底部回転糸切り　底部ヘラ記号あり	底部破片	良好	5B4/1 暗青灰色
4	須恵器	坏	—	(6.2)	—	底部回転糸切り	底部破片	良	5Y6/1 灰色
5	灰釉陶器	壺？	—	—	—	ロクロナデ　内外面灰釉付着	胴部破片	良好	2.5GY7/1 明オリーブ灰色
6	須恵器	甕	—	—	—	外面平行叩き・表面磨耗　内面弧状当て具痕	破片	良	N6/0 灰色
7	須恵器	甕	—	—	—	外面平行叩き・表面磨耗	破片	良好	2.5GY4/1 暗オリーブ灰色
8	須恵器	甕	—	—	—	外面平行叩き	破片	良好	N4/0 灰色
9	須恵器	甕	—	—	—	外面平行叩き・内面ハケナデ	破片	良好	5PB2/1 青黒色
10	須恵器	壺？	—	—	—	外面自然釉付着　内面ヨコナデ	破片	良好	10BG5/1 緑灰色

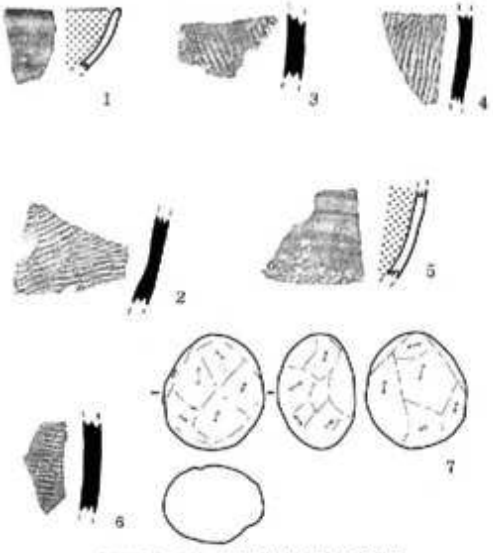
番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
11	不明	舞石安山岩	10.4	7.5	3.4	245	
12	敲石	花崗岩	8.1	4.2	2.4	130	両端に敲打痕・全体にすり面
13	すり石	舞石安山岩	14.6	—	5.6（最大）	1380	すり面両面

第12表　M３号溝跡遺物観察表

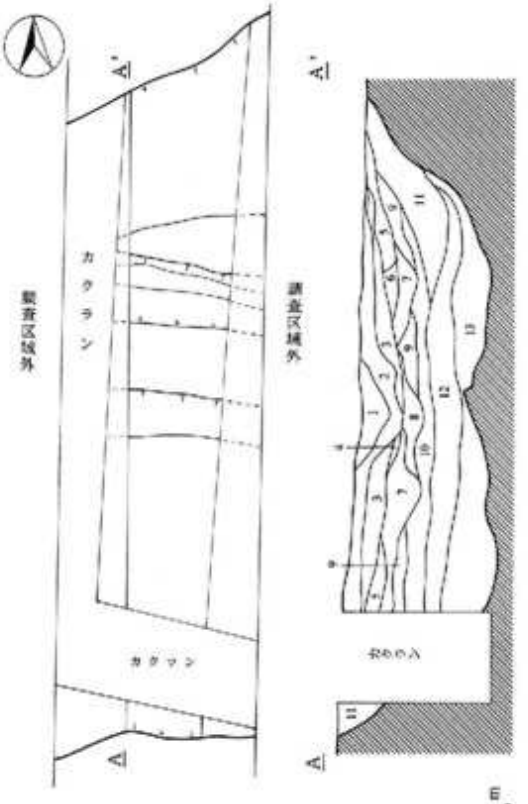
Ｍ４号溝跡

遺構は調査区中央、Ｍ３号溝跡の北に近接して存在し、東西方向に延びる。遺構の大半は調査区域外となり、調査面積に比して遺構の深さがあることから安全勾配をとり調査した結果、調査規模は確認面上での幅1.6m、底幅4.2m、長さ1.4m、確認面からの深さ1.8mにとどまった。覆土は上層に粒子の比較的細かい砂層、中間に幾層にも重なり合うしまりのあるシルト層、下層に砂礫層が堆積していた。

遺物は土師器の坏・須恵器の甕が出土したがいずれも小破片である。土師器坏は内面黒色処理を施し、須恵器甕は外面に平行叩き痕を有する。出土した土器は、いずれも奈良・平安時代の特徴を示す。付近は同時期の遺跡であり、また、遺物が出土しない中世の遺跡でもあることから、混入遺物である可能性も考えられるため、本遺構は平安時代以降としておきたい。



第30図　Ｍ４号溝跡遺物実測図



第31図　Ｍ４号溝跡実測図

番号	器種	器形	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	調整・文様	残存率・部位	焼成	色調（外面）
1	土師器	坏	—	—	—	内面黒色処理	口縁破片	良	5YR6/4 鈍い橙色
2	須恵器	甕	—	—	—	外面平行叩き	破片	良好	2.5GY4/1 暗オリーブ灰色
3	須恵器	甕	—	—	—	外面平行叩き・表面磨耗	破片	良	5YG4/1 暗オリーブ灰色
4	須恵器	甕	—	—	—	外面平行叩き	破片	良好	10YR6/2 灰黄褐色
5	土師器	坏	—	—	—	内面黒色処理	破片	良	7.5YR7/2 明褐灰色
6	須恵器	甕	—	—	—	外面平行叩き	破片	良好	10YR5/1 褐灰色

番号	器種	石材	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	備考
7	寸り石	軽石	6.7	—	4.5	105	

第13表　Ｍ４号溝跡遺物観察表

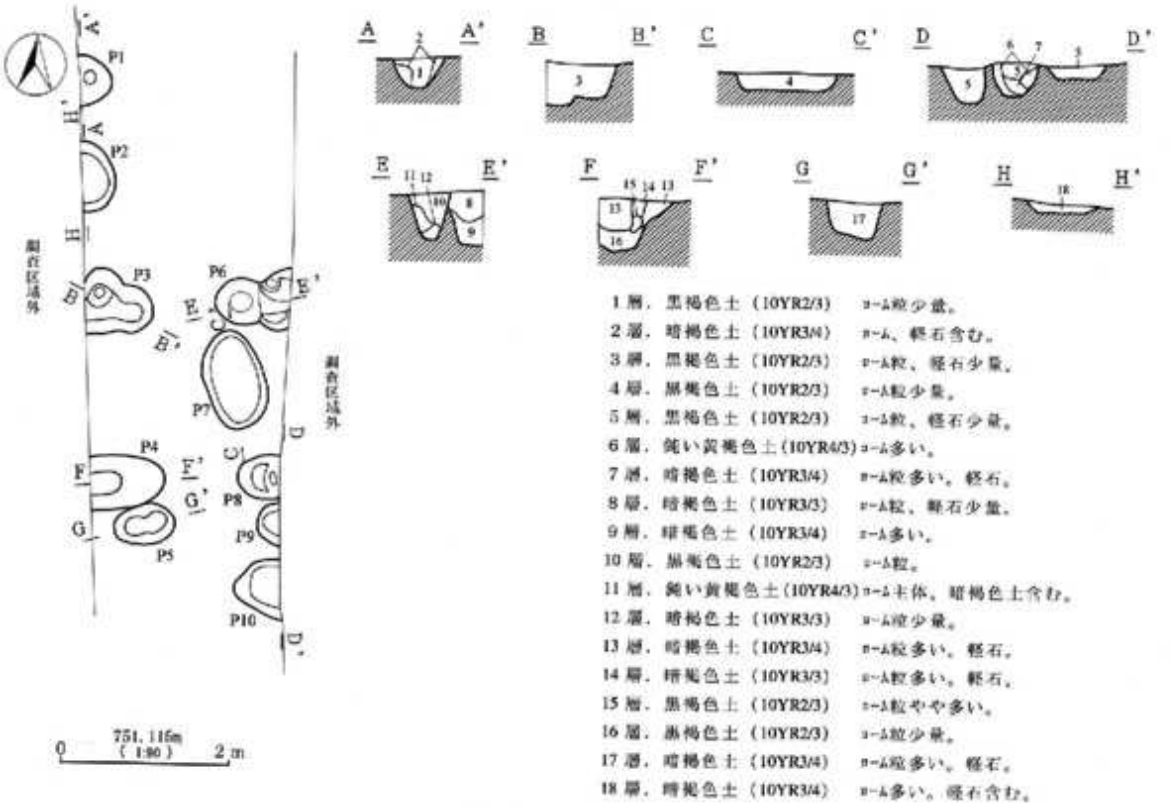
第３節　土坑

北側調査区Ｈ５号住居址付近で３基を確認した。Ｄ１号土坑は径96cm、深さ35cmを測り、平面形は円形である。Ｄ２号土坑は径75cm、深さ18cmを測り、平面形は円形である。Ｄ３号土坑は長軸104cm、深さ25cmを測り、平面形は隅丸方形である。鉄製鎌が出土した。（最大幅4.1cm、最大厚0.95cm、長さ27cm、重量150g）土坑はいずれもＨ５号内に存在し、住居址を切る。

第32図　土坑実測図

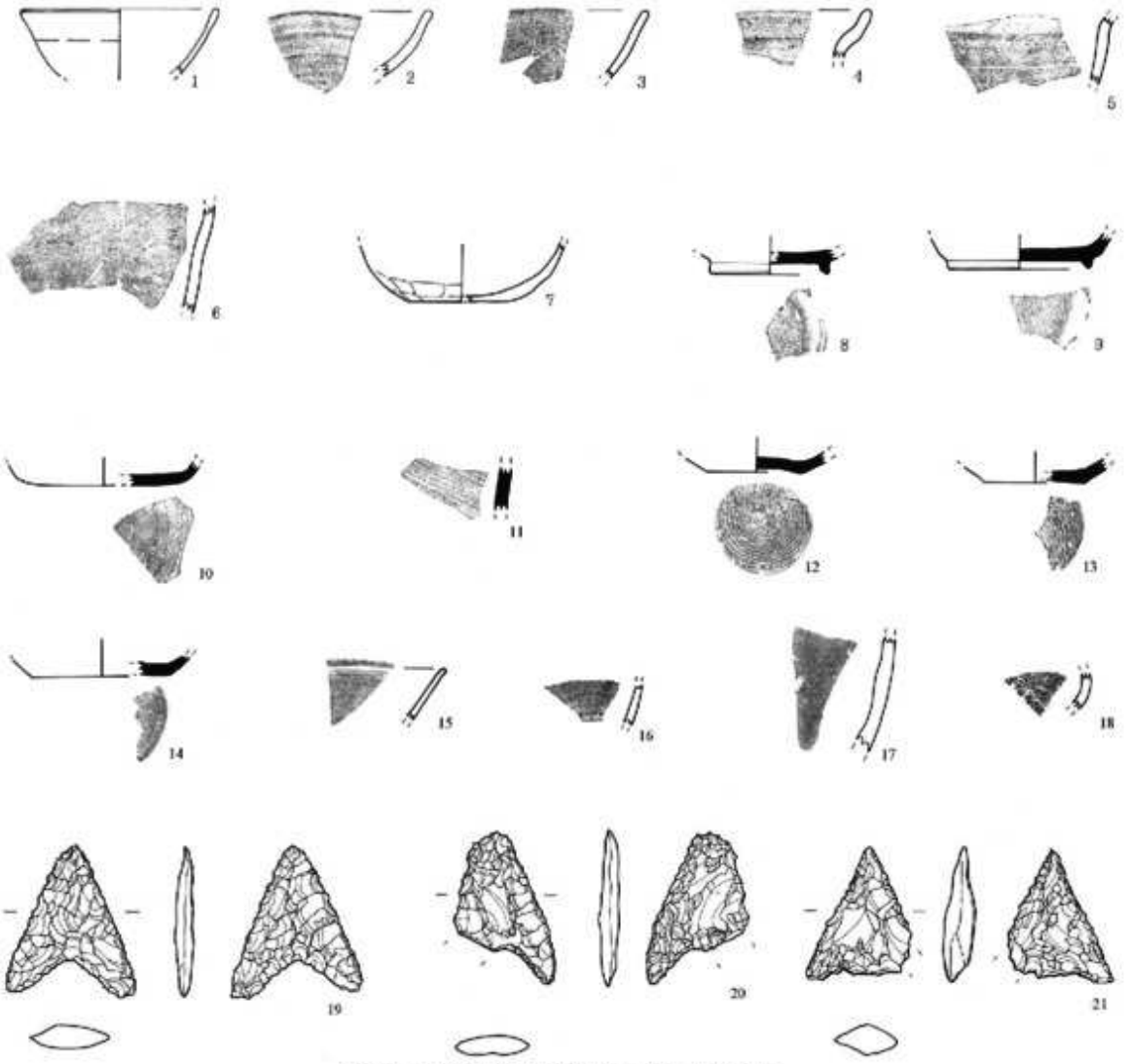
第４節　ピット

北側調査区のＨ４号住居址北側周辺に集中して確認できた。掘り込みがしっかりしたものが多いことから掘立柱建物址の柱穴である可能性も考えられるが、調査範囲の制約から全体像を確認できないため単独のピットとした。



第33図　ピット実測図

第５節　遺構外遺物



第34図　遺構外遺物実測図（No.19～21は1/1）

番号	器種	器形	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	調整・文様	残存率・部位	焼成	色調（外面）
1	土師器	坏	(12.1)	—	—	ヨコナデ	口縁破片	良	5YR4/6 赤褐色
2	土師器	坏	—	—	—	ヨコナデ	口縁破片	良	7.5YR5/4 鈍い褐色
3	土師器	坏	—	—	—	ヨコナデ	口縁破片	良	5YR5/3 鈍い赤褐色
4	土師器	甕	—	—	—	ヨコナデ	口縁破片	良	5YR6/4 鈍い橙色
5	土師器	須恵器	—	—	—	ロクロナデ	破片	良	5YR6/6 橙色
6	土師器	甕	—	—	—	外面縦ハケナデ　内面ヘラナデ	破片	良	5YR4/1 褐灰色
7	土師器	鉢？	—	—	—	底部・外面ヘラケズリ　内面ナデ	底部～胴部破片	良	5YR4/4 鈍い赤褐色
8	須恵器	高台付坏	—	(8.8)	—	底部回転ヘラケズリ後高台貼り付け	底部破片	良好	N3/0 暗灰色

第14表　遺構外遺物観察表（１）

番号	器種	器形	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整・文様	残存率・部位	焼成	色調(外面)
9	須恵器	高台付坏	-	(7.2)		底部回転ヘラケズリ 後高台貼り付け	底部破片	良好	N3/0 暗灰色
10	須恵器	坏		(8)	—	底部回転ヘラケズリ	底部破片	良好	N6/0 灰色
11	須恵器	甕				外面平行叩き	破片	良好	N2/0 黒色
12	須恵器	坏	—	6	—	底部回転糸切り	底部100	良	7.5YR6/3 鈍い橙色
13	須恵器	坏	—	(6.2)	—	底部回転糸切り	底部破片	良	2.5YR6/6 橙色
14	須恵器	不		(6.5)	—	底部回転糸切り	底部破片	良	10YR7/3 鈍い黄橙色
15	灰釉陶器	椀	—	—	—	ロクロナデ 内外面灰釉付着	口縁破片	良好	7.5Y7/4 灰白色
16	灰釉陶器	椀	—	—	—	ロクロナデ 内外面灰釉付着	体部破片	良好	7.5YR7/2 灰白色
17	灰釉陶器	壺?	—	—	—	ロクロナデ 外面灰釉付着	破片	良好	10YR8/1 灰白色
18	木器?	椀?				炭化	破片		7.5YR1.7/1 黒色

番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
19	石鏃	黒曜石	2.3	2.1	0.35	0.85	
20	石鏃	黒曜石	2.4	1.5	0.3	0.71	
21	石鏃	黒曜石	2	1.7	0.5	0.87	

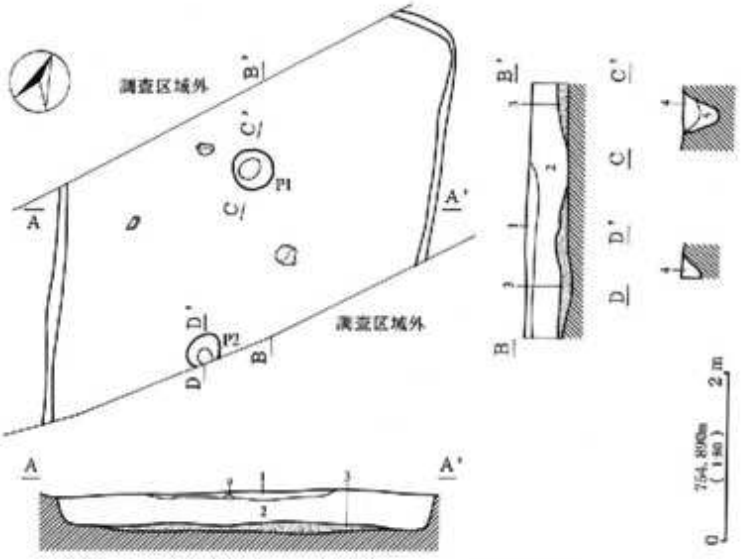
第15表　遺構外遺物観察表(2)

第Ⅳ章　芝宮遺跡群 下曽根遺跡Ⅷ

第１節　竪穴住居址

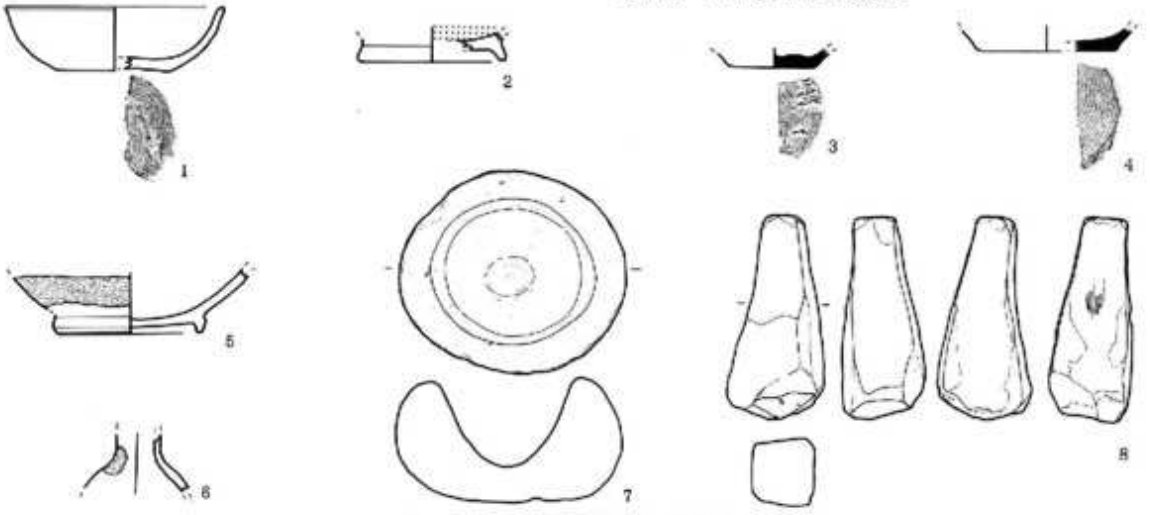
Ｈ１号住居址

遺構は調査区西に位置し、Ｈ２・３号住居址を切り、遺構の北及び南側は調査区域外となる。確認できた規模は南北4.5m、東西3.5m、確認面から床面までの深さは30cm内外を測る。平面形は確認壁から方形又は長方形と考えられる。床面は堅く土間状を呈し、ピットは２個確認できたが主柱穴であるかは不明である。カマドは確認できなかった。遺物は土師器の坏・碗、須恵器の坏、灰釉陶器、鍋臼、砥石が出土した。時期は底部回転糸切り後未調整の須恵器坏、灰釉陶器碗高台の形状から、９世紀後半、平安時代としたい。



1層．黒褐色土（10YR1/3）　ローム粒、礫石少量含む。
2層．暗褐色土（10YR3/3）　ローム、礫石やや多く含む。
3層．暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒多く、礫石含む。
4層．黒褐色土（10YR2/3）　ローム、礫石、炭化物含む。
5層．鈍い黄褐色土（10YR4/3）　ローム主体、暗褐色土含む。

第35図　Ｈ１号住居址実測図



第36図　Ｈ１号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	調整・文様	残存率・部位	焼成	色調（外面）
1	土師器	坏	(13)	(6.6)	(3.7)	ロクロナデ　底部回転糸切り	30	良	7.5YR6/4 鈍い橙色
2	土師器	碗	—	(8.8)	—	内面黒色処理　高台貼り付け	底部高台破片	良	7.5YR6/4 鈍い橙色

第16表　Ｈ１号住居址遺物観察表（１）

番号	器種	器形	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整・文様	残存率・部位	焼成	色調(外面)
3	須恵器	坏	—	(4.8)	—	底部回転糸切り	底部破片	良好	5Y5/2 灰オリーブ色
4	須恵器	坏	—	(8)	—	底部回転糸切り	底部破片	良好	7.5Y5/1 灰色
5	灰釉陶器	瓶	—	8.3	—	ロクロナデ　内外面灰釉付着　底部高台貼り付け	体部100	良好	5Y6/1 灰色
6	灰釉陶器	小壺	—	—	—	ロクロナデ　外面灰釉付着	胴部・頸部破片	良好	N7/0 灰白色

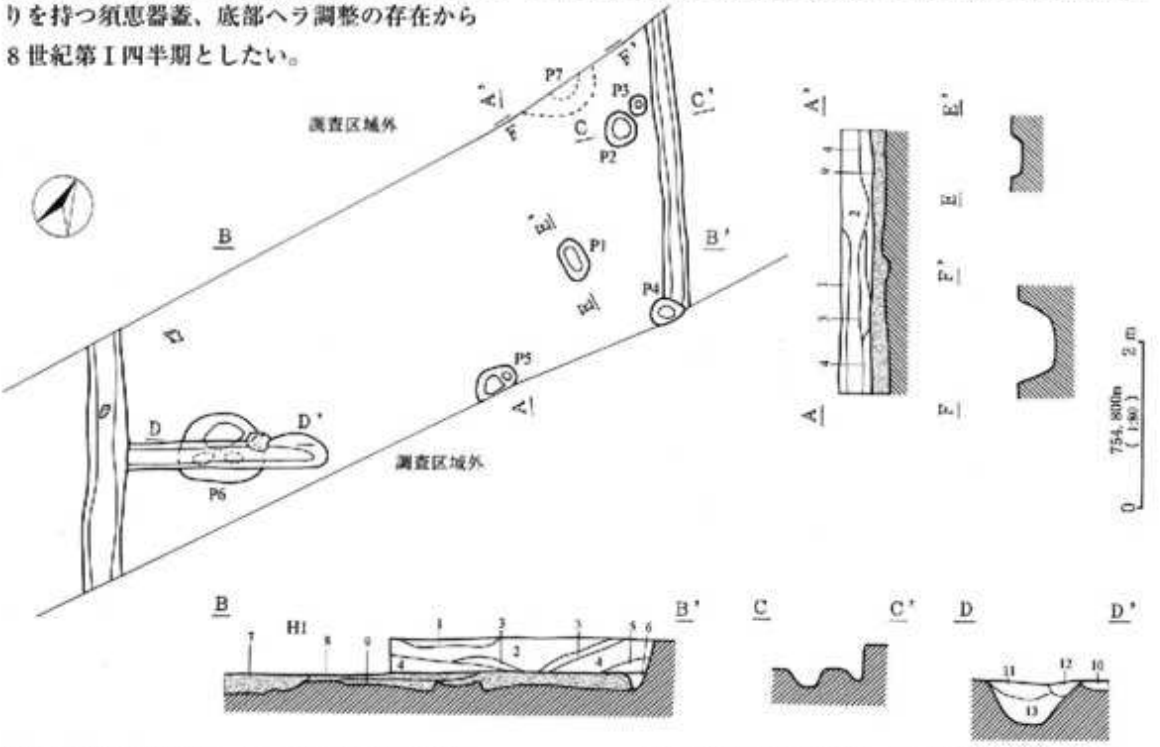
番号	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
7	鉢臼	輝石安山岩	29.3	11.4	10.2	3300	
8	砥石	砂岩	17.9	3.6～8	4～7.8	1334	

第17表　Ｈ１号住居址遺物観察表（２）

Ｈ２号住居址

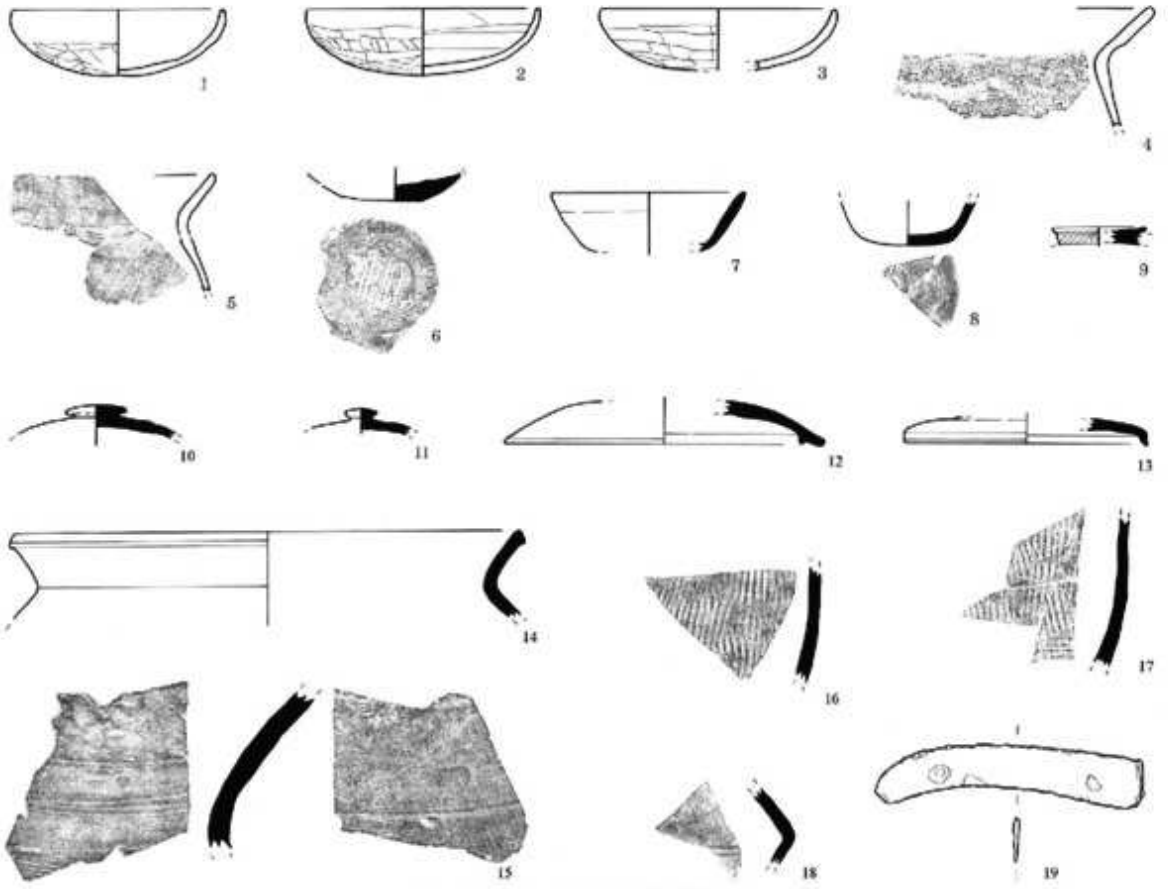
遺構は調査区西に位置し、Ｈ１に切られる。遺構の南及び北側は調査区域外となる。確認できた規模は東西7.2m、南北3.2m、確認面までの深さ38cmを測る。平面形態は１辺７ｍを超えるやや大型の方形又は長方形と考えられる。床面は堅く土間状を呈し、Ｈ１号住居址の床面より低く、壁際に周溝が存在する。床面上から６個のピットが確認できたが主柱穴であるかは断定できない。カマドは確認できなかった。

遺物は薄手で底部丸底手持ちヘラケズリの土師器の坏、頸部「く」の字の土師器甕、環状・宝珠型のつまみを持ち返り有無の須恵器蓋、底部ヘラ調整された平底の須恵器坏、外面叩きを施した須恵器甕、鉄製鎌が出土した。鎌は長さ15.8cm、幅3cm、厚さ0.44cm、重量45ｇを測る。時期は半球状で器高の低い土師器坏、返りを持つ須恵器蓋、底部ヘラ調整の存在から８世紀第Ｉ四半期としたい。



1層．黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒、軽石少量含む。
2層．暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒、軽石、炭化物含む。
3層．黒褐色土（10YR2/3）　黒色土と暗褐色土の混合土。
4層．暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒やや多く軽石、炭化物含む。
5層．黒褐色土（10YR2/3）　ローム粒やや多く軽石、炭化物含む。
6層．暗褐色土（10YR3/4）　ローム多くしまりなし。
7層．暗褐色土（10YR3/4）　暗褐色土とロームの混合土。上面硬質。
8層．褐色土（10YR4/4）　暗褐色土とロームの混合土。上面硬質。
9層．褐色土（10YR4/6）　暗褐色土とロームの混合土。上面硬質。
10層．暗褐色土（10YR3/4）　ローム多く、上面硬質。
11層．褐色土（10YR4/4）　ローム土体。暗褐色土含む。やや硬質。
12層．暗褐色土（10YR3/4）　ローム多く、やや砂質。
13層．褐色土（10YR4/6）　ローム土体。暗褐色土含む。やや砂質。

第37図　Ｈ２号住居址実測図



第38図　Ｈ２号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整・文様	残存率・部位	焼成	色調（外面）
1	土師器	坏	(12.5)	丸底	3.9	口縁ヨコナデ　外面ヘラケズリ　内面ナデ	40	良	5YR6/6 橙色
2	土師器	坏	(13.8)	丸底	3.9	口縁ヨコナデ　外面ヘラケズリ　内面ナデ	30	良	5YR6/4 鈍い橙色
3	土師器	坏	(14)	丸底	—	口縁ヨコナデ　外面ヘラケズリ　内面ナデ	30	良	5YR6/4 鈍い橙色
4	土師器	甕	—	—	—	口縁ヨコナデ　胴部外面ヘラケズリ　内面ヘラナデ	口縁破片	良	7.5YR7/4 鈍い橙色
5	土師器	甕	—	—	—	口縁ヨコナデ　胴部外面ヘラケズリ　内面ヘラナデ	口縁破片	良	7.5YR6/3 鈍い褐色
6	須恵器	坏	—	4	—	底部タシ状ヘラケズリ　周辺部ヘラ調整	底部100	不良	7.5YR7/4 鈍い橙色
7	須恵器	坏	(11.4)	—	—	ロクロナデ	口縁～胴部破片	良	5YR4/1 褐灰色
8	須恵器	坏	—	(5.4)	—	ナデ　底部ヘラケズリ	胴部～底部破片	良好	10YR5/1 褐灰色
9	須恵器	蓋	—	—	—	ナデ　環状つまみ貼り付け	つまみ破片	良好	10YR6/1 褐灰色
10	須恵器	蓋	—	—	—	天井部ヘラケズリ　つまみ貼り付け	天井部・つまみ 破片	不良	5YR6/3 鈍い橙色
11	須恵器	蓋	—	—	—	ナデ　宝珠つまみ貼り付け	天井部・つまみ 破片	良好	7.5YR5/1 灰色
12	須恵器	蓋	(19)	—	—	内外面ナデ　外面自然釉付着　返りあり	破片	良好	5Y8/2 灰白色
13	須恵器	蓋	(14.4)	—	—	ナデ　天井部自然釉付着	破片	良好	N4/3 灰色
14	須恵器	甕	(30)	—	—	外面叩き　内面ナデ	口縁破片	良	7.5YR6/1 灰色
15	須恵器	甕	—	—	—	外面叩き　自然釉付着　内外面ナデ	破片	良好	2.5GY3/1 暗オリーブ灰色

第18表　Ｈ２号住居址遺物観察表（１）

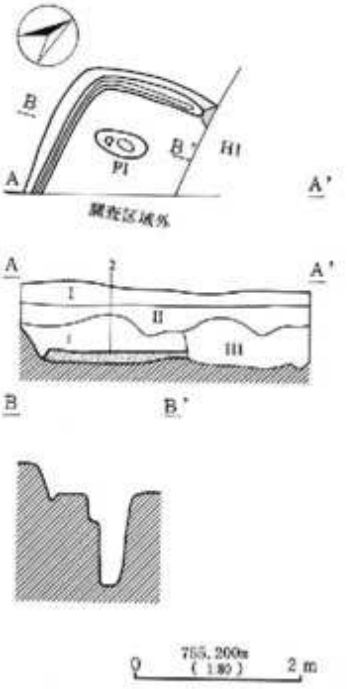
番号	器種	器形	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整・文様	残存率・個体	硬軟	色調(外面)
16	須恵器	壺	—	—	—	外面平行叩き　内面当て具痕	破片	良好	2.5Y6/2 灰黄色
17	須恵器	壺	—	—	—	外面平行叩き　内面当て具痕	破片	良好	2.5Y6/2 灰黄色
18	須恵器	壺	—	—	—	外面自然釉付着	同部破片	良好	2.5Y7/1 灰白色

第19表　Ｈ２号住居址遺物観察表（２）

Ｈ３号住居址

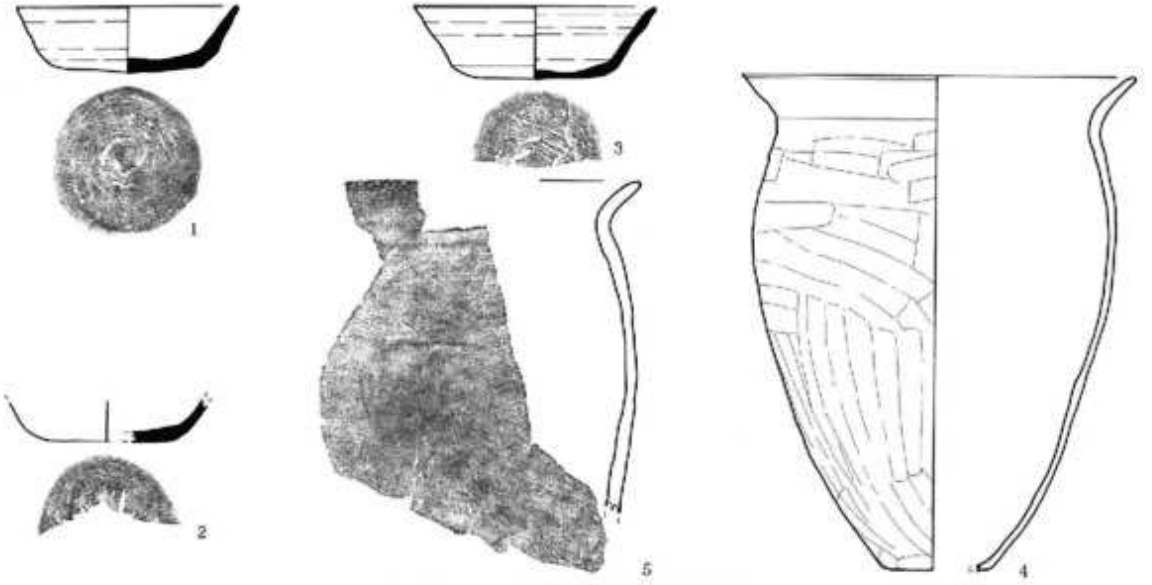
遺構は調査区最西端に位置し、東側をＨ１に切られ、南側は調査区域外となる。確認できたのは北西コーナー付近のみである。規模は東西1.8m、南北1.6m、確認面からの深さ45cmを測る。平面形は方形又は長方形と考えられる。床面は堅く土間状を呈し、壁際に幅15cm内外の周溝が認められた。床面上からは１個のピットが確認でき、位置及び規模から主柱穴と考えられる。北壁の東側であるＨ１との境付近には、半円形に堆積した焼土及び粘土の散布が認められることから、この付近にカマドが存在し、Ｈ１構築時に大きく破壊されたものと考えられた。

遺物は薄手の底部小径で頸部「く」の字の土師器甕、底部全面にヘラ調整を施した須恵器坏が出土した。土師器甕はつぶれた状態で床直上から出土した。時期は土師器甕の形状及び底部ヘラ調整された須恵器坏の存在から奈良時代、８世紀第Ⅱ四半期としたい。



Ⅰ．表土
Ⅱ．カクラン（撹乱）
１層．暗褐色土　（10YR3/4）　ローム粒，砂土、炭化物含む。
２層．褐色土　（10YR4/4）　ローム多く上面硬質（踏方）。

第39図　Ｈ３号住居址実測図



第40図　Ｈ３号住居址遺物実測図（１）

第41図　Ｈ３号住居址遺物実測図（２）

番号	器種	器形	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整・文様	残存率・部位	焼成	色調（外面）
1	須恵器	坏	11	8.4	3.9	ロクロナデ　底部回転ヘラケズリ	98	良好	10YR7/1 灰白色
2	須恵器	坏	—	8.5	—	ロクロナデ　底部ヘラケズリ	底部50	良	10YR5/1 褐灰色
3	須恵器	坏	14.2	8.6	4.2	ロクロナデ　底部ヘラケズリ	50	良好	5Y6/1 灰色
4	土師器	甕	23.5	6.6	29.2	口縁ヨコナデ　外面ヘラケズリ　内面ヘラナデ	70	良	5YR5/4 鈍い赤褐色
5	土師器	甕	—	—	—	口縁ヨコナデ　胴部外面ヘラケズリ　内面ヘラナデ	口縁～胴部破片	良	7.5YR6/4 鈍い橙色
6	土師器	甕	(22.8)	—	—	口縁ヨコナデ　胴部外面ヘラケズリ　内面ヘラナデ	口縁破片	良	5YR5/4 鈍い赤褐色
7	土師器	甕	—	—	—	口縁ヨコナデ　胴部外面ヘラケズリ　内面ヘラナデ	口縁破片	良	5YR6/6 橙色
8	土師器	甕	—	—	—	口縁ヨコナデ　胴部外面ヘラケズリ　内面ヘラナデ	口縁破片	良	5YR6/6 橙色
9	土師器	甕	—	7	—	外面・底部ヘラケズリ　内面ナデ	底部100	良	7.5YR7/6 橙色

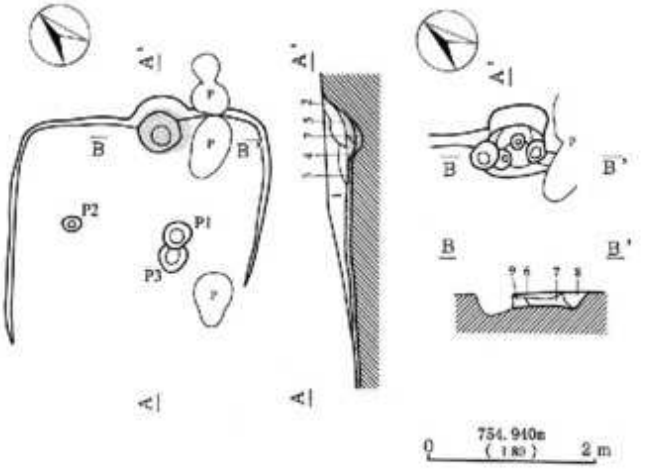
第20表　Ｈ３号住居址遺物観察表

Ｈ４号住居址

遺構は調査区東寄りに位置し、西側は近年の畑地造成に伴い削り取られ、一部ピットに破壊されている。確認できた規模は東西３m、南北2.8m、確認面から床面までの深さは最大32cmを測る。平面形は残存状況から方形と考えられる。床面は堅くピットは３個確認できＰ１・２は主柱穴の可能性がある。カマドは西壁のやや南寄りに構築されているが焼土の堆積した火床を残し、完全に破壊され、火床から煙道の立ち上がりにかけて壁面が堅く焼土化している。

遺物は土師器の甕、須恵器の坏・甕が出土したが大半は小破片である。図示したのは２点で１は須恵器蓋で宝珠つまみ貼り付けである。２は土師器甕で口縁から頸部は広めに横ナデされ緩やかに外反する。器厚は薄手である。

時期は甕の頸部形状から平安時代、８世紀第Ⅲ四半期としたい。



1層．暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒・ブロック、軽石、炭化物含む
2層．鈍い黄褐色土（10YR4/3）　ローム多く軽石，粘土，焼土含む。
3層．暗褐色土（10YR3/4）　ロームブロック、軽石やや多い。
4層．鈍い赤褐色土（2.5YR5/3）　灰、焼土含む。しまりなし。
5層．明赤褐色土（2.5YR5/8）　焼土層。
6層．赤褐色土（10R5/3）　焼土ブロック。
7層．暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒、粘土粒少量。
8層．暗褐色土（10YR3/4）　粘土粒、しまりなし。
9層．鈍い黄褐色土（10YR4/3）　粘土粒、ロームブロック含む。
10層．褐色土（10YR4/4）　ローム多く、暗褐色土含む。硬質。

第42図　Ｈ４号住居址実測図

第43図　Ｈ４号住居址遺物実測図

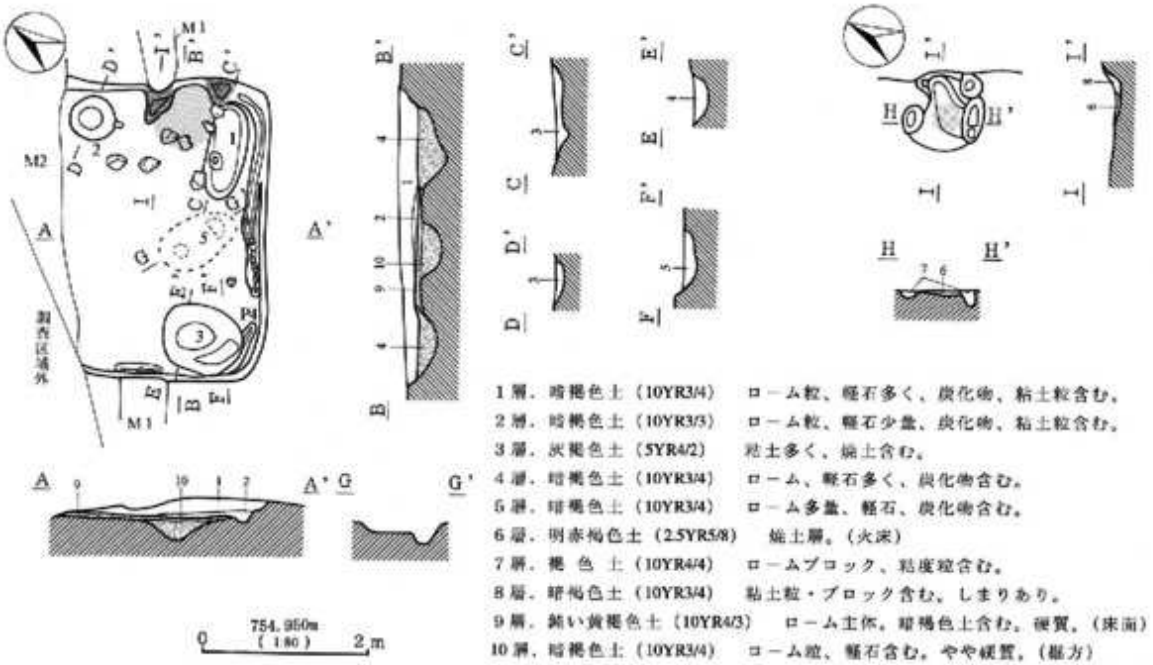
番号	器種	器形	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	調整・文様	残存率・部位	焼成	色調（外面）
1	須恵器	壺	—	—	—	天井部回転ヘラケズリ　つまみ貼り付け	天井部、つまみ破片	良好	10YR5/1 褐灰色
2	土師器	甕	(19.5)	—	—	口縁ヨコナデ　胴部外面ヘラケズリ　内面ヘラナデ	口縁～胴部破片	良好	2.5YR5/6 明赤褐色

第21表　Ｈ４号住居址遺物観察表

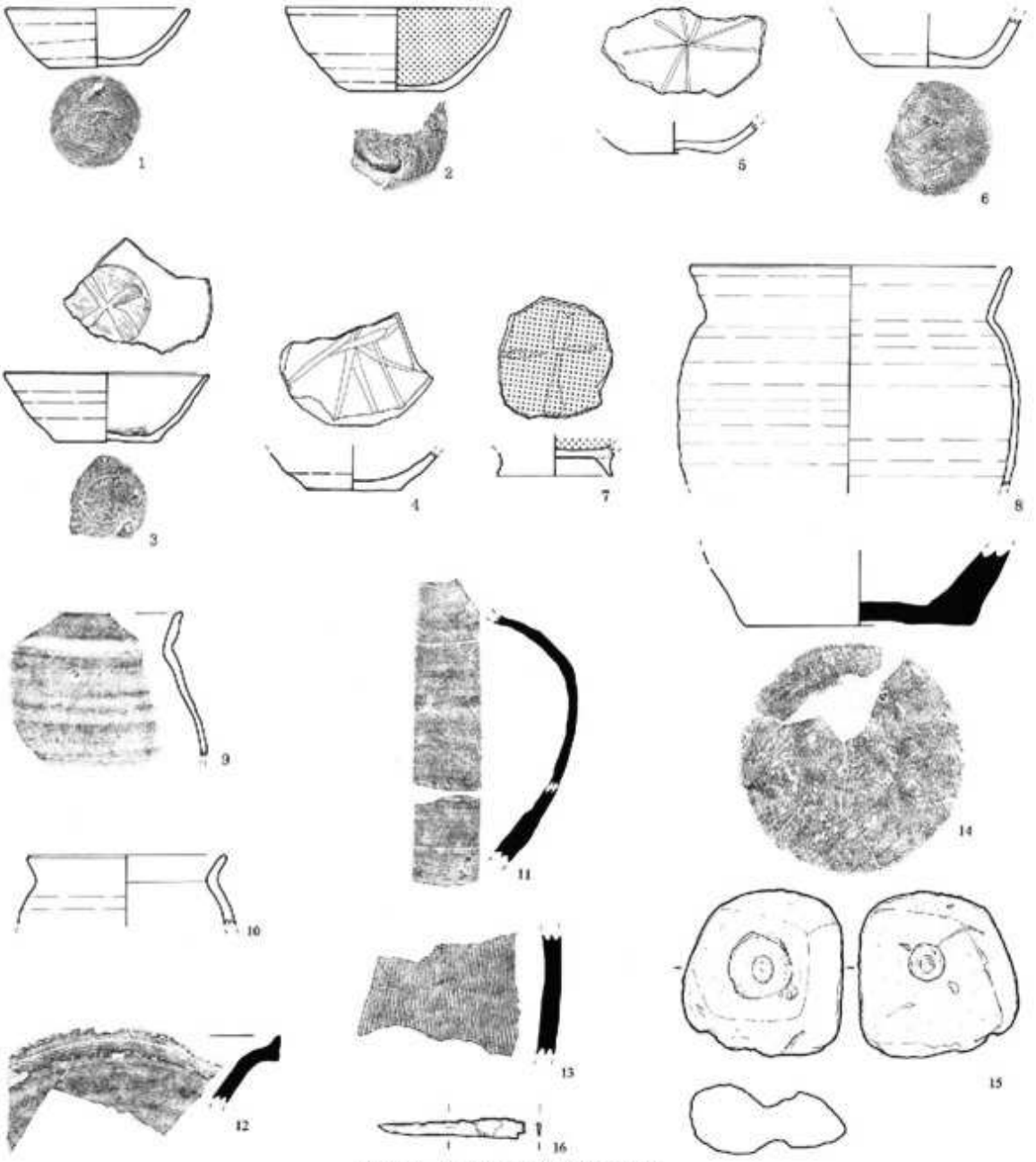
Ｈ５号住居址

遺構は調査区東に位置し、Ｍ１・２に切られる。北側はＭ２に完全に破壊されている。確認できた規模は南北3.6m、東西2.4m、確認面から床面までの深さは最大15cmと浅い。上部は畑地造成によって削り取られたと考えられる。床面はやや堅く、床面上からピットは確認できなかった。カマドは北壁中央に構築されているが大半が破壊され、周辺に粘土、土器片が散乱していた。また、掘方調査によって床面では確認できなかった北東コーナーの土坑状の窪み、南東コーナーの土坑、壁際の周溝が新たに認められた。

遺物は土師器の坏・碗、須恵器の甕・壺・轆轤甕・刀子が出土した。土師器坏は底部回転糸切り後未調整で内面に放射状の暗文を施すものが存在する。土師器碗は高台貼り付けで内面黒色処理、放射状の暗文を施す。須恵器甕は底部、口縁、体部の破片が認められ赤みを帯び焼成不良である。轆轤甕は大小存在する。轆轤甕大の胴下半は縦方向のヘラケズリを施す。刀子は長さ9.7cm、幅1.4cm、厚さ0.6cm、重量11gを測る。時期は内面に暗文を施す坏の割合が高いことから平安時代、10世紀前半としたい。



第44図　Ｈ５号住居址実測図



第45図　H５号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	調整・文様	残存率・部位	焼成	色調（外面）
1	土師器	坏	11.9	5.8	4.1	ロクロナデ　底部回転糸切り	100	良	5YR5/6 明赤褐色
2	土師器	坏	(14.6)	(6.2)	5.5	外面ロクロナデ　内面黒色処理　底部回転糸切り	50	良	2.5YR5/6 明赤褐色
3	土師器	坏	(13.4)	(6.4)	4.6	内外面ロクロナデ　内面ミコミ部十字暗文 底部回転糸切り	20	良	2.5YR5/6 明赤褐色
4	土師器	坏	—	(6.3)	—	内面放射状暗文　底部回転糸切り	底部70	良	2.5YR6/6 橙色
5	土師器	坏	—	(5.8)	—	内面放射状暗文　底部回転糸切り	底部70	良	2.5YR7/4 淡赤橙色

第22表　H５号住居址遺物観察表（１）

番号	器種	器形	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整・文様	残存率・部位	焼成	色調(外面)
6	土師器	坏	—	7.4	—	ロクロナデ　底部ヘラケズリ	底部80	良	5YR7/6 橙色
7	土師器	椀	—	(7.8)	—	内面黒色処理　十字暗文 底部回転糸切り後高台貼り付け	底部80	良	5YR5/8 明赤褐色
8	土師器	横耳壺	(21.4)	—	—	内外面ロクロナデ	口縁～胴部破片	良	7.5YR5/4 鈍い褐色
9	土師器	横耳壺	—	—	—	内外面ロクロナデ	口縁～胴部破片	良	7.5YR5/4 鈍い褐色
10	土師器	横耳壺	(13.3)	—	—	内外面ロクロナデ	口縁～胴部破片	良	5YR6/3 鈍い橙色
11	須恵器	壺	—	—	—	内外面ロクロナデ	胴部破片	良好	7.5YR6/1 灰色
12	須恵器	甕	—	—	—	ヨコナデ	口縁破片	良	5YR5/2 灰褐色
13	須恵器	甕	—	—	—	外面平行叩き	破片	良	10Y4/3 赤褐色
14	須恵器	甕	—	15	—	底部ヘラケズリ　内外面ヘラナデ	底部20	不良	10YR7/1 灰白色

番号	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	備考
15	敲み石	軽石	15.5	5	6.5	1020	裏面敲み・表面すり痕・焼石

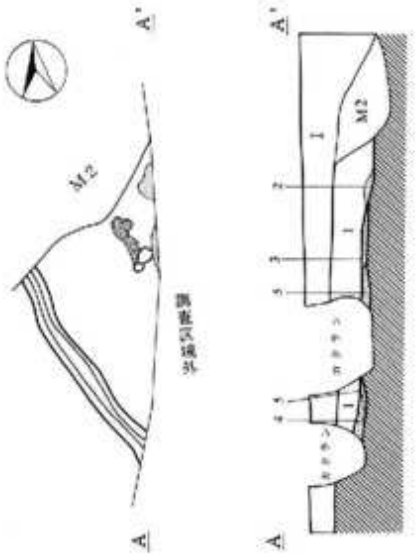
第23表　H５号住居址遺物観察表(２)

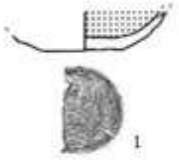
Ｈ６号住居址

遺構は調査区の東に位置する。Ｈ７を切り、Ｍ２に切られ、東側は調査区域外となる。確認できた規模は東西２m、南北2.5m、確認面から床面までの深さは35cmを測る。床面は堅く、北側の調査区境を中心に広く焼土・粘土の散布が認められる。唯一残存していた西壁際には幅15～20cmの周溝が認められた。ピットは確認できなかった。カマドは東側の調査区境付近に焼土の堆積及び粘土の散布が認められることから大半が破壊され、構築材が散乱しているものと考えられた。掘方は５～10cmと比較的薄く暗褐色土、黄褐色土が埋め込まれ、上面は床と思われる硬質面が認められた。

遺物は土師器の坏・甕、須恵器の坏・甕が出土した。いずれも小破片である。図示したのは１点で回転糸切り後未調整の土師器坏で内面黒色処理を施す。

本住居址は出土遺物から平安時代８世紀後葉～９世紀としたい。





第46図　Ｈ６号住居址遺物実測図

1層．暗褐色土（10YR3/3）　ローム粒、軽石、炭化物含む。
2層．赤褐色土（2.5YR4/8）　焼土層。カマド火床。
3層．暗褐色土（2.5YR3/6）　焼土層。
4層．暗褐色土（10YR3/4）　ローム、軽石、炭化物やや多い。
5層．鈍い黄褐色土（10YR4/3）黄褐色土と暗褐色土の混合土。上部硬質。（掘方）

第47図　Ｈ６号住居址実測図

番号	器種	器形	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整・文様	残存率・部位	焼成	色調(外面)
1	土師器	坏	—	5	—	内面黒色処理　底部回転糸切り	底部破片	良	5YR7/4 鈍い橙色

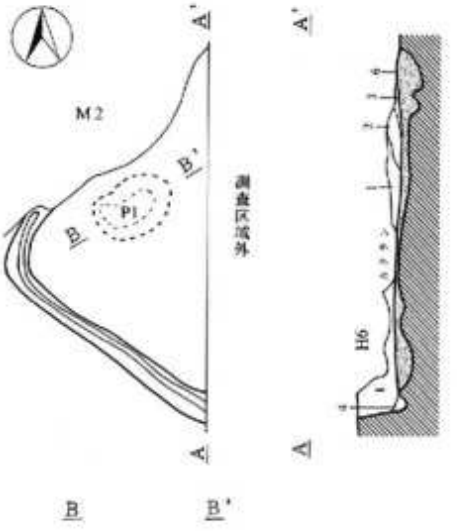
第24表　Ｈ６号住居址遺物観察表

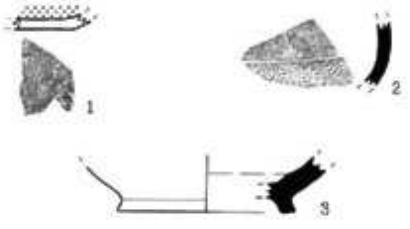
Ｈ７号住居址

遺構は調査区西際に位置し、Ｈ６（遺構は本遺構の覆土内に収まり、確認壁、床面への影響はない）、Ｍ２に切られ、西側は調査区域外となる。確認できた規模は東西3.1m、南北3.2m、確認面から床面までの深さは48cmを測る。床面は堅く土間状を呈し、確認できた壁の際には幅 15cm内外の周溝が認められた。カマド及び床面上でのピット確認はできなかった。掘方は壁際がやや深く掘り込まれ、中央付近は浅い状態で褐色土が埋め込まれていた。掘方によってピット１個が確認でき、位置的に貯蔵穴である可能性が伺われた。

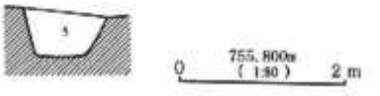
遺物は土師器坏・甕、須恵器の壺が出土したがいずれも小破片である。図示したのは３点である。

時期は遺物の出土量が僅かなため断定はできないが平安時代の可能性が考えられる。





第48図　Ｈ７号住居址遺物実測図



１層．暗褐色土（10YR3/4）　ローム粒、礫石、炭化物含む。
２層．褐　色　土（10YR4/4）　ローム多く、炭化物含む。
３層．褐　色　土（10YR4/6）　ローム主体。粘土粒含む。
４層．暗褐色土（10YR3/4）　しまりなし。（河川）
５層．褐　色　土（10YR4/6）　ローム主体。しまりなし。
６層．褐　色　土（10YR4/4）　ローム主体。暗褐色土含む。上面硬質。

第49図　Ｈ７号住居址実測図

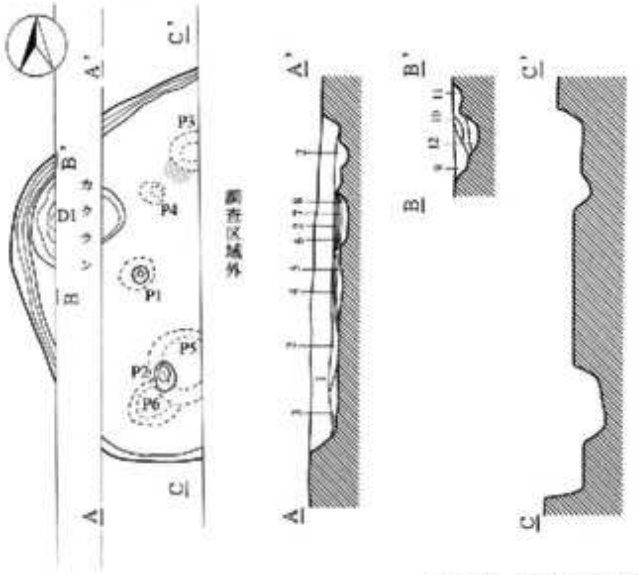
番号	器種	器形	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	調整・文様	残存率・部位	焼成	色調（外面）
1	土師器	坏	—	—	—	内面黒色処理　底部回転糸切り	底部破片	良	5YR6/6 橙色
2	須恵器	甕	—	—	—	外面櫛描波状文	破片	良好	5YR5/1 灰色
3	須恵器	壺	—	(10.5)	—	内外面ロクロナデ　高台貼り付け	底部破片	良	5RP4/1 暗紫灰色

第25表　Ｈ７号住居址遺物観察表

Ｈ８号住居址

遺構は調査区の台地北端に位置し、東及び西側は調査区域外となり、一部を湧水によって破壊されている。確認できた規模は東西2.4m、南北4.0m、確認面から床面までの深さは25cmを測る。確実な平面形は不明であるが、確認壁の状況から方形または長方形と考えられる。南壁を除き壁際に周溝が認められた。床面は平坦で固く土間状を呈している。床面上からピット２個、北西コーナー付近に土坑１基、一部に焼土の散布が確認できた。カマドは認められなかった。掘方は15cm内外の厚みで暗褐色土が埋め込まれていた。

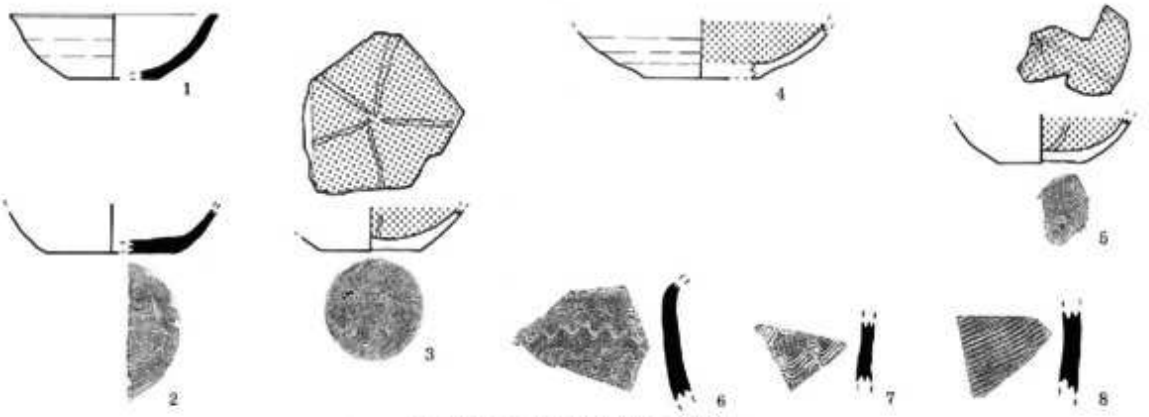
遺物は土師器の坏・甕、須恵器の坏・甕が出土している。土師器坏は底部回転糸切り、内面黒色処理を施すもの、内面黒色処理後暗文を施し、土師器甕は頸部「く」の字状で口辺部が短いもの及び糠糠甕が認められる。須恵器坏は薄手の口縁破片及び底部にヘラ調整を施す破片が存在する。須恵器甕は外面に櫛描波状文を施す。本住居址の年代は、底部ヘラ調整を施す時期の遡る特徴を有する須恵器坏が認められるものの（混入遺物？）、内面黒色で暗文を施し内彎気味の土師器坏の存在、口縁立ち上がりの短い土師器甕の存在から平安時代、9世紀後半としたい。小破片は写真図版参照（９～28）。



1．黒褐色土　（10YR2/3）　ローム粒、小石少量。炭化物。
2．暗褐色土　（10YR3/3）　ローム多い。しまりあり。
3．暗褐色土　（10YR3/4）　ローム主体。しまりあり。
4．褐色土　（10YR4/4）　ローム層。
5．黒褐色土　（10YR2/3）　ローム粒多い。
6．褐色土　（10YR4/6）　ローム層。
7．黒褐色土　（10YR2/2）　ローム少量。
8．鈍い黄褐色土（10YR5/4）　ローム少量。
9．黒褐色土　（10YR3/3）　ローム多い。炭化物。
10．褐色土　（10YR4/6）　ローム主体。
11．暗褐色土　（10YR3/4）　ローム多い。
12．黒褐色土　（10YR2/3）　ロームと黒色土の混合。黒色土多い。

755.700m
（189）
0　2m

第50図　H８号住居址実測図



第51図　H８号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	調整・文様	残存率・部位	焼成	色調（外面）
1	須恵器	坏	(12.2)	(5.3)	3.8	ロクロナデ	口縁～底部破片	良	2.5YR4/3 鈍い赤褐色
2	須恵器	坏	—	7.7	—	底部回転糸切り	体部～底部破片	良好	2.5Y5/2 暗灰黄色
3	土師器	坏	—	5.9	—	外面ロクロナデ　内面黒色処理放射状暗文 底部回転糸切り	底部100	良	5YR5/3 鈍い赤褐色
4	土師器	坏	—	(6.8)	—	外面ロクロナデ　内面黒色処理	口縁～底部破片	良	7.5YR7/4 鈍い橙色
5	土師器	坏	—	(4.9)	—	内面黒色処理　放射状暗文　底部回転糸切り	体部～底部破片	良	7.5YR7/4 鈍い橙色
6	須恵器	甕	—	—	—	外面櫛描波状文	破片	良好	10Y4/1 灰色
7	須恵器	甕	—	—	—	外面櫛描波状文	破片	良好	5Y4/1 灰色
8	須恵器	甕	—	—	—	外面平行叩き	破片	良好	10YR5/1 褐灰色

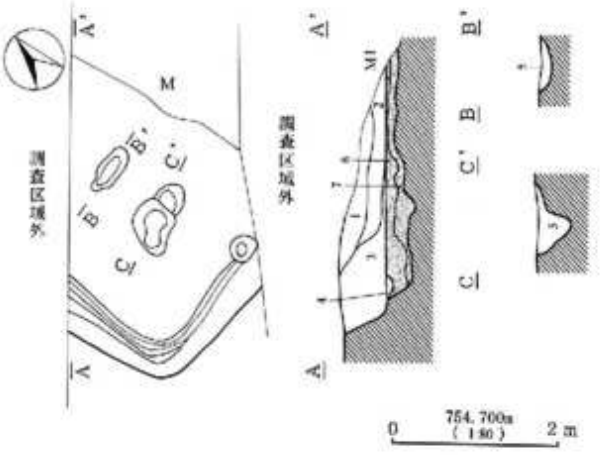
第26表　H８号住居址遺物観察表

Ｈ９号住居址

遺構は調査区の西端に位置し、Ｍ４に切られる。確認できた規模は西壁1.4m、南壁1.6m、確認面から床面までの深さは50cmを測る。平面形態は残存状況から方形または長方形と考えられる。床面は平坦で硬く土間状を呈し、ピットは３個認められたが主柱穴であるかは不明である。壁からやや離れた位置に幅15～20cmの周溝が巡っている。焼土及びカマドは確認できなかった。掘方は中央で10cm内外と浅く、壁付近は30cmと深い状態で暗褐色・鈍い黄褐色土が埋め込まれていた。

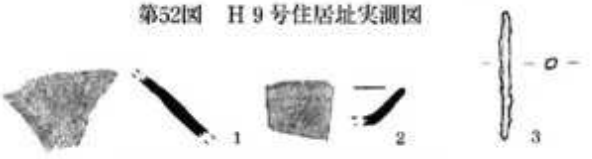
遺物は土師器の坏、須恵器の坏・甕、針状鉄製品、炭化米が出土した。土器はいずれも小破片である。また調査区域外境の断面覆土から「常－」（２文字目は不明）と刻まれた須恵器蓋の刻書土器片が出土した。針状製品は長さ3.8cm、径0.2cm、重量0.9gを測る。

本住居址の年代は、厚手の土師器坏及び底部ヘラ調整の須恵器坏の存在から８世紀前半、奈良時代としたい。



1．暗褐色土　(10YR3/3)　ローム、軽石。
2．暗褐色土　(10YR3/3)　ローム、軽石（１＜２）。炭化物。
3．暗褐色土　(10YR3/4)　ローム、軽石、炭化物。
4．暗褐色土　(10YR3/3)　ローム、炭化物。（周溝）
5．暗褐色土　(10YR3/4)　ローム多い。しまりなし。
6．暗褐色土　(10YR3/4)　黒色土ローム、褐色土の混合。しまりあり。上面特に硬い床面。

第52図　Ｈ９号住居址実測図



第53図　Ｈ９号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整・文様	残存率・部位	焼成	色調（外面）
1	須恵器	蓋	—	—	—	ロクロナデ　天井部刻書「常－」	破片	良	7.5YR4/3 暗い赤褐色
2	須恵器	坏	—	—	—	ロクロナデ　底部ヘラケズリ	口縁～底部破損	良好	2.5YR5/2 灰赤色

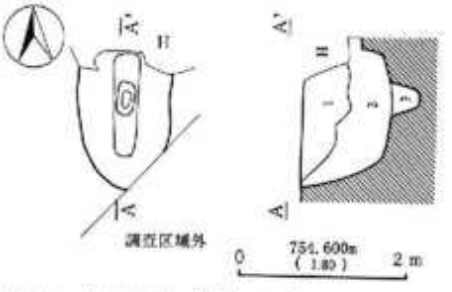
第27表　H9号住居址遺物観察表

第２節　土坑

Ｄ１号土坑

遺構は調査区西側に位置し、北側をＨ９号住居址に切られ、南東隅の一部は調査区域外となる。規模は残存規模で南北1.64m、東西1.12m、深さ1.0m測る。平面形態は楕円形と思われる。底面の中央には南北40cm、東西20cm、深さ35cmのピットが存在する。

遺構内から本土坑に伴うと思われる遺物は出土しなかったが、形状から縄文時代の落とし穴と考えられる。本遺跡の北に所在する曽根城遺跡では黒曜石製の石鏃が出土していることから、遺跡周辺は狩り場として利用されていたと推察される。



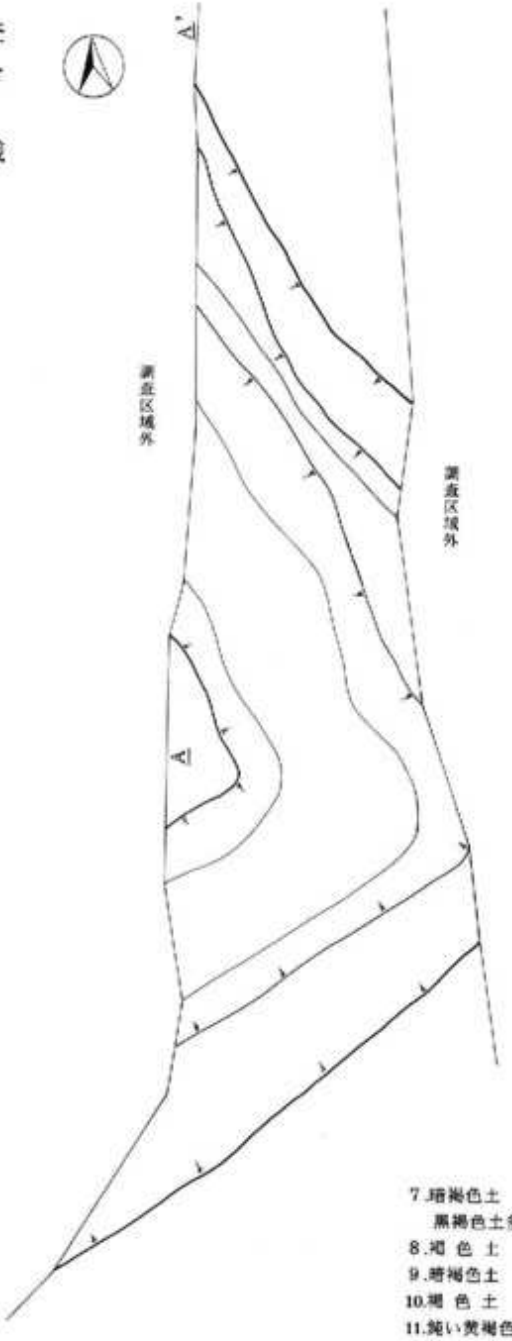
1．黒褐色土　(10YR2/3)　軽石、ローム粒。
2．暗褐色土　(10YR3/4)　ローム多く、軽石含む。
3．鈍い黄褐色土（10YR5/3）黒褐色土含む。しまりなし。

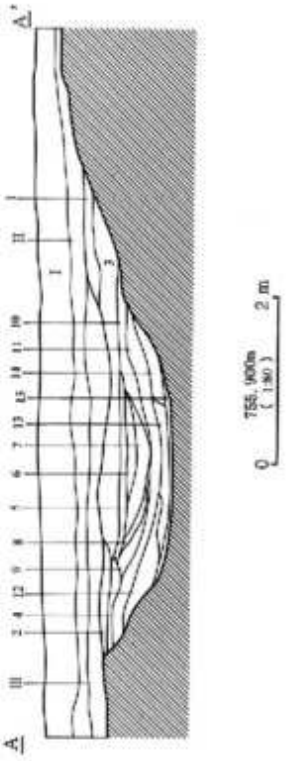
第54図　Ｄ１号土坑実測図

第３節　溝跡

Ｍ１号溝跡

遺構は調査区東に位置し、およそ東西方向に延び、調査区域外に至り、Ｈ５・６・７を切る。確認規模は東西12m、幅60cm内外、深さは10cmと浅い。





1.暗褐色土　(10YR3/3)
ローム粒、軽石、赤色粒。
2.暗褐色土　(10YR3/4)
ローム粒、軽石、赤色粒やや多い。
3.暗褐色土　(10YR3/3)
ローム粒多い。黒褐色土含む。
4.黒褐色土　(10YR2/2)
ローム粒、軽石少量。
5.褐　色　土　(10YR4/6)
ローム主体。軽石少量。
6.暗褐色土　(10YR3/4)
ローム粒、軽石多い。
7.暗褐色土　(10YR3/3)　ローム粒、軽石多い。
黒褐色土多い。
8.褐　色　土　(10YR4/6)　ローム主体。黒褐色土含む。
9.暗褐色土　(10YR3/3)　ローム粒、黒褐色土含む。
10.褐　色　土　(10YR4/4)　ローム粒、黒褐色土含む。
11.鈍い黄褐色土(10YR4/3)ローム粒少。ややシルト質。
12.鈍い黄褐色土(10YR5/4)シルト質。しまりなし。
13.鈍い黄褐色土(10YR4/3)シルト質。しまりなし。
14.褐　色　土　(10YR4/4)　シルトと砂の混合。
15.褐灰色土　(10YR5/1)　砂礫層。

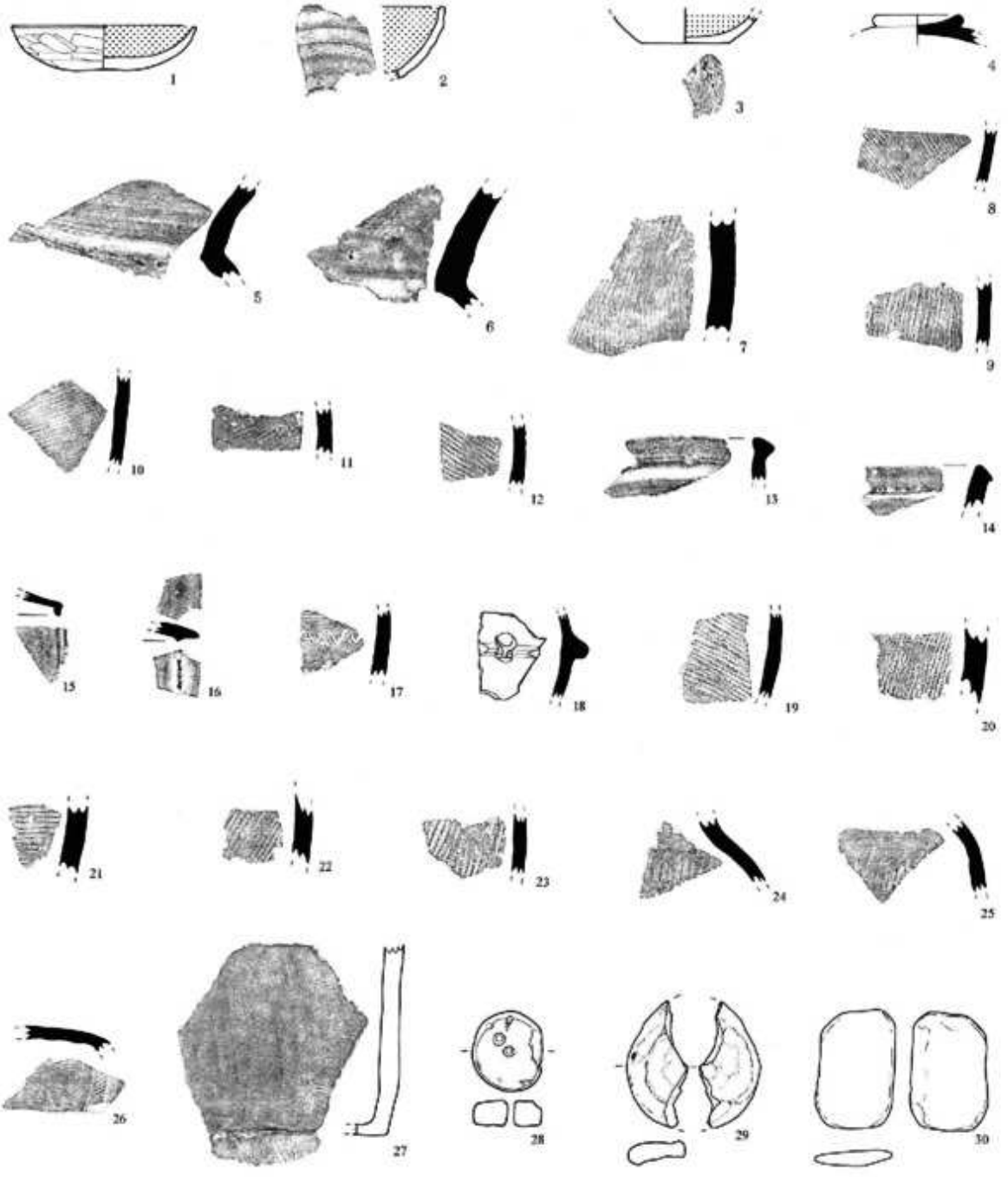
Ⅰ．暗褐色土　(10YR3/3)　表土。耕作土。腐化物
Ⅱ．黒褐色土　(10YR3/2)　表土。耕作土。
Ⅲ．黒褐色土　(10YR3/2)　表土。耕作土。ローム（Ⅱ＜Ⅲ）

第55図　Ｍ１・２号溝跡実測図

Ｍ２号溝跡

Ｍ２号溝跡はＭ１号溝跡の南に位置し、Ｈ５・６・７を切り、調査区内にて方向を約90度変えるコーナー部が確認できた。規模は確認面上での幅4m、底幅1.2m、長さ８m、深さは0.8mを測る。覆土は上層に暗褐色土、中間から下層にかけて砂、砂礫層が堆積していた。

遺物は土師器、須恵器、土鍋が出土した。住居址と切り合い関係にあることから土師器・須恵器は流れ込みと考えられるが、遺物内に土鍋片が含まれ、Ｍ１同様、周辺は曽根城跡と称されることから中世の遺構である可能性が伺われる。



第56図　Ｍ２号溝跡遺物実測図（No.30のみ1/2）

番号	器種	器台	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	調整・文様	残存率・部位	焼成	色調（外面）
1	土師器	坏	(12.8)	丸底	3	口縁ヨコナデ　外面ヘラケズリ　内面黒色処理	30	良	5YR7/4 鈍い橙色
2	土師器	坏	—	—	—	外面ロクロナデ　内面黒色処理暗文	口縁破片	良	5YR4/6 赤褐色
3	土師器	坏		(6)	—	外面ロクロナデ　内面黒色処理　底部回転糸切り	底部破片	良	10YR5/4 鈍い黄褐色
4	須恵器	蓋	—	—	—	環状つまみ貼り付け	つまみ破片	良好	7.5YR5/1 灰色
5	須恵器	壺	—	—	—	ロクロナデ	頸部破片	良好	10Y4/1 灰色
6	須恵器	甕		—	—	ロクロナデ	胴部破片	良	10YR4/1 褐灰色
7	須恵器	壺	—	—		外面叩き　内面同心円弧で且擦	破片	良	10Y2.4/1 黒褐色
8	須恵器	壺	—	—		外面平行叩き	破片	良好	2.5GY4/1 暗オリーブ灰色
9	須恵器	壺	—		—	外面平行叩き	破片	良好	2.5YR5/2 灰赤色
10	須恵器	甕		—	—	外面平行叩き	破片	良好	10YR5/1 褐灰色
11	須恵器	壺	—	—	—	外面平行叩き	破片	良好	10YR7/1 灰白色
12	須恵器	壺		—	—	外面平行叩き	破片	良好	10YR3/1 黒褐色
13	須恵器	壺	—	—		外面自然釉付着	口縁破片	良好	2.5Y2/1 黒色
14	須恵器	壺	—		—	ロクロナデ	口縁破片	良好	5Y3/1 灰色
15	須恵器	蓋		—	—	ロクロナデ	破片	良好	2.5Y7/1 灰白色
16	須恵器	蓋	—	—		ロクロナデ　返りあり	破片	良好	5Y5/1 灰色
17	須恵器	壺	—	—	—	外面網格状文	破片	良好	2.5Y5/1 黄灰色
18	須恵器	甕	—	—	—	外面叩き　隆帯・突起物貼り付け	肩部破片	良好	2.5Y6/1 黄灰色
19	須恵器	壺	—	—	—	外面平行叩き	破片	良好	N5/0 灰色
20	須恵器	壺	—	—		外面平行叩き	破片	良好	5Y5/1 灰色
21	須恵器	壺	—	—		外面平行叩き	破片	良好	10Y4/1 灰色
22	須恵器	壺	—		—	外面平行叩き	破片	良好	5Y3/1 灰色
23	須恵器	壺		—	—	外面平行叩き	破片	良好	7.5YR5/1 灰色
24	須恵器	壺	—	—	—	外面平行叩き	破片	良好	2.5Y6/1 黄灰色
25	須恵器	壺	—	—		外面叩き後ヨコナデ	破片	良好	7.5Y6/1 灰色
26	須恵器	壺	—	—		外面ケシ剥奪痕	破片	良好	7.5Y6/1 灰色
27	土師器	土鍋	—		—	内外面ナデ	体部～底部破片	良	10YR4/2 灰黄褐色

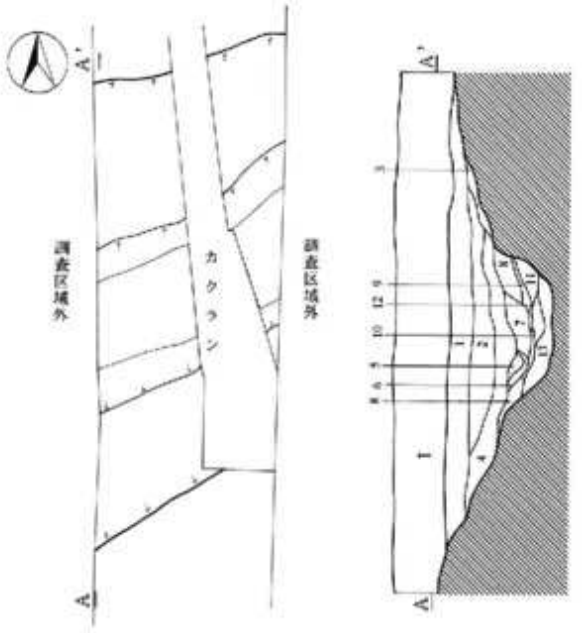
番号	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
28	砥石製品	砥石	5.4	0.7	1.8	210	表面加工痕・2孔あり
29	すり石	輝石安山岩	8.7	4.2	1.8	80	両面すり面
30	すり石	輝石安山岩	4.1	2.6	0.5	70	

第28表　M２号溝跡遺物観察表

M３号溝跡

遺構は調査区の台地北に位置し、東西方向に延びると考えられる。遺構の大半は調査区域外となり、一部を灌水によって破壊されている。調査規模は確認面上での幅５m、底幅１m内外、確認面からの深さは1.2mを測る。覆土は上層に暗褐色土、ド層に砂礫層が堆積していた。

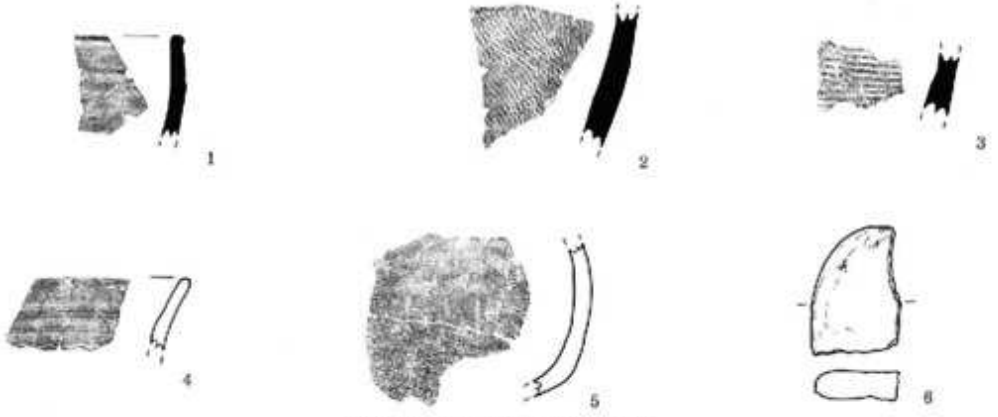
遺物は縄文土器片、土師器・須恵器片が出土した。確実な時期は不明だが、出土土器から平安時代以降と考えられ、さらに周囲は曽根城跡と称されることから中世の遺構である可能性もある。



1．暗褐色土　（10YR3/3）　ローム粒、小石、炭化物少量。
2．暗褐色土　（10YR3/4）　ローム粒、小石、炭化物少量。
3．黄褐色土　（10YR5/6）　ローム主体。
4．暗褐色土　（10YR3/4）　ローム多く、小石、炭化物含む。
5．褐　色　土　（10YR4/4）　ローム多く、暗褐色土含む。
6．暗褐色土　（10YR3/3）　ローム粒、小石少量。
7．暗褐色土　（10YR3/4）　ローム粒やや多く、小石、炭化物少量。
8．褐　色　土　（10YR4/6）　ローム主体。暗褐色土、砂質。
9．暗褐色土　（10YR3/3）　ローム主体。砂質。
10．褐　色　土　（10YR4/6）　ローム主体。
11．黄褐色土　（10YR5/6）　ローム多く砂質。
12．褐　色　土　（10YR4/6）　ローム、砂の混合。
13．灰黄褐色土（10YR5/2）　ローム含む。砂質。

0　755.600m（136）　2 m

第57図　M３号溝跡実測図



第58図　M３号溝跡遺物実測図

番号	器種	器形	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	調整・文様	現存率・部位	焼成	色調（外面）
1	須恵器	不明	—	—	—	ロクロナデ	口縁破片	良好	10YR6/2 灰黄褐色
2	須恵器	甕	—	—	—	外面叩き	破片	良	7.5YR3/1 黒褐色
3	須恵器	甕	—	—	—	外面叩き	破片	良	7.5YR5/1 褐灰色
4	土師器	壺	—	—	—	ヨコナデ	口縁破片	良	5YR6/3 鈍い橙色
5	土師器	甕	—	丸底	—	外面ヘラケズリ　内面ヘラナデ	胴部～底部破片	良	10YR8/2 灰白色

番号	器種	石材	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	備考
6	すり石	輝石安山岩	7.5	6.3	1.8	130	周囲すり痕

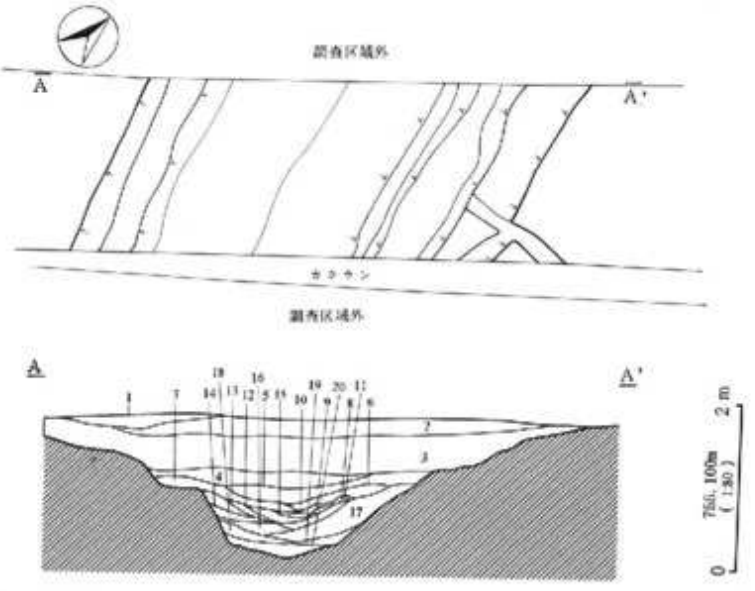
第29表　M３号溝跡遺物観察表

M４号溝址

遺構は調査区東寄りに位置し、南北方向に延びると考えられ、H９号住居址を切る。調査規模は確認面上

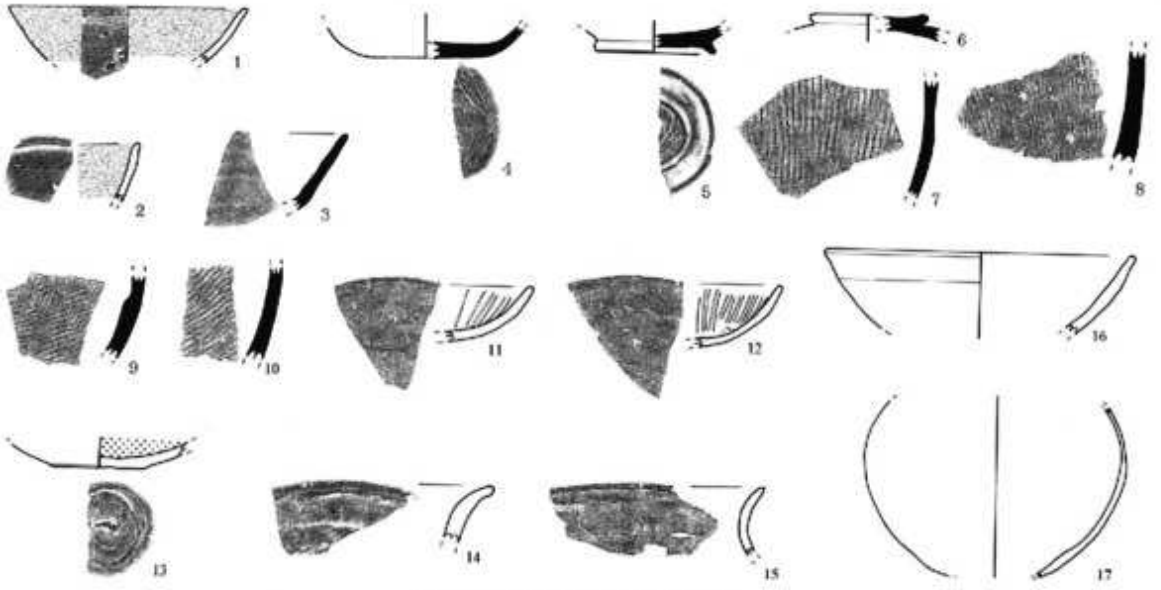
で幅6.8m、底幅1.6m、長さ2.4m、深さ 1.6mを測り、斜面中段にテラス状の段を有する。覆土は中層から下層にかけて幾層にも重なり合って砂、砂礫が堆積していた。

遺物は奈良時代から平安時代の土師器、須恵器が多数出土したが、本遺構は奈良時代と考えられるＨ９を破壊して掘り込まれ、また周辺には平安時代の遺構が多数存在することから流れ込みの可能性が高い。時期は奈良時代の住居址を切るため、奈良時代以降と思われる。遺構の東側は中世の遺跡とされていることから、中世まで時代が下る可能性も考えられる。



1．黒褐色土　（10YR2/3）　ローム粒、軽石含む。
2．暗褐色土　（10YR3/3）　ローム粒、軽石含む。
3．暗褐色土　（10YR3/4）　ローム粒、軽石含む。
4．暗褐色土　（10YR3/3）　ローム粒、軽石、シルト、砂含む。
5．黒褐色土　（10YR3/2）　ローム粒、軽石、シルト、砂含む。
6．褐 色 土　（10YR4/6）　黒色土とローム、砂の混合。
7．黒褐色土　（10YR3/2）　ローム粒少量、シルト含む。
8．鈍い黄褐色土（10YR4/3）シルト多い。砂含む。
9．黒褐色土　（10YR2/3）　シルト少量。
10．褐 色 土　（10YR4/4）　砂主体。やや粗い。
11．鈍い黄褐色土（10YR4/3）砂主体。細かい。
12．鈍い黄褐色土（10YR4/3）砂主体。細かい。シルト含む。
13．灰黄褐色土（10YR5/2）　シルト、砂、ロームの混合。
14．鈍い黄褐色土（10YR5/3）シルト、砂の混合。
15．鈍い黄褐色土（10YR4/3）シルト主体。砂含む。
16．暗褐色土　（10YR3/4）　シルト、砂主体。
17．鈍い黄褐色土（10YR5/3）砂主体。シルト含む。
18．鈍い黄褐色土（10YR4/3）砂、ローム。
19．灰黄褐色土（10YR4/2）　砂、ローム。
20．褐灰色土　（10YR4/1）　砂礫層。

第59図　Ｍ４号溝跡実測図



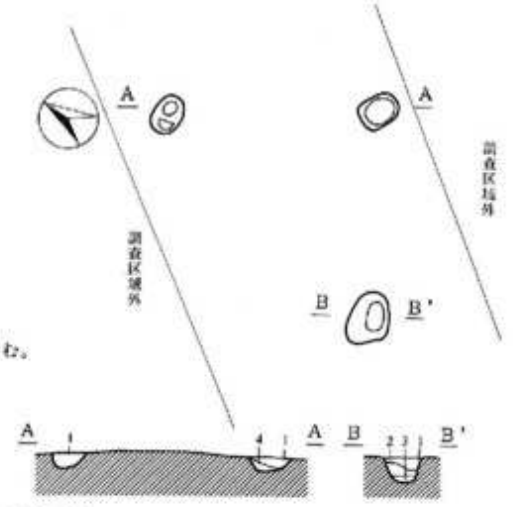
第60図　Ｍ４号溝跡遺物実測図

番号	器種	器形	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整・文様	残存率・部位	焼成	色調(外面)
1	灰釉陶器	椀	(14.2)	—	—	ロクロナデ	口縁破片	良好	5Y7/1 灰白色
2	灰釉陶器	椀	—	—	—	ロクロナデ　内外面灰釉付着	口縁破片	良好	10Y8/1 灰白色
3	須恵器	坏	—	—	—	ロクロナデ	口縁破片	良好	5GY5/1 オリーブ灰色
4	須恵器	坏	—	—	—	ロクロナデ　底部回転ヘラケズリ	底部破片	良好	2.5Y5/1 黄灰色
5	須恵器	高台付坏	—	7	—	底部回転糸切り後高台貼り付け	底部50	良	2.5Y4/1 黄灰色
6	須恵器	蓋	—	—	—	つまみ貼り付け	つまみ部破片	良好	2.5YR6/2 灰黄色
7	須恵器	甕	—	—	—	外面平行叩き　内面ナデ	破片	良好	5Y4/1 灰色
8	須恵器	甕	—	—	—	外面平行叩き表面摩耗　内面ナデ	破片	良好	5Y5/1 灰色
9	須恵器	甕	—	—	—	外面平行叩き　内面ナデ　自然釉付着	破片	良好	7.5Y7/2 灰白色
10	須恵器	甕	—	—	—	外面平行叩き　内面ナデ	破片	良好	5Y7/1 灰白色
11	土師器	坏	—	—	—	口縁ヨコナデ　外面ヘラケズリ　内面放射状ミガキ	口縁破片	良	5YR7/4 鈍い橙色
12	土師器	坏	—	—	—	口縁ヨコナデ　外面ヘラケズリ　内面放射状ミガキ	口縁破片	良	5YR7/4 鈍い橙色
13	土師器	椀	—	—	—	内面黒色処理　高台部剥がれ	底部破片	良	7.5YR6/6 橙色
14	土師器	甕	—	—	—	口縁ヨコナデ	口縁破片	良	7.5YR6/6 橙色
15	土師器	甕	—	—	—	口縁ヨコナデ	口縁破片	良	2.5YR7/6 橙色
16	土師器	坏	(18.2)	—	—	内面ミガキ	口縁破片	良	5YR6/4 鈍い橙色
17	土師器	甕	—	—	—	外面・底部ヘラケズリ　内面ヘラナデ	胴部～底部破片	良	5YR6/3 鈍い橙色

第30表　M４号溝跡遺物観察表

第４節　掘立柱建物址

調査区中央付近に位置する。確認できたピットは３個で１×１間だが北西に存在すると思われるピットは調査区域外と推察される。ピットの規模は、径40～60cm内外で、深さは25～35cmを測る。



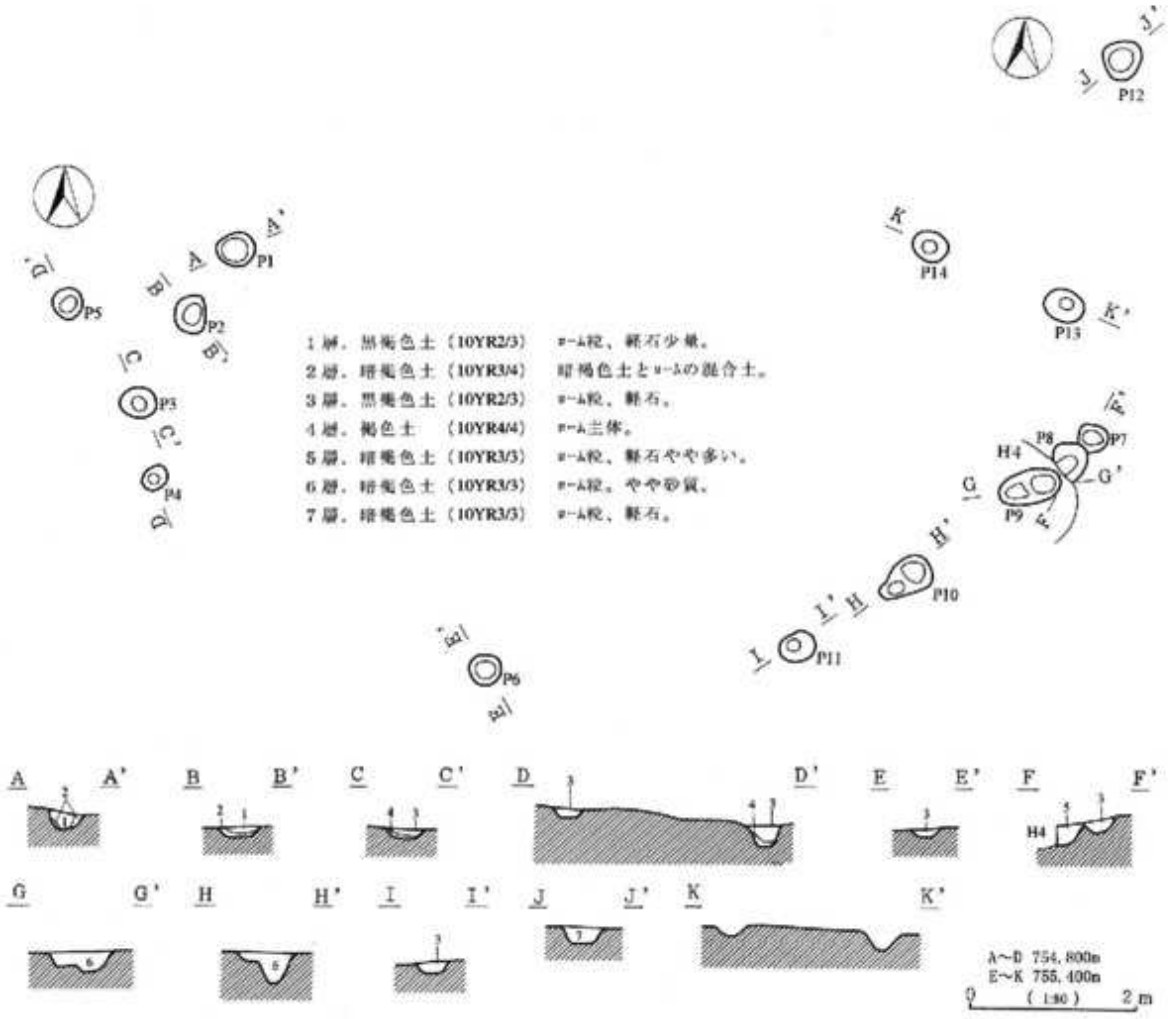
第61図　掘立柱建物址実測図

番号	東西長(cm)	南北長(cm)	深さ(cm)	平面形態(cm)	備考
P1	48	34	20	楕円形	
P2	50	35	18	隅丸方形	
P3	56	48	32	不整楕円形	

第31表　掘立柱建物址ピット計測表

第５節　ピット

調査区内から単独のピットが14個確認できた。遺構の性格は不明だが、集落生活の中で利用されたものと考えられる。



第62図　ピット実測図

番号	径(cm)	深さ(cm)	形態
1	46	16	円形
2	44	12	隅丸方形
3	34	11	円形
4	32	25	円形
5	40	10	円形

番号	径(cm)	深さ(cm)	形態
6	36	10	円形
7	33	15	不整円形
8	48	24	不整円形
9	76	25	楕円形
10	66	34	不整円形

番号	径(cm)	深さ(cm)	形態
11	40	13	円形
12	42	21	不整円形
13	49	25	円形
14	44	12	円形

第32表　ピット計測表

第6節　遺構外遺物

第63図　遺構外遺物実測図

番号	器種	器形	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整・文様	残存率・部位	焼成	色調(外面)
1	須恵器	鉢?	—	—	—	透彫	破片	良好	5G5/1 青灰色
2	不明	すり鉢	—	—	—	透彫	底部破片	良好	5Y4/3 暗オリーブ色

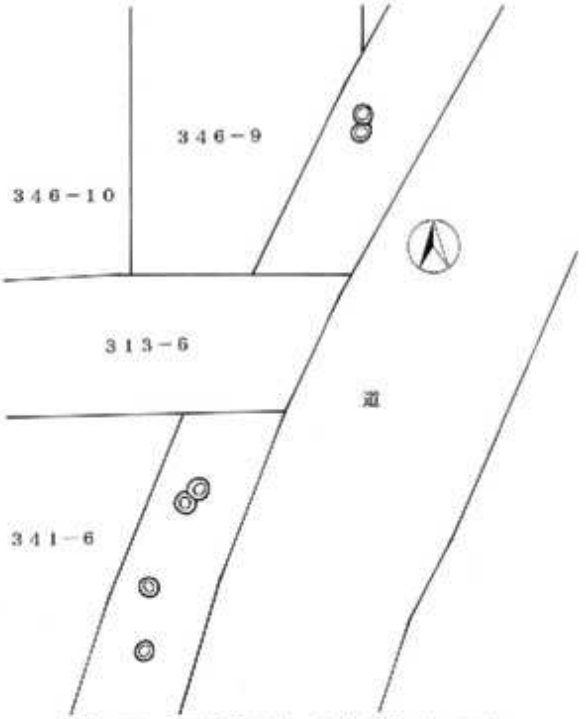
第33表　遺構外遺物観察表

第Ⅴ章　前田遺跡群　前田遺跡Ⅴ

第１節　ピット

遺構は調査区北に位置し、南に比して一段高い台地の南端地域に点在する。確認したピットは６個で、径58～67cm、深さは30cm内外を測る。平面形態はいずれも円形である。調査規模が限られていることから単独か掘立柱建物址であるかの判断はつかないが、周辺の調査からは多数の掘立柱建物址が確認されている。

遺物が伴わないため時期は不明である。



第64図　前田遺跡Ⅴピット実測図（1：250）

第１節　溝跡

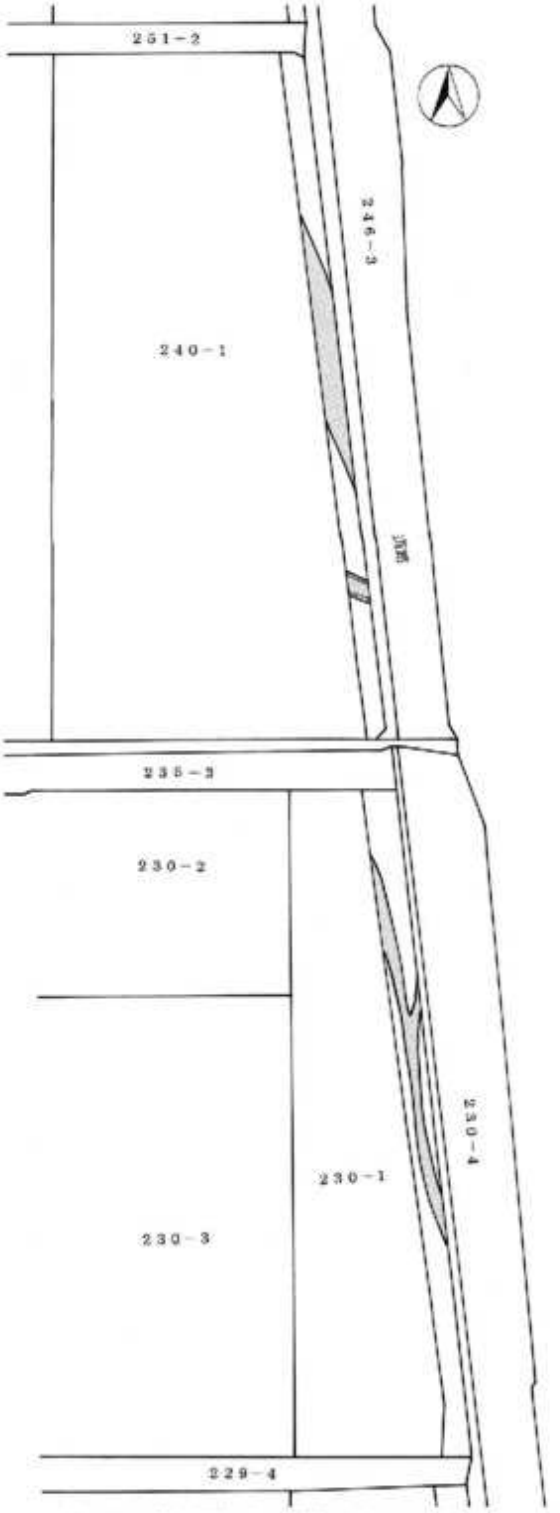
Ｍ１号溝跡

遺跡の北に位置し、およそ南北方向に走る低地帯と思われる黒色帯である。周辺から遺物は出土しなかった。時期は不明である。範囲確認のみ行った。

Ｍ２号溝跡

Ｍ１号溝跡の南に位置し、東西方向に走ると思われる。規模は幅1.5m、調査長2m、深さは0.7mを測

第Ⅵ章　鋳師屋遺跡群　鋳師屋遺跡Ⅲ



第65図　鋳師屋遺跡Ⅲ遺構図（1：1,000）

る。遺構内から遺物が出土しないため時期の確定はできない。

M３号溝跡

遺跡の南に位置し、南北方向に走り、途中Y状に分岐し調査区域外に至る。規模は幅1.5～2m、調査長60m、深さは3～10cmと非常に浅い。部分的に掘り下げを行ったが、遺物は出土しなかった。時期は不明である。

ま と め

調査地域は南北に長く、浅間山の麓から放射状に延びる佐久平特有の田切り地形を幾筋も横断し、田切りに分断された細長い台地上には４遺跡が存在する。今回は、縄文・古墳・奈良・平安時代・中世の遺構を発見し、調査を実施した。

縄文時代の遺構は調査地域南の下曽根遺跡Ⅷにおいて形状から落とし穴と考えられる土坑１基を調査した。また、遺物は調査地域中央付近の曽根城遺跡Ⅳから黒曜石製の石鏃が出土している。遺構、遺物の発見場所は離れており、両地域ともに住居址及び土器が認められないことから遺跡周辺の田切りによって分断された台地上は、広い範囲で狩り場であった可能性が伺える。

古墳時代後期の住居址は曽根城遺跡Ⅳの１軒（Ⅱ３）である。奈良時代の様相を示す土器（畿内系略文を施す土師器坏）が住居址の覆土内から古墳時代後期の土器と伴に出土していることから、時代が若干下る可能性もある。（＝下曽根遺跡古墳時代Ⅳ期、７世紀代）

奈良時代の住居址は下曽根遺跡Ⅷの４軒、曽根城遺跡Ⅳの１軒の５軒（下曽根遺跡ⅧＨ２・３・４・９、曽根城遺跡ⅣⅡ６）を確認した。底部回転ヘラケズリの須恵器坏、器厚が薄く、口縁「く」の字の武蔵甕、底部丸底手持ちヘラケズリの土師器坏といった土器の特徴を持つ８世紀前半の住居址及び、土師器甕の口縁部が「く」から「コ」に変化する過渡期の特徴を持つ8世紀後半の住居址である。西側の下曽根遺跡Ⅱ～Ⅶの調査では同時期と考えられる住居址が30軒調査されている。（＝下曽根遺跡奈良・平安時代Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ期、8世紀第１、第２、第３四半期）

平安時代の住居址は曽根城遺跡Ⅳの3軒、下曽根遺跡Ⅷの５軒の８軒（曽根城遺跡ⅣⅡ１・２・４、下曽根遺跡ⅧＨ１・５・６・７・８）を確認し、大半が口縁「コ」の字状の武蔵甕、轆轤甕、内面黒色処理土師器坏、灰釉陶器といったいずれかの土器又は複数の組み合わせを含む８世紀第４四半期～10世紀前半の住居址である。奈良時代同様西側の下曽根遺跡Ⅱ～Ⅶの調査では、10世紀に入る住居址は認められていないが、ほぼ同時期と考えられるものが33軒調査されている。（＝下曽根遺跡奈良・平安時代Ⅴ・Ⅵ期、９世紀前半～９世紀後半）

本遺跡における10世紀前半の下曽根遺跡H5以降の遺構としては、遺物が含まれないことから断定できないものが多いが、平安時代から中世と推測される溝跡が北の鋳師屋遺跡Ⅲ、中央付近の曽根城遺跡Ⅳ、南の下曽根遺跡Ⅶから発見されている。また、下曽根遺跡の溝跡からは僅かだが土鍋片が出土し、溝跡を確認した一帯及び東側の台地東端は佐久市発行の旧遺跡評細分布調査報告書では曽根城跡とされ、中世の館跡が存在していたとされている地域である。（現在は、同一台地・地形のため芝宮遺跡群に含まれる）今回発見した下曽根遺跡Ⅶの溝跡もこれに関する遺構の可能性が考えられる。

調査区北側の前山遺跡Ⅴでは時期不明のピット群が確認できた。この一帯は圃場整備に伴い行われた前田遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲによって古墳時代から中世の遺構が多数調査されている地域であるため、いずれかの時期に関係する遺構と思われる。

今回の調査から、周辺地域の古代集落の様相は、古墳時代後期の７世紀代から平安時代10世紀前半の範囲

に収まる結果となった。下曽根遺跡Ⅱ～Ⅶの調査では「下曽根遺跡の集落はⅢ期（6世紀中葉～7世紀初頭）において出現し、奈良・平安時代Ⅵ期（9世紀後半）終焉を迎えることが明らかとなった」という考察を示していることから、今回、調査を行った10世紀前半である下曽根遺跡ⅧＨ５号住居址が、新たな発見となる。これまでの調査は道路改良、歩道設置といった限られた範囲での調査であったが、周辺の集落変遷のおおよその傾向が押さえられたことは大きな成果である。（参考　2001佐久市埋蔵文化財調査報告書　第88集）

佐久市埋蔵文化財調査報告書第88集「上芝宮Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ　下曽根Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ」の土器様相における土器編年を参考にした曽根城遺跡Ⅳ、下曽根遺跡Ⅷの住居址年代は以下の通りである。

時代		時期	住居址	
古墳時代	Ⅰ	5C～6C初頭		
	Ⅱ	6C前半		
	Ⅲ	6C中葉～7C初頭		
	Ⅳ	7C中葉～8C初頭	曽Ｈ３	ドＨ９
奈良・平安時代	Ⅰ	8C第Ⅰ四半期	ドＨ２	
	Ⅱ	8C第Ⅱ四半期	曽Ⅱ６・ドＨ３	
	Ⅲ	8C第Ⅲ四半期	ドＨ４	ドＨ６・ドＨ７
	Ⅳ	8C第Ⅳ四半期～9C初頭		
	Ⅴ	9C前半	曽Ｈ２・曽Ｈ４	
	Ⅵ	9C後半	曽Ⅱ１・ドⅡ１・ドⅡ８	
	Ⅶ	10C前半	ドＨ５	
	Ⅷ	10C後半		
不明			曽Ｈ５	

第34表　住居址編年表

（曽）は曽根城遺跡Ⅳ、（ド）はド曽根遺跡Ⅷ

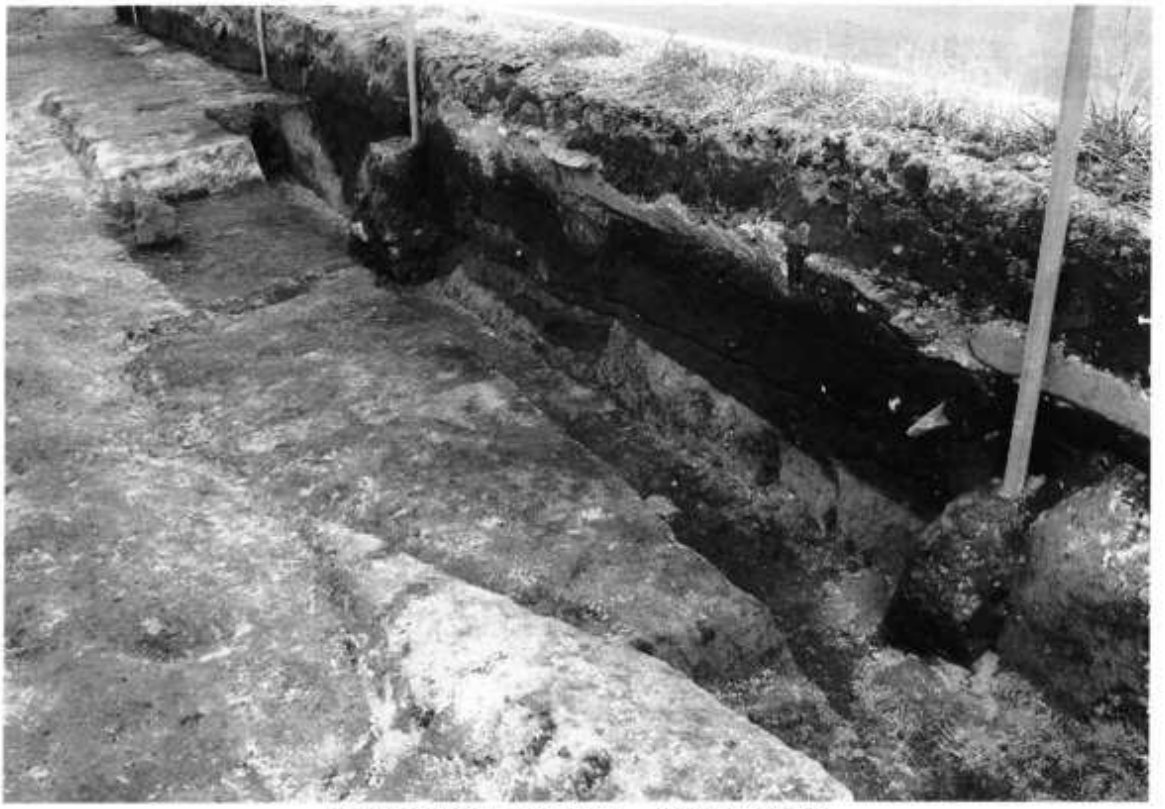
曽根城遺跡Ⅳ北側調査区全景（南から）

曽根城遺跡Ⅳ南側調査区全景（南から）

曽根城遺跡Ⅳ表土除去作業（南から）

曽根城遺跡Ⅳ埋め戻し作業（北から）

図版2



H１号住居址全景（南西から）　奥はH２号住居址

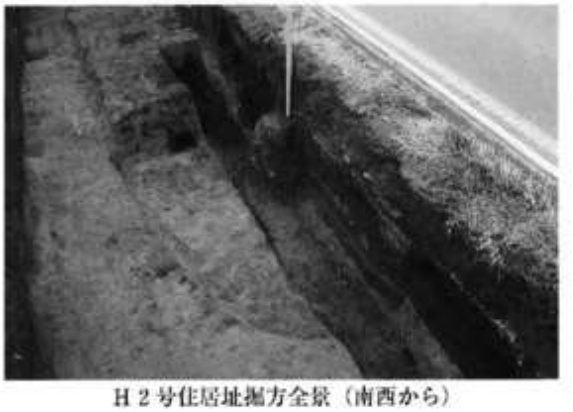
H１号住居址掘方全景（南西から）

H２号住居址全景（南から）

H２号住居址刀子出土状況

H２号住居址紡錘車出土状況

H２号住居址カマド周辺

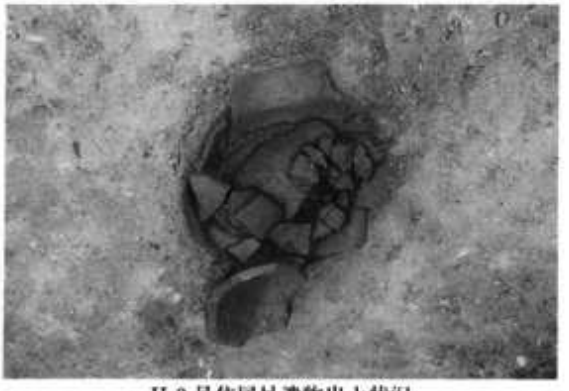


H２号住居址掘方全景（南西から）

H３号住居址全景（南から）

H３号住居址カマド（南東から）

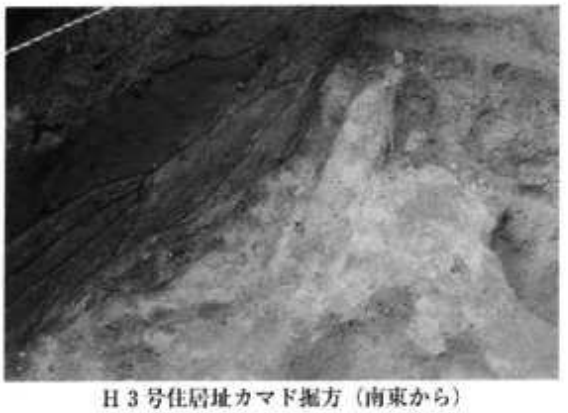
H３号住居址北東コーナー土坑周辺（北東から）



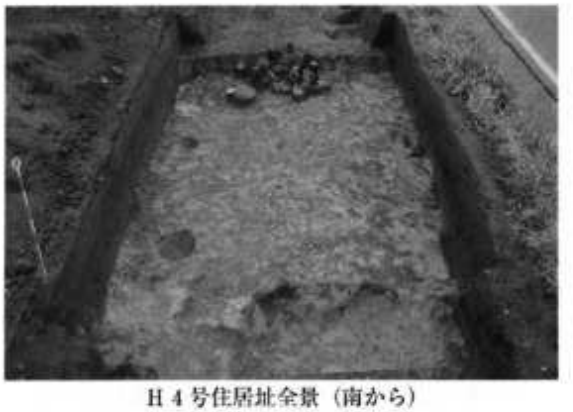
H３号住居址遺物出土状況

H３号住居址遺物出土状況

H 3 号住居址掘方全景（南から）



H 3 号住居址カマド掘方（南東から）



H 4 号住居址全景（南から）

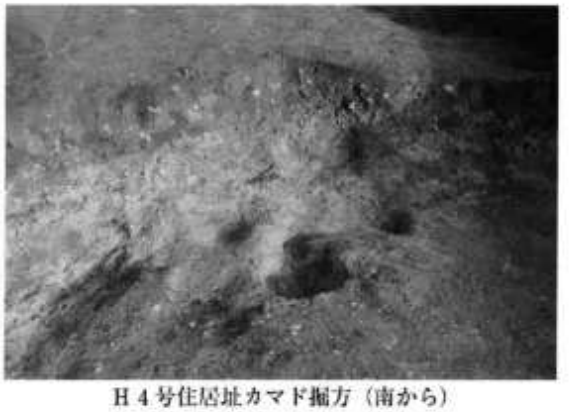
H 4 号住居址カマド（南から）

H 4 号住居址カマド（東から）

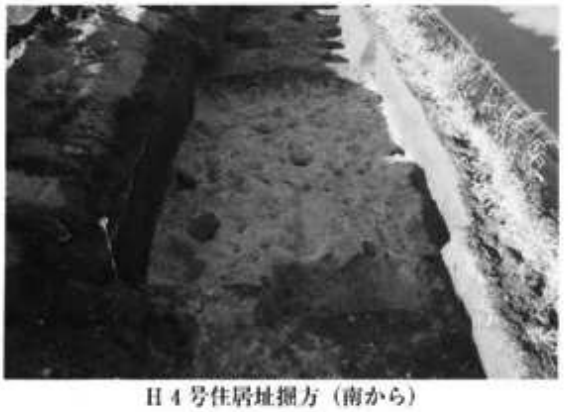
図版6

H４号住居址全景　遺物除去後（南から）

H４号住居址カマド遺物除去後（南から）



H４号住居址カマド掘方（南から）



H４号住居址掘方（南から）

H５号住居址全景（南から）

H 6 号住居址全景（南から）

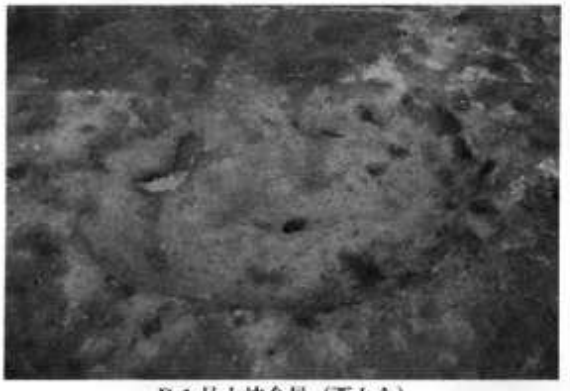
M 1 ・ 2 号溝跡全景（北西から）

M３号溝跡全景（南西から）

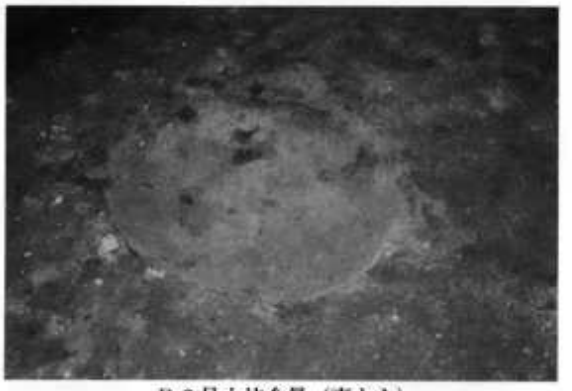
M４号溝跡全景（南から）

M４号溝跡全景（北東から）

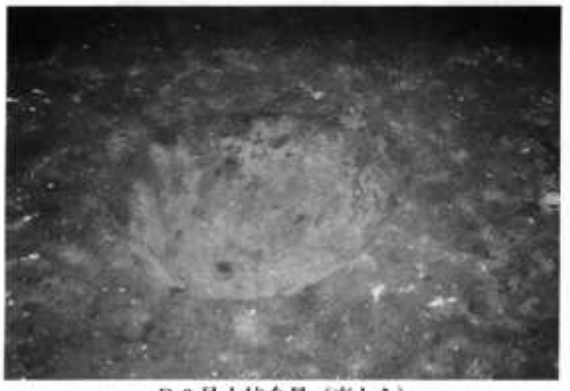
曽根城遺跡Ⅳ調査風景（南から）



D１号土坑全景（西から）

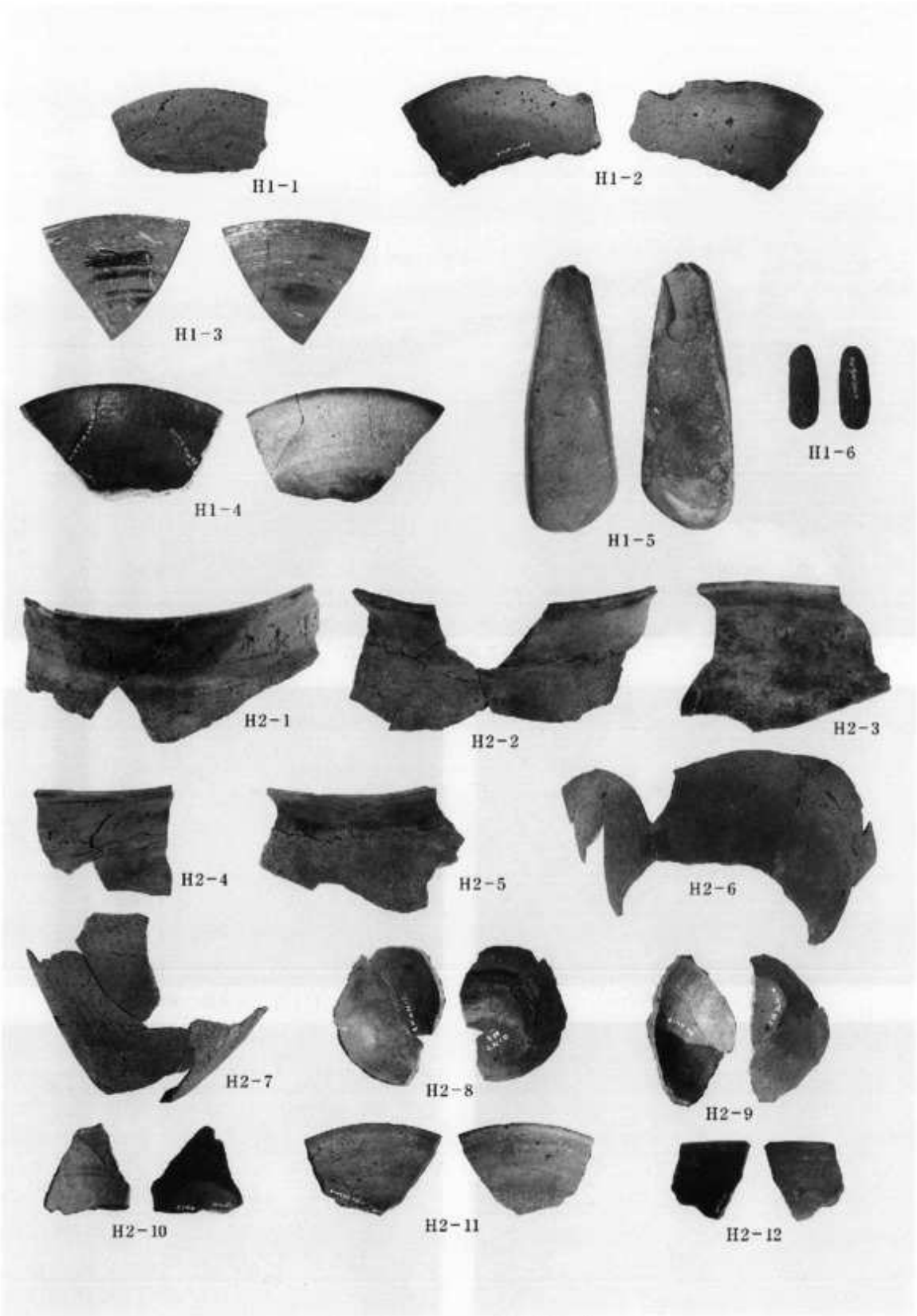


D２号土坑全景（東から）

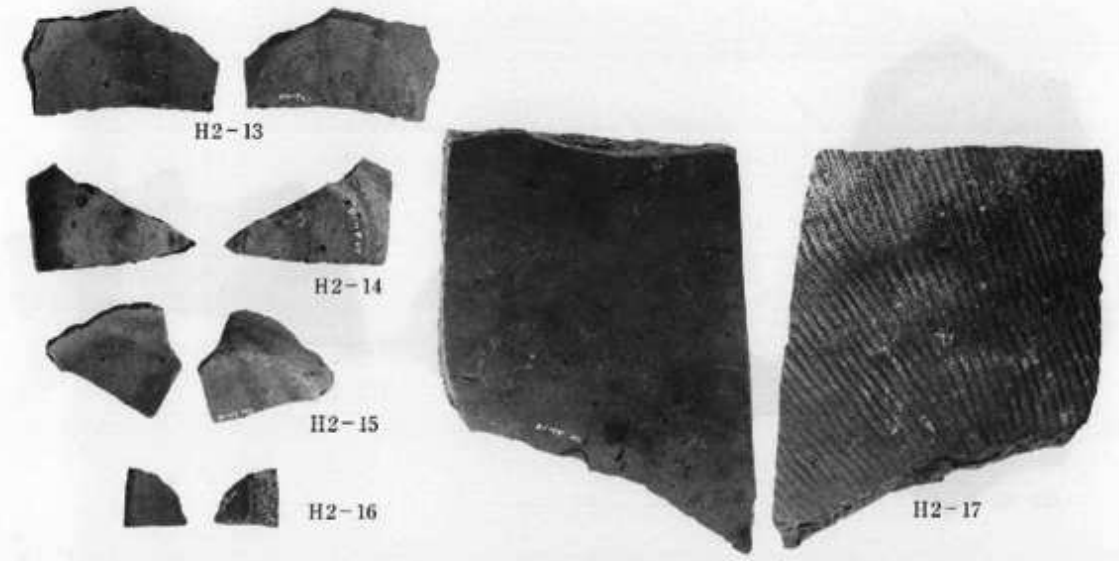


D３号土坑全景（東から）

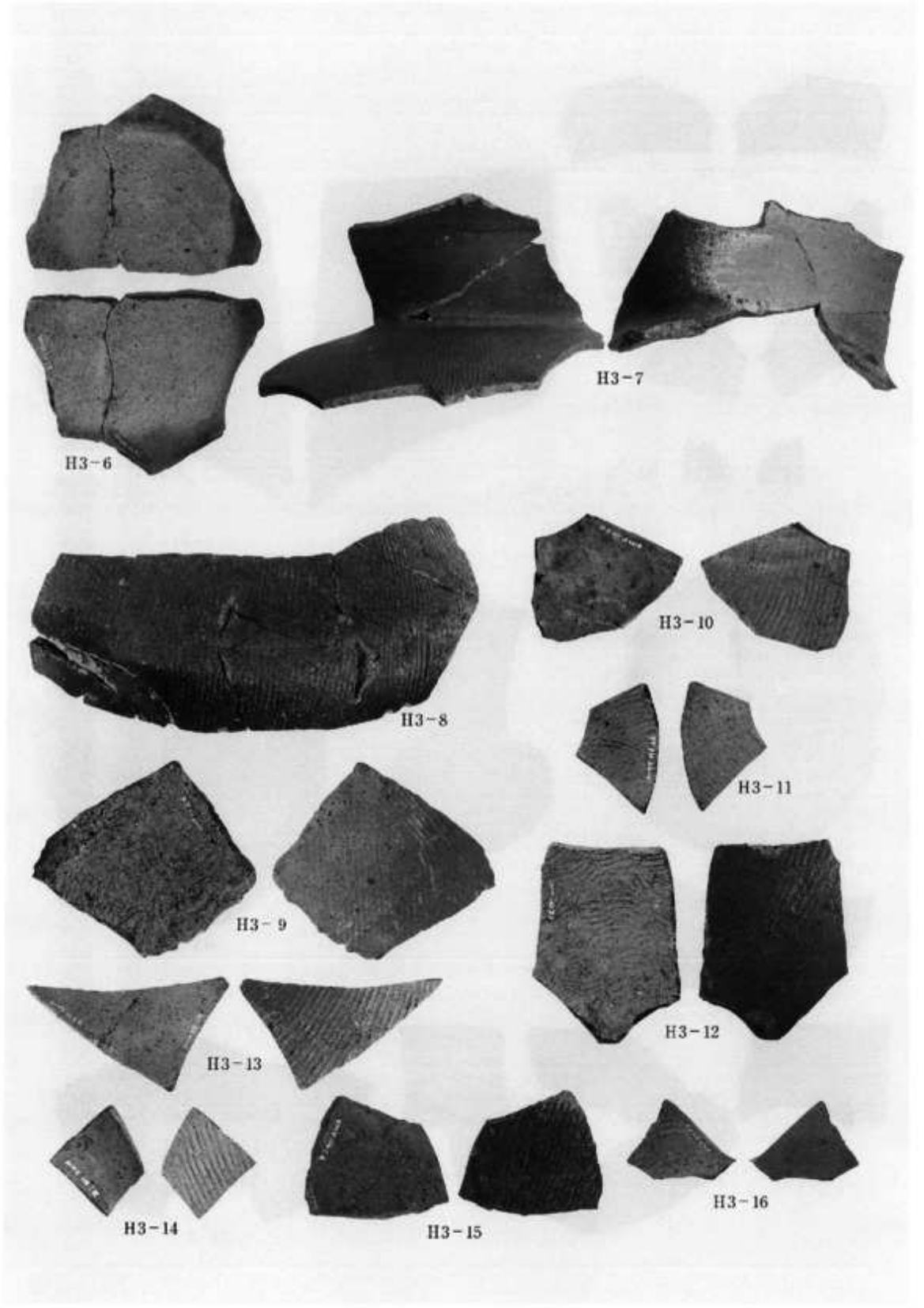
ピット群（北から）



曽根城遺跡Ⅳ H 1 ・ 2 号住居址遺物

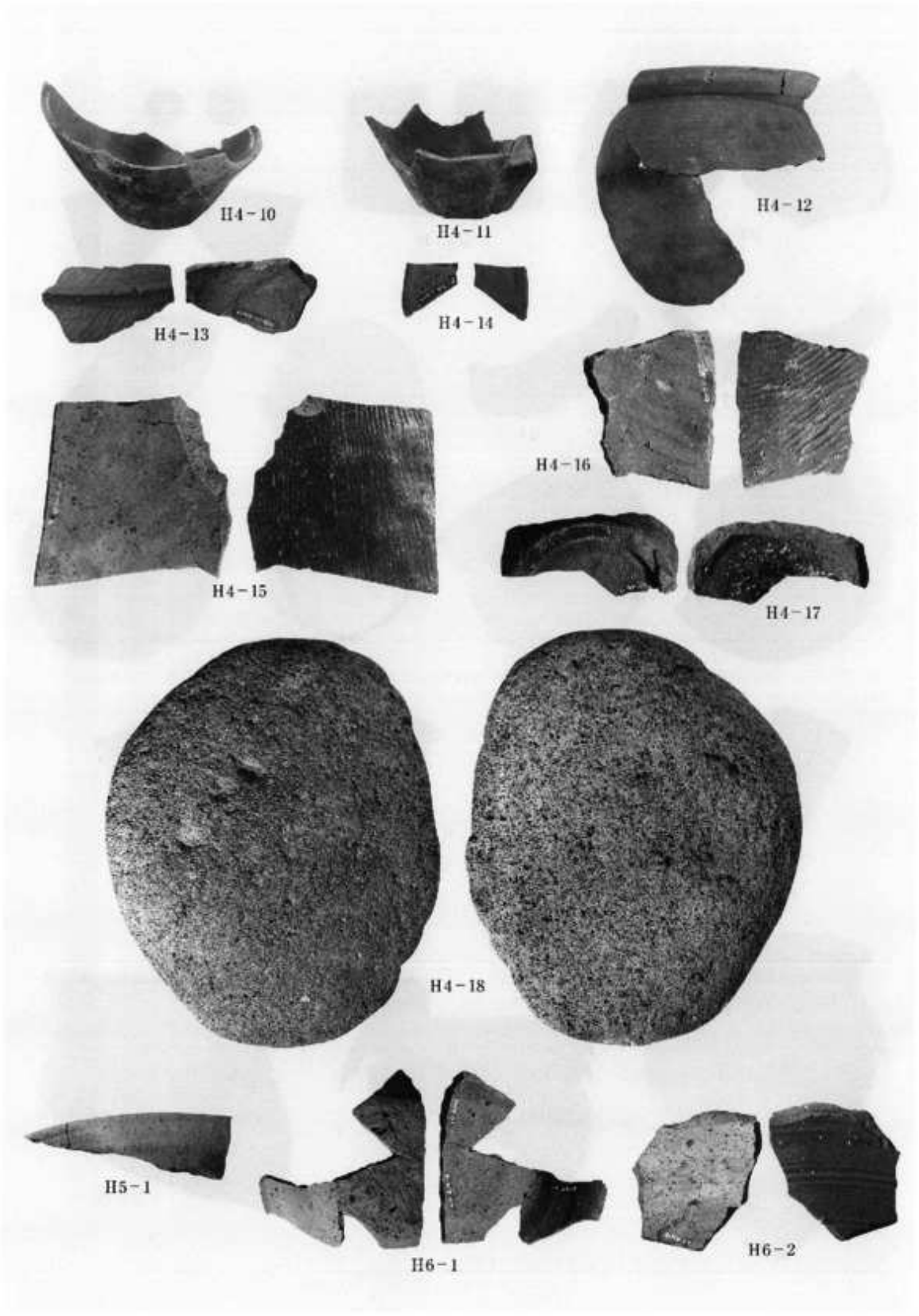


曽根城遺跡Ⅳ H 2 ・ 3 号住居址遺物

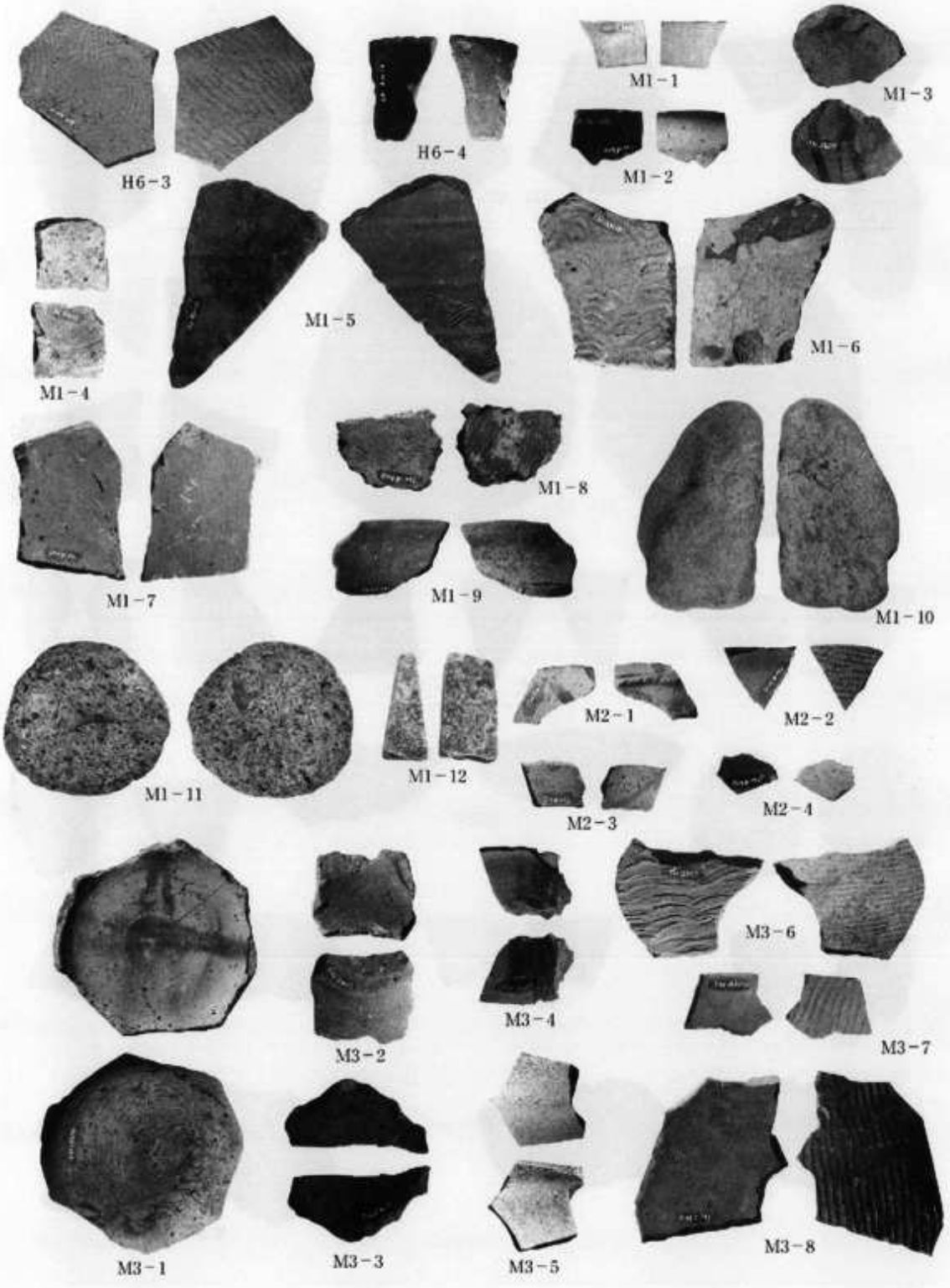


曽根城遺跡Ⅳ H 3 号住居址遺物

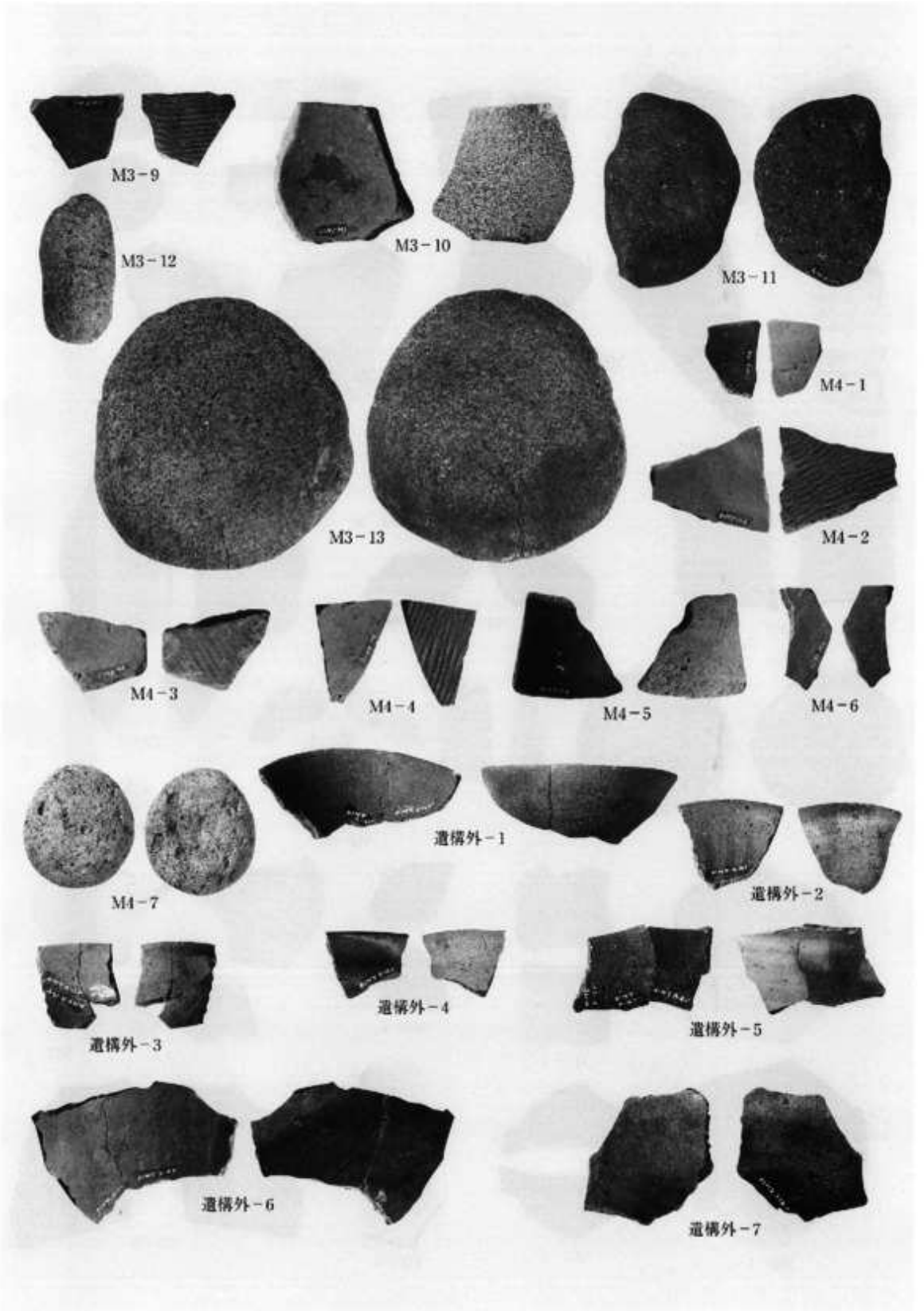
曽根城遺跡Ⅳ H 3 ・ 4 号住居址遺物



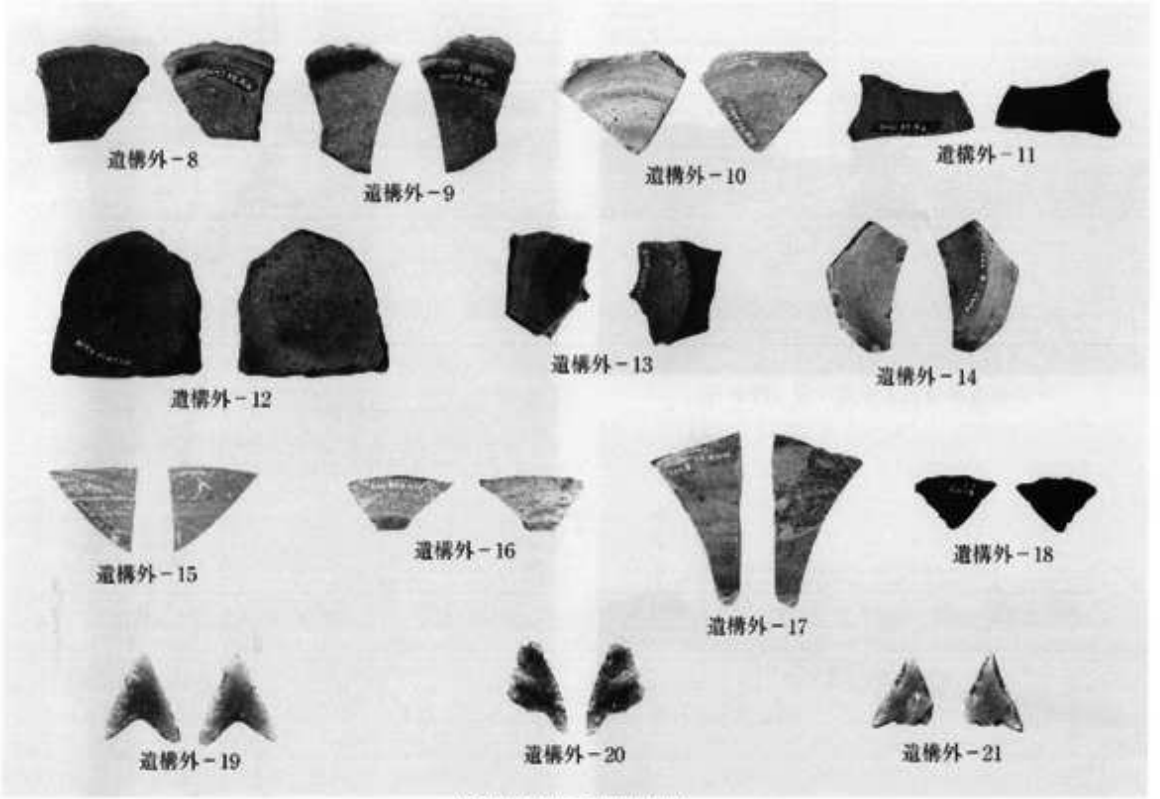
曽根城遺跡Ⅳ H 4 ・ 5 ・ 6 号住居址遺物



曽根城遺跡Ⅳ H 6 号住居址・M 1 ・ 2 ・ 3 号溝跡遺物



曽根城遺跡Ⅳ M 3 ・ 4 号溝跡、遺構外遺物



曽根城遺跡Ⅳ遺構外遺物

芝宮遺跡群　下曽根遺跡Ⅷ全景（北東から）

下曽根遺跡Ⅷ表土除去作業（西から）

下曽根遺跡Ⅷ表土除去作業（南西から）

下曽根遺跡Ⅷ埋め戻し作業（南西から）

下曽根遺跡Ⅷ調査風景（東から）

下曽根遺跡Ⅷ遺構検出状況（東から）

下曽根遺跡Ⅷ調査風景（西から）

下曽根遺跡Ⅷ西側調査区全景（東から）

下曽根遺跡Ⅷ調査風景（西から）

H１号住居址全景（北東から）

H１号住居址鳩臼出土状況

H１号住居址砥石出土状況

H１号住居址遺物出土状況

H１号住居址調査風景（西から）

H２号住居址全景（西から）

H２号住居址鉄鏃出土状況

H２号住居址遺物出土状況

H２号住居址調査風景（東から）

H２号住居址掘方（西から）

H３号住居址全景（東から）

H３号住居址遺物出土状況

H３号住居址遺物出土状況

H３号住居址全景（東から）

H３号住居址掘方（西から）

H 4 号住居址全景（西から）

H 4 号住居址カマド（西から）

H 4 号住居址カマド火床掘り下げ後（西から）

H 4 号住居址カマド掘方（北から）

H 4 号住居址掘方（西から）

H５号住居址全景（南西から）

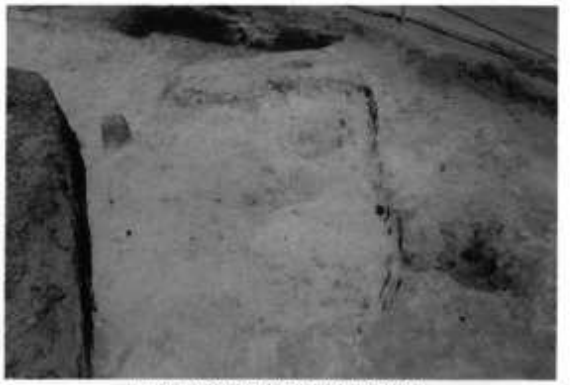
H５号住居址カマド（北から）

H５号住居址遺物出土状況

H５号住居址内土坑（南西から）

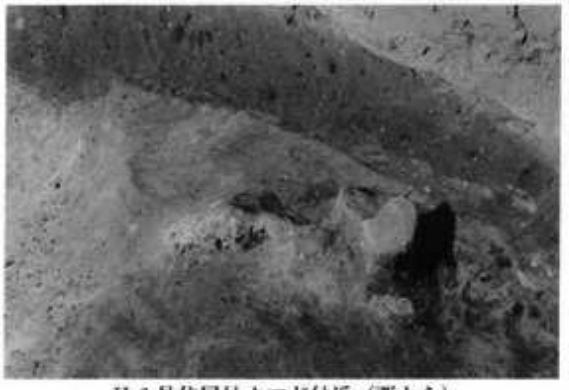
H５号住居址掘方（南西から）

H５号住居址カマド掘方（北から）



H５号住居址掘方（南西から）

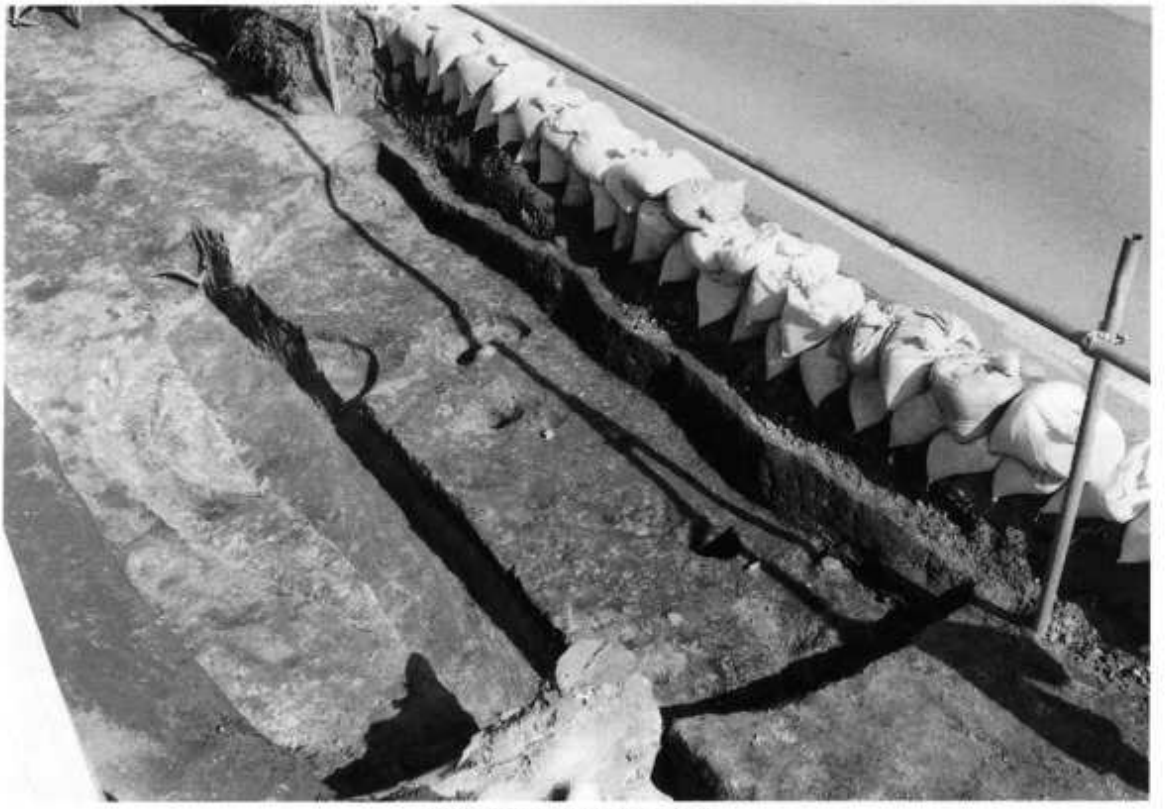
H６号住居址全景（北から）



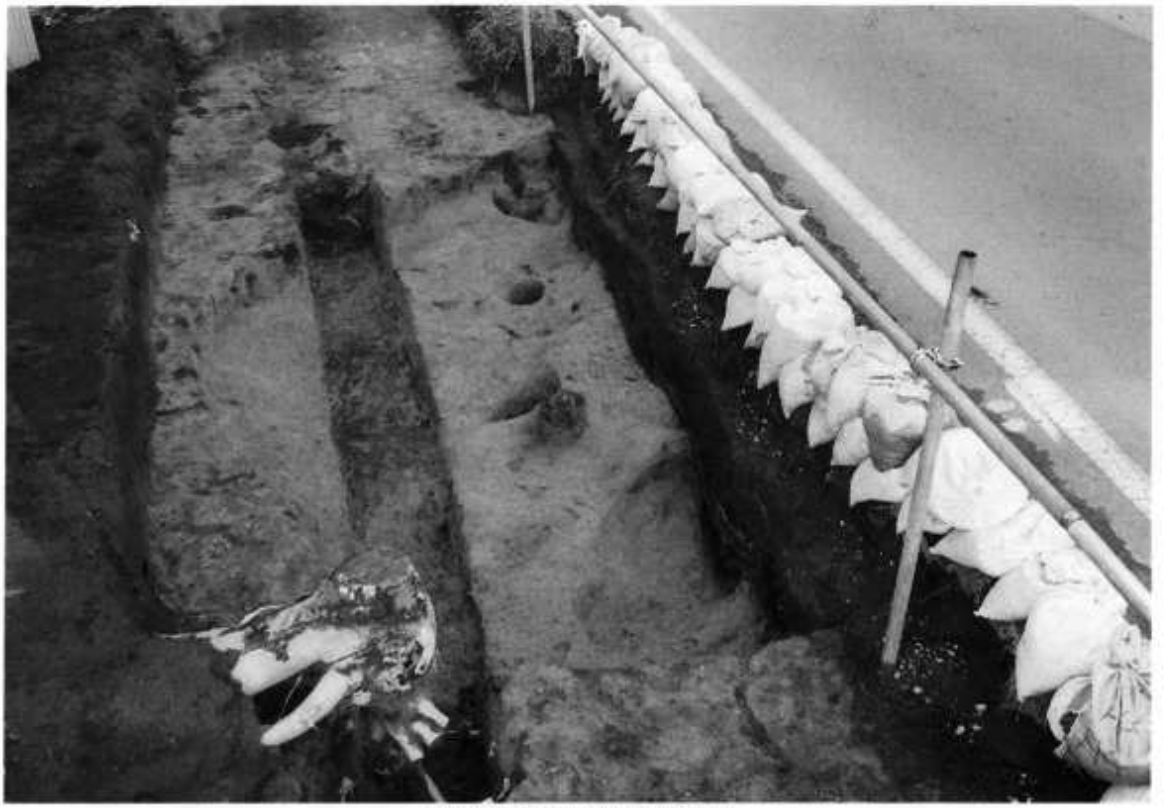
H６号住居址カマド付近（西から）

H７号住居址全景（北から）

H 7 号住居址掘方（北から）



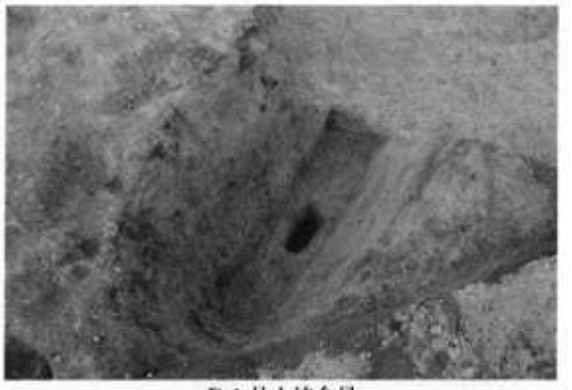
H 8 号住居址全景（南西から）



H８号住居址掘方（南西から）

H９号住居址全景（東から）

H９号住居址掘方（東から）



D１号土坑全景

M１号溝跡全景（西から）

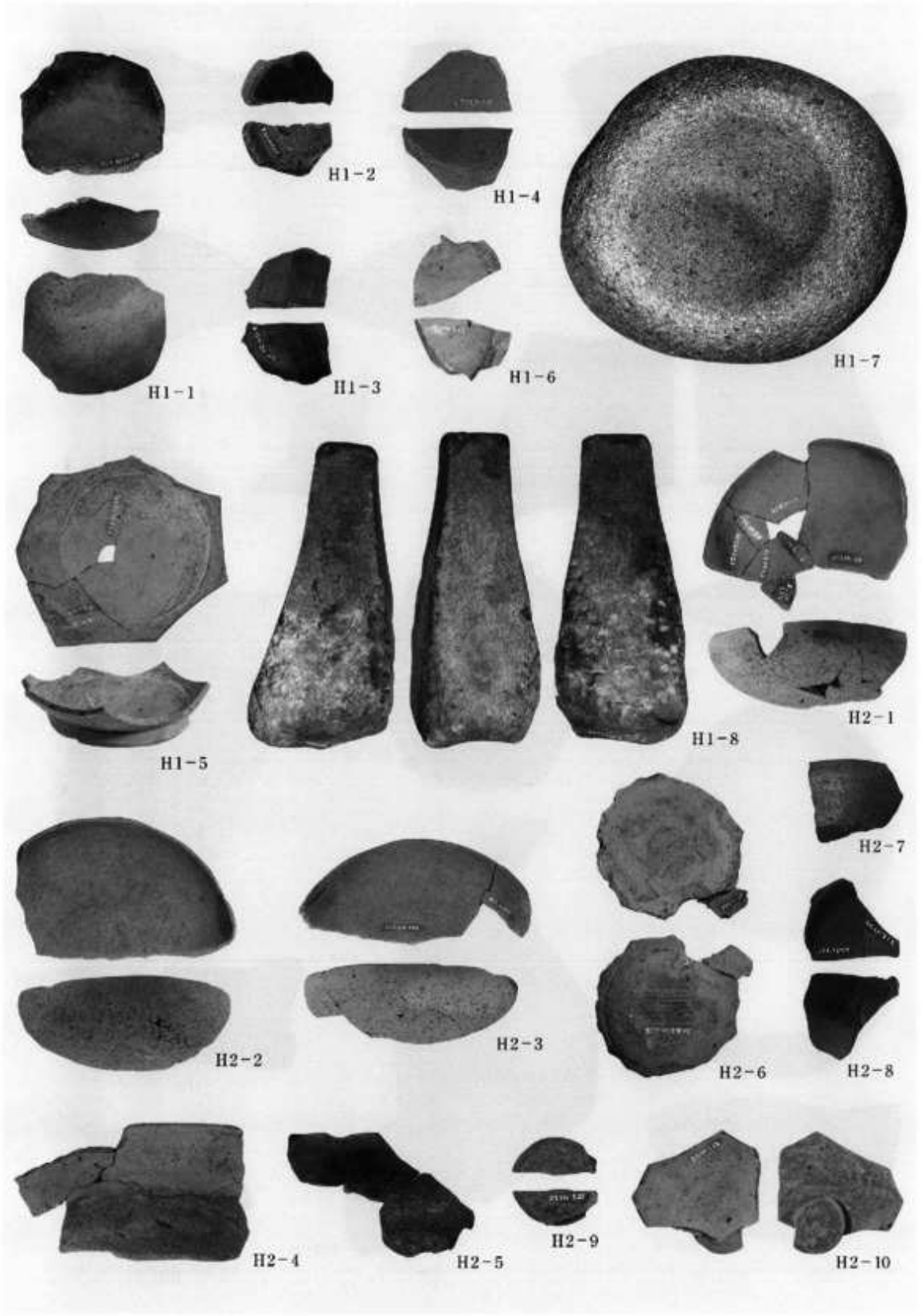
M２号溝跡全景（北から）

M３号溝跡全景（北東から）

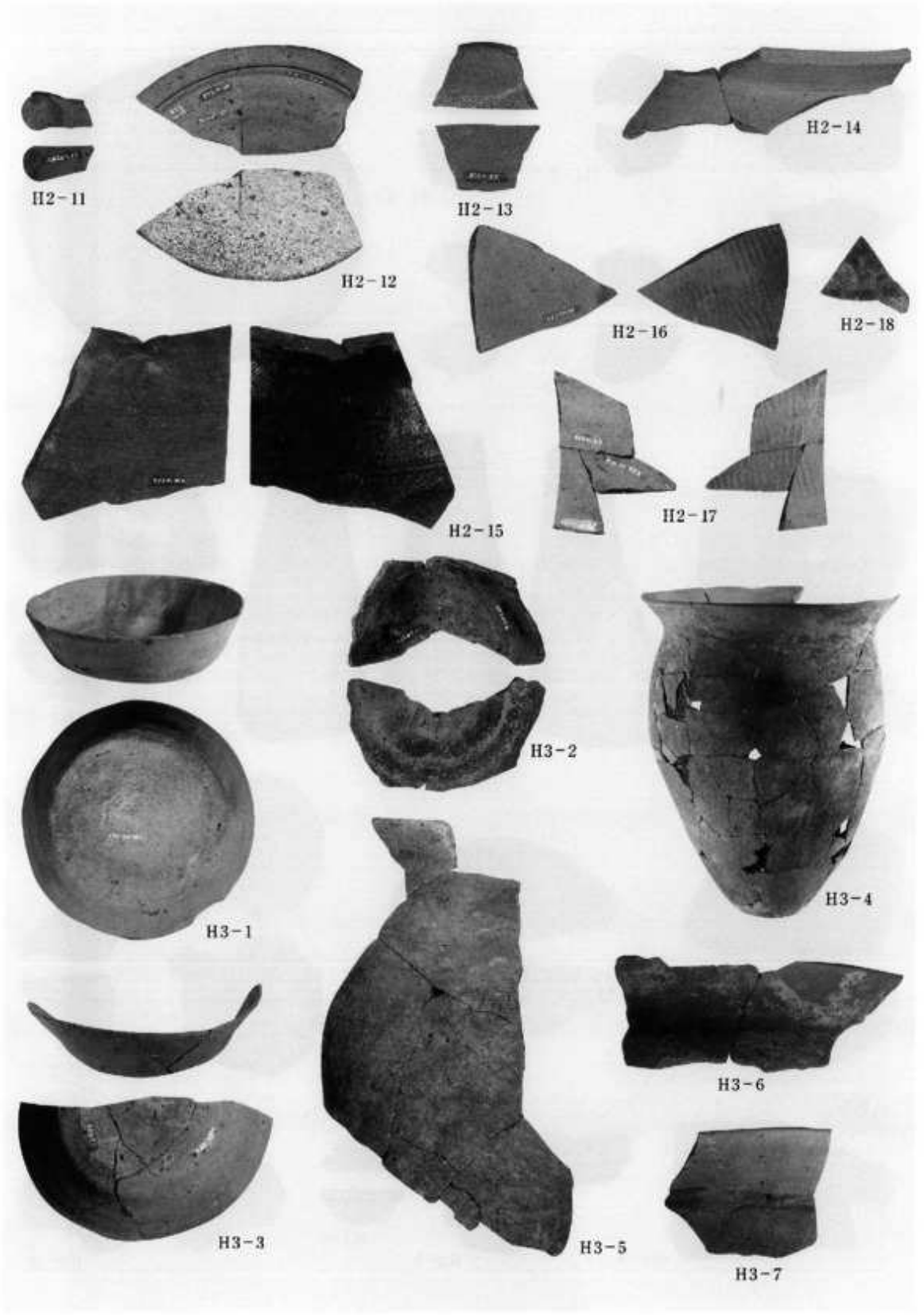
M４号溝跡全景（東から）

下曽根遺跡Ⅷ　H15年度表土除去作業（南東から）

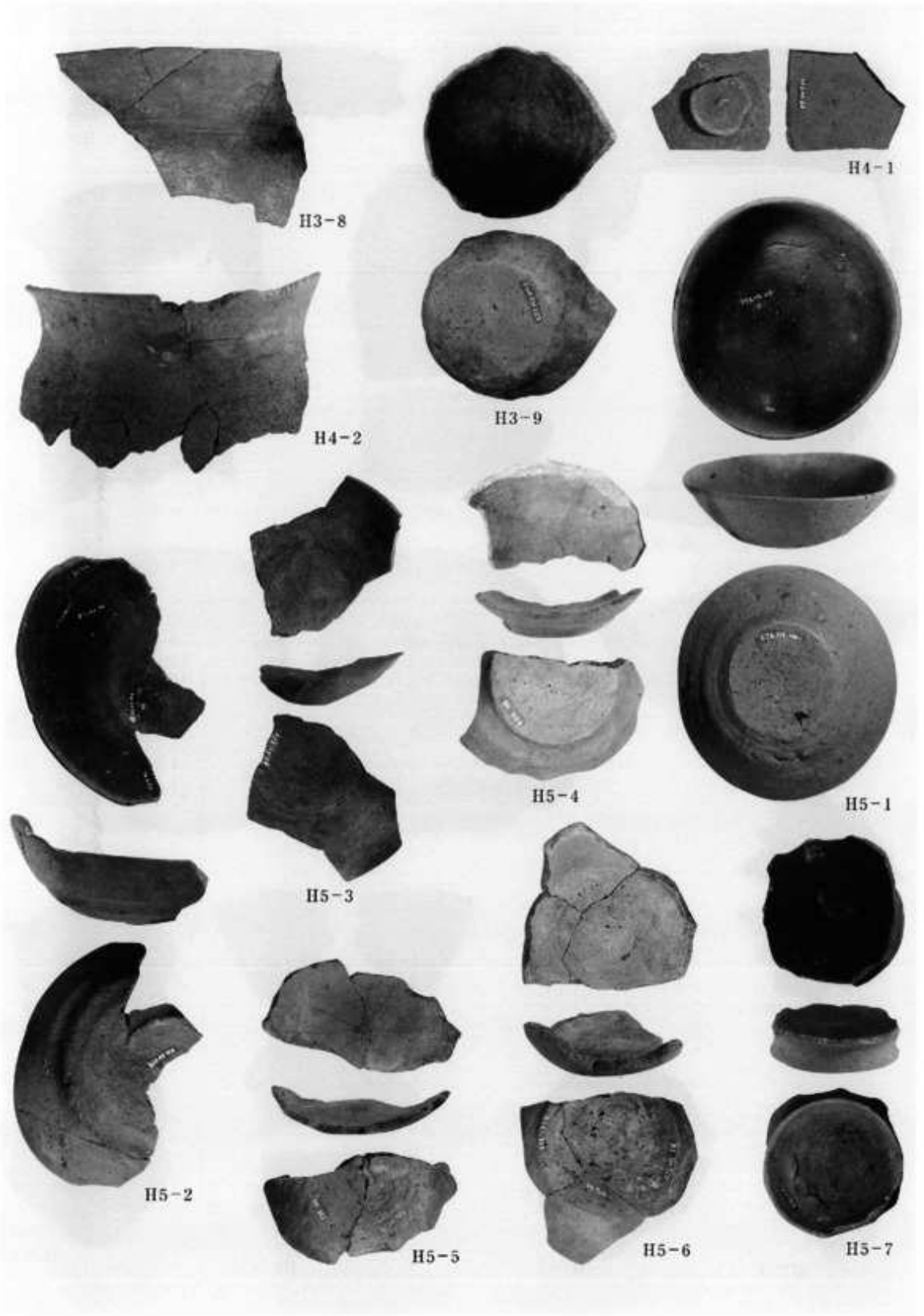
下曽根遺跡Ⅷ　H15年度調査区近景（南から）



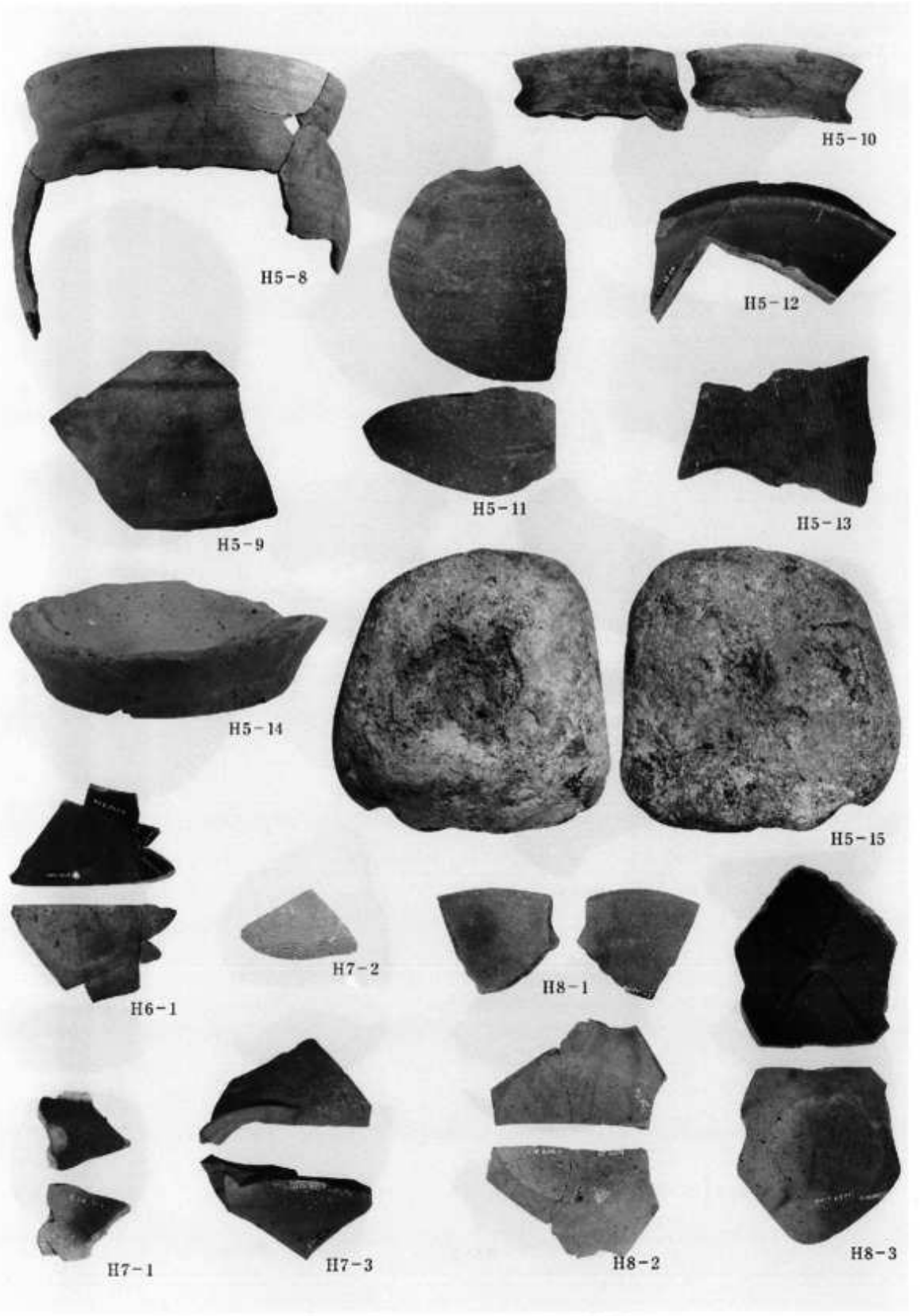
下曽根遺跡Ⅲ H 1 ・ 2 号住居址遺物



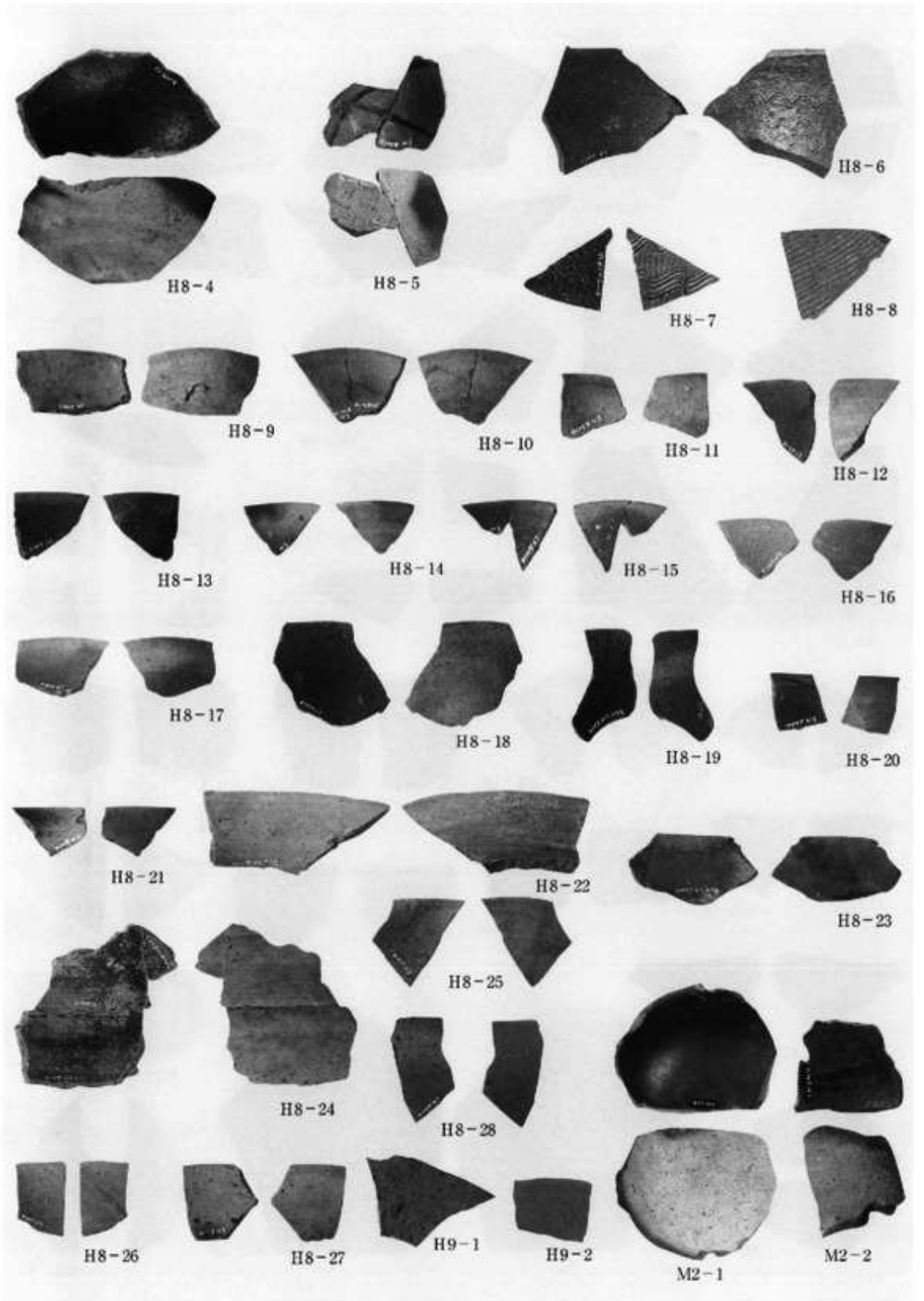
下曽根遺跡Ⅲ H 2 ・ 3 号住居址遺物



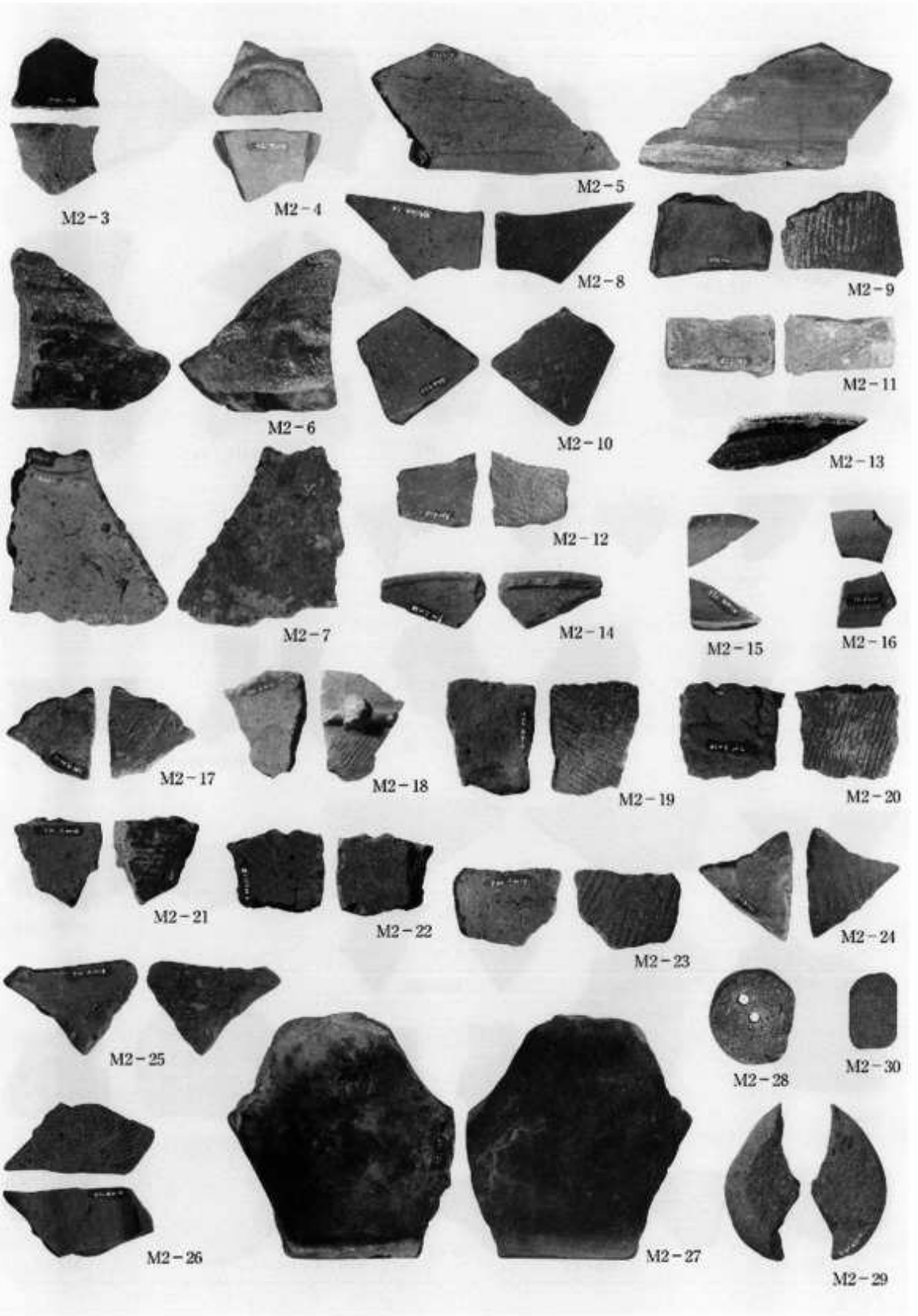
下曽根遺跡Ⅲ H 3 ・ 4 ・ 5 号住居址遺物



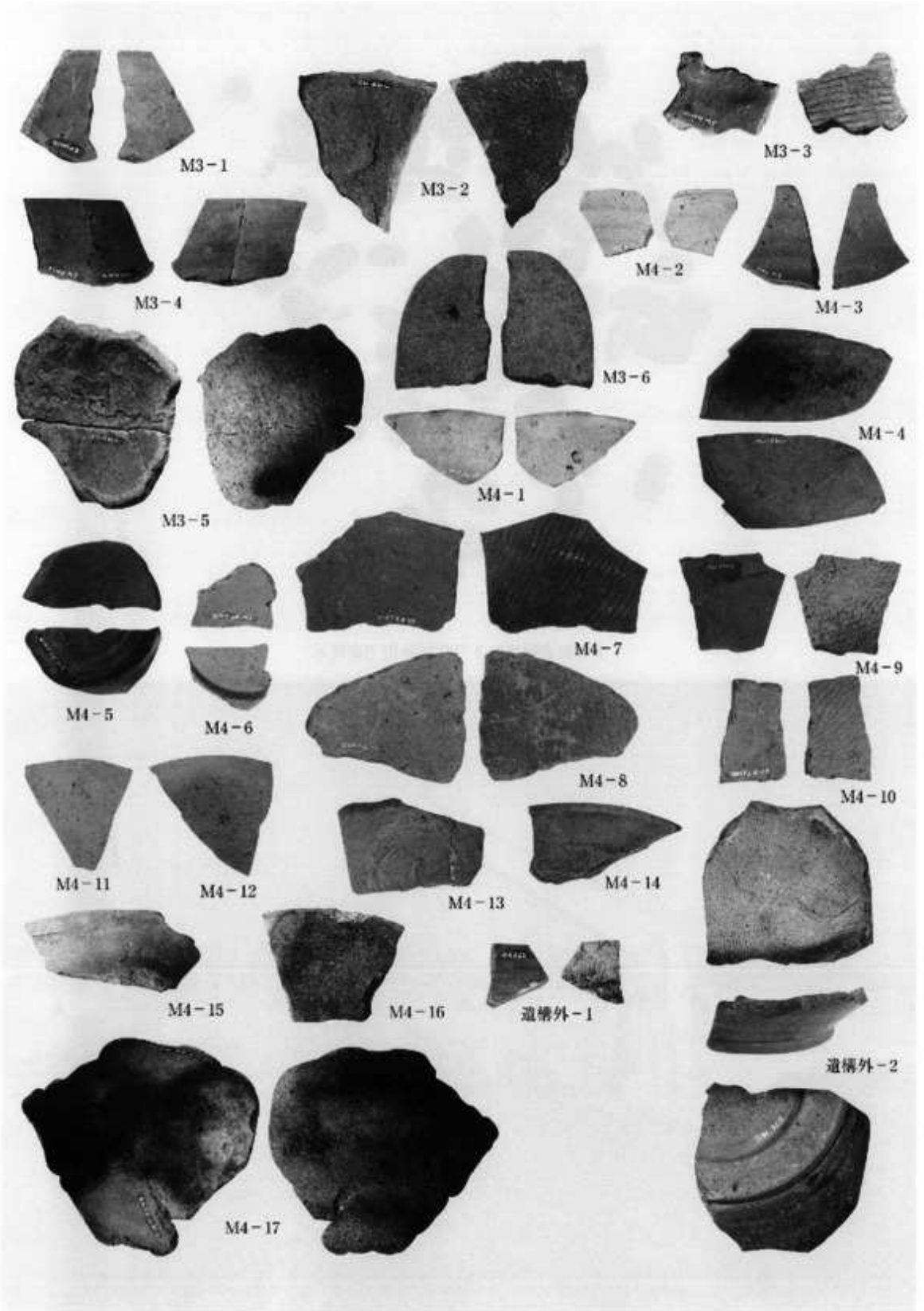
下曽根遺跡Ⅷ H 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8 号住居址遺物



下曽根遺跡Ⅷ H 8 ・ 9 号住居址・M 2 号溝跡遺物



下曽根遺跡Ⅷ M 2 号溝跡遺物



下曽根遺跡Ⅲ M３・４号溝跡、遺構外遺物

下曽根遺跡ⅧH 9 号住居址出土炭化米

前田遺跡Ⅴ・鋳師屋遺跡Ⅲ遠景（南から）

前田遺跡Ⅴピット（南から）

前田遺跡Ⅴ調査状況（南から）

前田遺跡Ⅴ土層断面

前田遺跡Ⅴ調査風景（北から）

鋳師屋遺跡Ⅲ調査風景（南から）

鋳師屋遺跡Ⅲ調査風景（南から）

鋳師屋遺跡Ⅲ遺構検出状況（南から）

鋳師屋遺跡Ⅲ溝跡完掘状況（南から）

鋳師屋遺跡Ⅲ調査状況（北から）

鋳師屋遺跡Ⅲ溝跡土層断面

報告書抄録

書名	曽根城遺跡Ⅳ　芝宮遺跡群下曽根遺跡Ⅷ 前田遺跡群前田遺跡Ⅴ　鋳師屋遺跡群鋳師屋遺跡Ⅲ
ふりがな	そねじょういせきよん　しばみやいせきぐんしもそねいせきはち まえだいせきぐんまえだいせきご　いもじやいせきぐんいもじやいせきさん
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第133集
編著者名	上原学
編集・発行機関	佐久市教育委員会
発行年月日	2006.3.31
郵便番号	385－0006
電話番号	0267－68－7321
住所	長野県佐久市志賀5953
遺跡名	曽根城遺跡Ⅳ(OSJⅣ)　芝宮遺跡群下曽根遺跡Ⅷ(OSSⅧ) 前田遺跡群前田遺跡Ⅴ(OIMⅤ)　鋳師屋遺跡群鋳師屋遺跡Ⅲ(OIYⅢ)
遺跡所在地	曽根城遺跡Ⅳ　佐久市小田井字曽根城　188-4. 191-3. 193-3. 194-6. 194-7 小諸市大字御影新田字西海地　119-5. 122-7 芝宮遺跡群下曽根遺跡Ⅷ　佐久市小小田井字穴沢　143-3. 131-3. 130-6. 130-7. 129-3 前田遺跡群前田遺跡Ⅴ　佐久市小田井字前田　346-20. 346-18. 290-2. 311-3 鋳師屋遺跡群鋳師屋遺跡Ⅴ　佐久市小田井字鋳師屋　311-3. 311-4. 303-4. 247-3. 240-6
遺跡番号	曽根城遺跡Ⅳ(4)　芝宮遺跡群下曽根遺跡Ⅷ(8) 前田遺跡群前田遺跡Ⅴ(2)　鋳師屋遺跡群鋳師屋遺跡Ⅲ(3)
経度	曽根城遺跡Ⅳ 36－17－44.3681　芝宮遺跡群下曽根遺跡Ⅷ 36－17－39.1762 前田遺跡群前田遺跡Ⅴ 36－18－16.8177　鋳師屋遺跡群鋳師屋遺跡Ⅲ 36－17－57.3478
緯度	曽根城遺跡Ⅳ 138－29－18.4706　芝宮遺跡群下曽根遺跡Ⅷ 138－29－18.3110 前田遺跡群前田遺跡Ⅴ 138－29－19.9091　鋳師屋遺跡群鋳師屋遺跡Ⅲ 138－29－19.9091
調査期間	2003.10.8～2003.11.26、2004.7.26～2004.8.25（現場） 2003.11.27～2006.3.25（整理）
調査面積	曽根城遺跡336㎡　下曽根遺跡304㎡　前田遺跡120㎡　鋳師屋遺跡675㎡
調査原因	交通安全施設等整備事業市道4－1号線（西原敷線）道路改良（歩道設置）
種別	集落址
主な時代	古墳～中世
遺跡概要	曽根城遺跡Ⅳ 遺構　竪穴住居址6軒（古墳～奈良1軒、奈良時代1軒、平安時代3軒、不明1軒） 土坑3基、溝跡4条（中世？）、ピット 遺物　土師器（坏・碗・甕・壺・鉢）須恵器（坏・甕）灰釉陶器（皿・碗・壺） 鉄製品（紡錘車・鎌・刀子）石製品・石器（すり石・砥石・敲石・円玉・石鏃） 芝宮遺跡群下曽根遺跡Ⅷ 遺構　竪穴住居址9軒（奈良時代3軒、平安時代6軒）土坑1基（縄文時代落とし穴） 溝跡4条（中世？）掘立柱建物址1棟、ピット 遺物　土師器（坏・碗・甕）須恵器（坏・甕・壺・蓋）灰釉陶器（皿・碗・壺）陶器（擂鉢）土鋲、鉄製品（針状製品）石製品（砥石・鍋戸）炭化米 前田遺跡群前田遺跡Ⅴ　遺構　ピット 鋳師屋遺跡群鋳師屋遺跡Ⅲ　遺構　溝跡3条
特記事項	調査の結果、縄文時代の落とし穴、古墳時代後期～平安時代の住居址（7世紀～10世紀前半）、掘立柱建物址1棟、ピット、中世と考えられる溝跡を発見した。遺物は土器、鉄製品、石製品、石器、炭化米が出土した。

佐久市埋蔵文化財調査報告書　第133集

曽根城遺跡Ⅳ
芝宮遺跡群　下曽根遺跡Ⅷ
前田遺跡群　前田遺跡Ⅴ
鋳師屋遺跡群　鋳師屋遺跡Ⅲ

編集・発行　長野県佐久市教育委員会
長野県佐久市中込3056
文化財課
長野県佐久市志賀5953
電話　0267－68－7321

印刷所　株式会社 ダンバラ印刷